

I 調査の概要

1 調査の目的

性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮できる、男女共同参画社会の実現をめざして策定した「第4次大東市男女共同参画社会行動計画（カラフルプラン）」を見直すにあたり、計画づくりの基礎資料とするため、男女共同参画に関する意識調査を行いました。

2 調査対象

市民意識調査：大東市在住の20歳以上75歳未満の市民

3 調査時期

令和4年10月～令和4年12月（督促はがき送付を1回実施）

4 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
1,000 通	372 通	37.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査結果のまとめ

1. あなたやご家族について

<集計・分析>

- ・性別、年齢構成については、前回調査よりも50～59歳代が増加し、70歳以上が減少しています。
- ・「結婚していない」男性が前回調査よりも9ポイント程度増加しています。
- ・仕事については、「正規雇用」の割合が男性55%に対して女性20%となっており大きな差がみられます。
- ・女性の主な仕事は「非正規雇用」や「家事専業」となっていますが、前回調査と比較すると「正規雇用」の割合が増加し、「家事専業」の割合が減少しています。

2. 男女平等と性別役割分担について

<集計・分析>

- ・男女平等については、「学校・教育の場」を除き、多くの場面や分野で、「男性が優遇されている」との意識が高くなっています。特に女性は男性よりもその傾向が強く、家庭での日常生活や会社などでの具体的事例と結びついていると考えられます。
- ・「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担については、否定的な意見が前回調査より増加しており、全国調査の結果と比較しても、本市調査結果は固定的性別役割分担を否定する意見が男女とも高く、市民の意識の高さをみることができます。
- ・家庭内の役割分担（配偶者のいる方への質問）については、「生活費を得るのは夫」との考えが多く、家庭内の様々な仕事（作業）については、ほとんど妻の役割としています。
- ・家庭内の役割分担については、性別に関わらず“満足”の割合が高くなっていますが、女性は「家族がしないから」の割合が男性よりも高く、やむを得ず家庭内の様々な仕事（作業）を引き受けている傾向もあります。
- ・役割分担の満足度については、女性で『掃除・洗濯』『食事のしたく』で「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた“満足していない”の割合が高くなっています。一方で、男性で『掃除・洗濯』『食事のしたく』で「満足」と「ある程度満足」を合わせた“満足”の割合が高くなっています。

<課題>

- ・前回調査との比較では、女性で「学校・教育の場」を除き、「男性が優遇されている」と感じている人は増加しています。今後もあらゆる分野における男女共同参画意識のさらなる啓発が必要です。

- ・ 固定的性別役割分担を否定している人は増加しているものの、実際の生活面においては「生活費を得るのは夫」、「家庭内の仕事は妻」と大部分において役割分担が行われているのが現状です。男女共同参画の視点から男女が共に学び、話し合い、理解し合いながら、固定的性別役割分担を改善していくことが必要です。

3. 働き方と暮らし方の調和について

<集計・分析>

- ・ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」については、男女ともに「仕事」「家庭生活」の両方を大切にしたいとの希望を持っています。しかし、現状、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」を優先している割合が高く、希望と現状に大きな差があります。
- ・ 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「長時間労働の削減や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」の割合が最も高くなっています。

<課題>

- ・ 男性が家庭や地域に参加していくためには、事業者等に対して、ワーク・ライフ・バランスや育児休業など制度に関する情報提供や、具体的な制度設計が進むように啓発することが必要です。
- ・ 自らの意志でワーク・ライフ・バランスを実践していくために、結婚生活や就労を始める前から、家庭生活と就労のことについて学ぶ機会が必要です。

4. 女性と職業について

<集計・分析>

- ・ 女性が職業を持つことに対しては男女とも肯定的な意見が多く、女性の主体的な判断を重視する意見も多くなっています。「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が前回より9ポイント程度増加しています。
- ・ 女性が職業を持つことに消極的な理由は、仕事と家庭の両立の難しさだけでなく、男性の家事・育児・介護等への理解・参加の不十分さがあげられます。
- ・ 女性が退職した理由について、「職場における結婚・出産を機に退職する雰囲気や慣習」は前回より11ポイント程度減少しています。しかし、「家事や育児との両立が難しかった」が前回より5ポイント程度増加しています。妊娠・出産が就労における大きな契機となっています。
- ・ 仕事を離れることなく女性が働き続けていく職場にするために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境」の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム制などを導入すること」の割合が高くなっています。

- ・女性の活躍が進むためには、「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」「保育の施設・サービスの充実」の割合が高くなっています。

<課題>

- ・事業者等において、男女がともに仕事と家庭の両立を可能とする取り組みを検討するとともに、結婚・出産を機に退職する職場の雰囲気や慣習をなくしていくために、女性に対する職域や職務の固定化をなくし、やりがいや将来性を見出せる環境づくりや、退職した女性が社会へ復帰しやすい仕組みづくりを事業者等へ促していく必要があります。

5. 男女間の暴力について

<集計・分析>

<DV・デートDVの判断>

- ・前回よりDVと判断する意識は高まっていますが、「自分を常に優先してほしいと言う」「常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする」等相手への過干渉や自己中心的な振る舞いなどのDV・デートDVについては、認識が低い状況にあります。

<DV・デートDVの経験>

- ・男女とも、DV・デートDVの経験者は少なくなっていますが、男性よりも女性の経験者が多く、「言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる」(23.8%)、「大声でどなる」(23.8%)、「物をこわしたり、物を投げる」(17.8%)、「しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く」(14.4%)、「容姿や人格について傷つくことを言う」(13.9%)、「常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする」(13.9%)、「なぐる、ける、突き飛ばす」(12.4%)、「外出を制限する」(11.4%)など、様々なDV・デートDVの経験があると回答しています。
- ・DV・デートDVの被害を受け、実際に相談したのは女性で29.9%、男性で7.3%に過ぎません。相談先は「友人、知人」「親、祖父母、兄弟姉妹、親族」が多く、女性で公的な機関への相談は少なくなっています。
- ・DV・デートDVの被害者のうち、相談をしなかった人の理由は「相談するほどたいしたことでもないと思った」、「自分さえ我慢すればよいと思った」、「誰(どこ)に相談しても無駄だと思った」、「自分にも非があると思った」、など、DVへの理解や危険性についての認識が十分でないことがうかがえます。

<課題>

- ・全体として、前回調査よりDVか否かを「わからない」と回答した割合が減少し、「DVと思う」の割合が増加しています。しかし、「DVではないと思う」の割合が増加している項目もあり、DVの未然防止を図るため、DV・デートDVについての正しい理解と危機意識を促す学習機会や情報提供などの啓発強化が必要です。
- ・DVやデートDVによる被害が深刻になる前に、少しでも早く行動し、早期解決につながるよう、相談窓口の周知と利用促進についての働きかけが必要です。

6. 様々な活動と男女共同参画について

<集計・分析>

- ・災害時において、「避難所の設備（プライバシー空間の確保、男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」の改善は重要であり、男女とも最も高いニーズとなっています。
- ・女性が政策決定の場に参画するために必要なことは、「女性が参画することへの抵抗感をなくす」、「女性自身が積極的な参画意識を持ち、行動すること」、「女性の活動を支援する人・組織・ネットワークの充実」など、男女とも多項目に意見が分散しており、課題が多岐にわたっていることがうかがえます。

<課題>

- ・災害時においては、男性を中心とした活動により女性への配慮が不十分になることが指摘されています。女性が安心できる避難生活を構築するため、阪神淡路大震災や東日本大震災での避難所における被災者支援の実態と課題を活かし、積極的に女性の視点や女性が参画する場を整備し、意見を反映していくことが必要です。
- ・政策決定の場への女性の参画が増えるよう、周囲の理解や女性の意識の向上、能力開発の機会等を充実させるなど、あらゆる方策を考えていく必要があります。

7. 男女共同参画に関する法律や言葉、ことばについて

<集計・分析>

- ・言葉の認知について、「育児・介護休業法」、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」「ジェンダー（社会的・文化的性差）」は認知率が80%を超えるほど高くなっていますが、その他の法律や社会用語は50%程度でした。本市の「大東市男女共同参画社会行動計画（カラフルプラン）」「大東市男女共同参画推進条例」の認知率は、ともに20%以下であり、いまだ浸透していない状況です。

<課題>

- ・法制度についての認知率は高くなってきていますが、市政に関する認知率が低いことから、今後もさまざまな機会をとらえて広報・啓発していく必要があります。

8. ダイバーシティ、多様性について

<集計・分析>

- ・LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）についての認知率は、「言葉も意味も両方知っている」の割合が46.2%、「言葉だけは知っている」の割合が35.2%、「言葉も知らない」の割合が15.9%となっています。
- ・LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）にとって、生活しやすい社会だと思うかについては、「どちらかといえばそう思う」の割合が43.8%と最も高く、次いで「そう思う」の割合が35.5%となっています。

<課題>

- ・LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）については、メディアの影響もあり言葉についての認知は広がっているものの、内容まで知っている人は半数に満たない状況である。誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）への理解・啓発を行う必要があります。

9. 行政への要望

<集計・分析>

- ・「男女がともに仕事と家事や育児・介護などを両立できるような支援・サービスを充実する」との要望が女性、男性とも最も多くなっています。また、学校教育、社会教育、企業内研修などでの学習や啓発などのソフト面での支援も指摘されています。

<課題>

- ・仕事と家庭や育児・介護などの両立支援や相談体制、学校や社会での人権尊重と男女共同参画の学習、女性の自立や社会参画の支援など、様々な場で多様な取組を進めていくことが重要です。

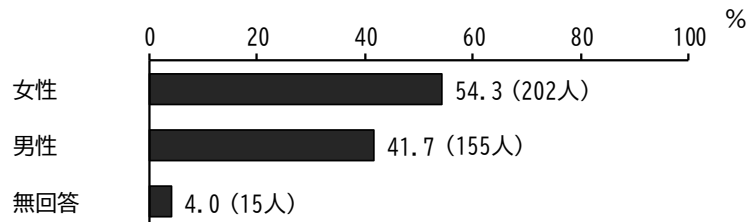
Ⅲ 調査結果

1 あなたやご家族について

問1 あなたの性別をご記入ください。

「女性」の割合が54.3%、「男性」の割合が41.7%となっています。

N = 372



問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

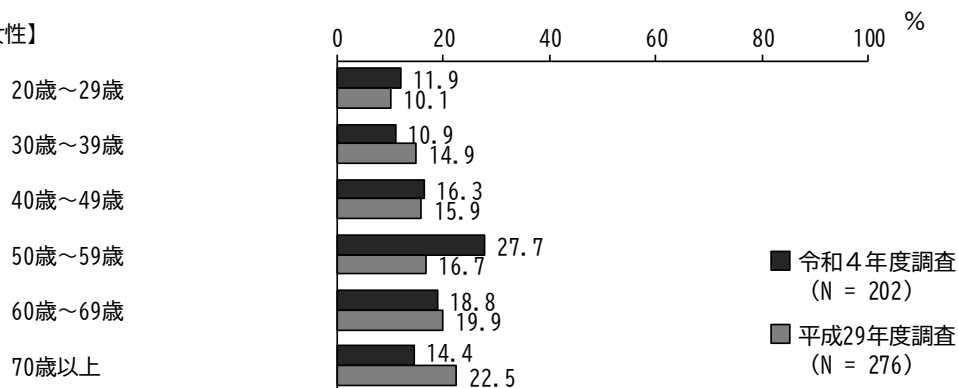
女性は、「50歳～59歳」(27.7%)の割合が最も高く、次いで「60歳～69歳」(18.8%)、「40歳～49歳」(16.3%)となっています。

男性は、「50歳～59歳」(27.1%)の割合が最も高く、次いで「40歳～49歳」(20.6%)、「60歳～69歳」(17.4%)となっています。

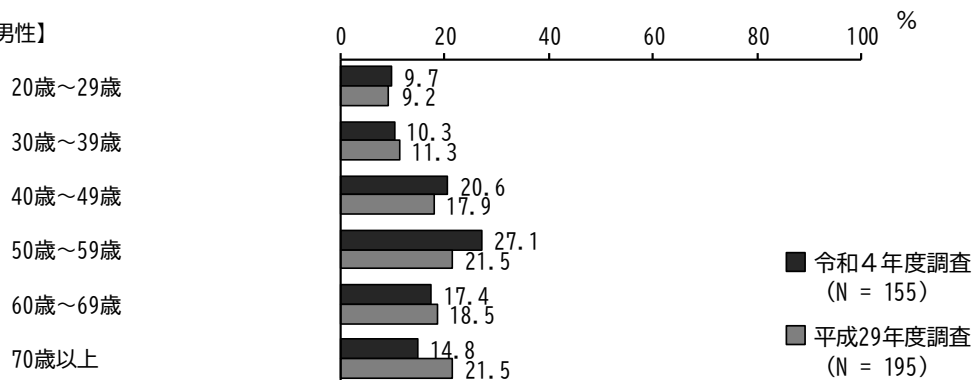
「20歳～59歳」の若年・中年層の割合は、女性66.8%、男性67.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、男女とも「50歳～59歳」の割合が増加し、「70歳以上」の割合が減少しています。

【女性】

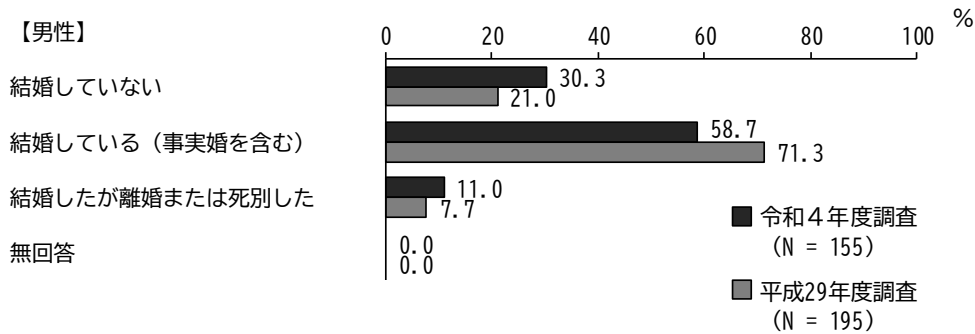
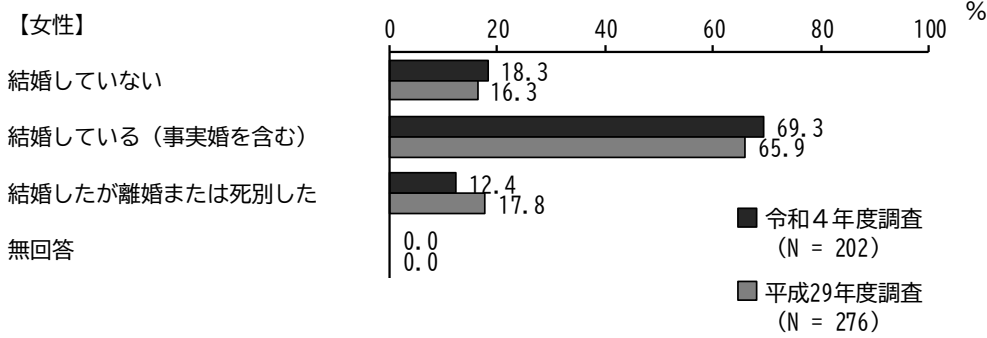


【男性】



問3 あなたは現在結婚していますか。(○は1つ)

女性は「結婚している（事実婚含む）」が69.3%、「結婚していない」が18.3%となっています。
男性は「結婚している（事実婚含む）」が58.7%、「結婚していない」が30.3%となっています。
平成29年度調査と比較すると、男性の「結婚していない」が21.0%から30.3%へ9.3ポイント増加し、女性の「結婚したが離婚または死別した」が17.8%から12.4%へ5.4ポイント減少しています。



【性・年齢別】

年齢別にみると、女性は「20歳～29歳」で「結婚していない」の割合が高く、「30歳以上」では「結婚している（事実婚を含む）」の割合が高くなっています。

男性は、「20歳～29歳」、「30歳～39歳」で「結婚していない」の割合が高く、「40歳以上」では「結婚している（事実婚を含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	N (件)	結婚していない	結婚している (事実婚を含む)	結婚したが離婚 または死別した	無回答
全体	372	23.9	64.8	11.3	—
女性					
20歳～29歳	24	62.5	37.5	—	—
30歳～39歳	22	36.4	54.5	9.1	—
40歳～49歳	33	18.2	81.8	—	—
50歳～59歳	56	10.7	76.8	12.5	—
60歳～69歳	38	5.3	76.3	18.4	—
70歳以上	29	—	69.0	31.0	—
男性					
20歳～29歳	15	93.3	6.7	—	—
30歳～39歳	16	56.3	43.8	—	—
40歳～49歳	32	40.6	50.0	9.4	—
50歳～59歳	42	21.4	69.0	9.5	—
60歳～69歳	27	3.7	77.8	18.5	—
70歳以上	23	4.3	73.9	21.7	—

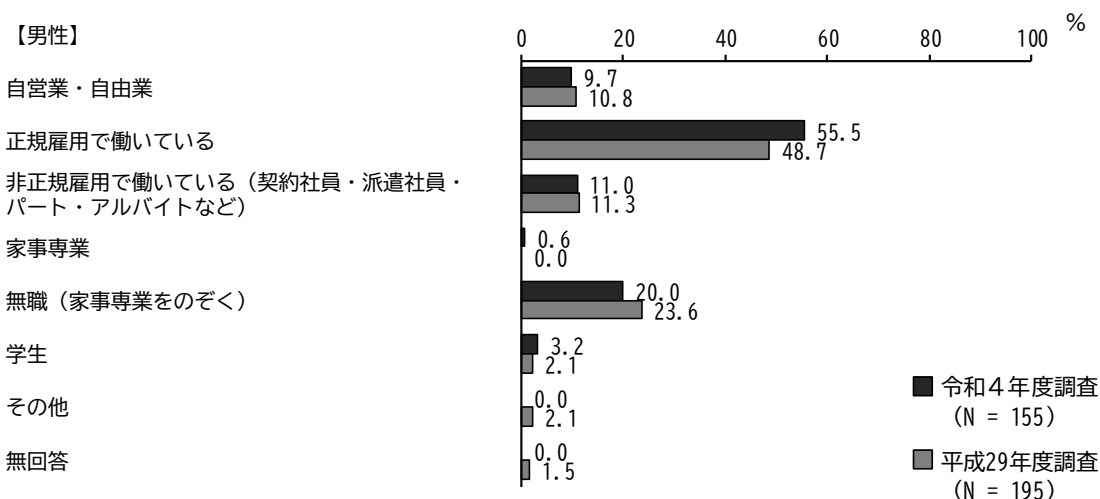
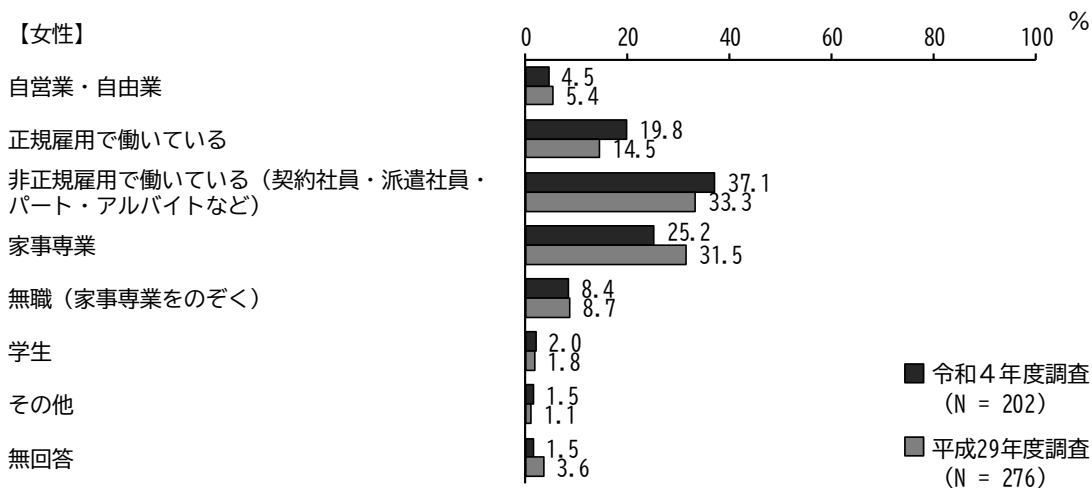
問4 あなたの現在のお仕事は。
配偶者がいる方（事実婚の方を含む）は、配偶者の欄にもご記入ください。

問4-1 あなたの仕事（○は1つ）

女性は、「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」（37.1%）の割合が最も高く、次いで「家事専業」（25.2%）、「正規雇用で働いている」（19.8%）となっています。

男性は、「正規雇用で働いている」（55.5%）の割合が最も高く、次いで「無職（家事専業をのぞく）」（20.0%）、「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」（11.0%）となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「正規雇用で働いている」の割合が増加し、「家事専業」の割合が減少しています。男性は、「正規雇用で働いている」の割合が増加しています。



問4-1 その他回答
家事専業と夫の介護
再雇用
書道教授

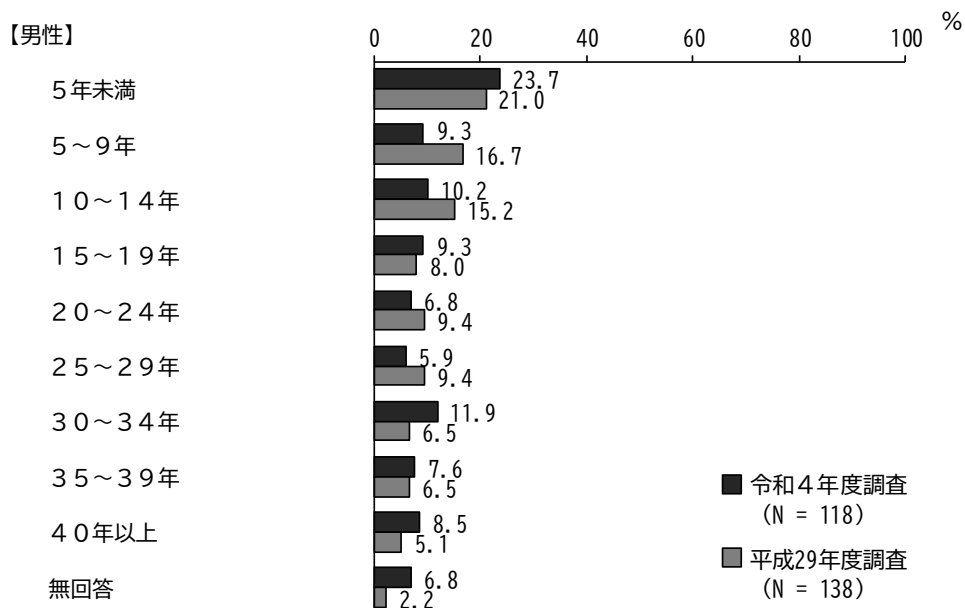
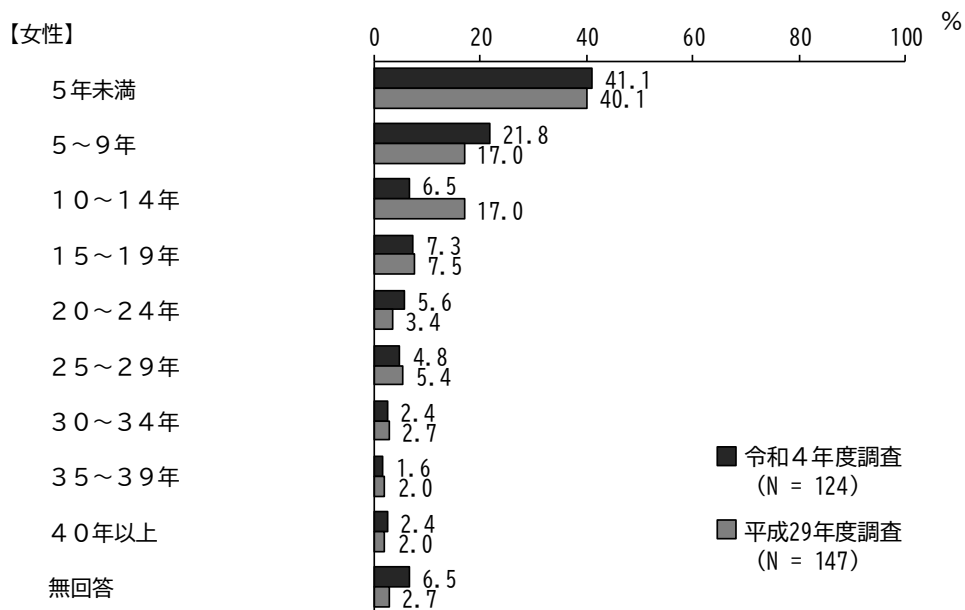
問4-1-① 【問4-1 あなたの仕事で、「1. 自営業・自由業」「2. 正規雇用で働いている」「3. 非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」と答えた人にお聞きします。】

あなたの勤続年数は。

女性の勤続年数は、「5年未満」(41.1%)の割合が最も高く、次いで「5～9年」(21.8%)、「15～19年」(7.3%)となっています。

男性の勤続年数は、「5年未満」(23.7%)の割合が最も高く、次いで「30～34年」(11.9%)、「10～14年」(10.2%)となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「10～14年」の割合が減少しています。男性は「30～34年」の割合が増加しています。一方、「5～9年」の割合が減少しています。



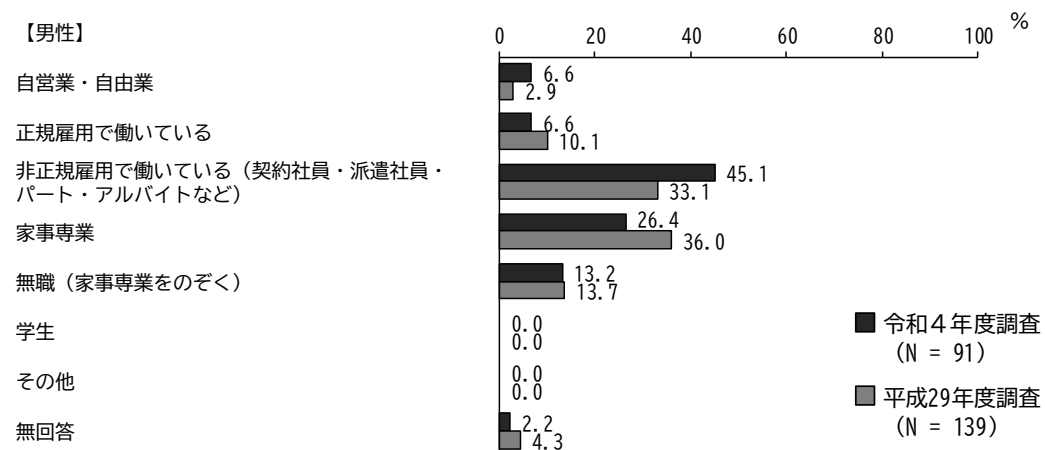
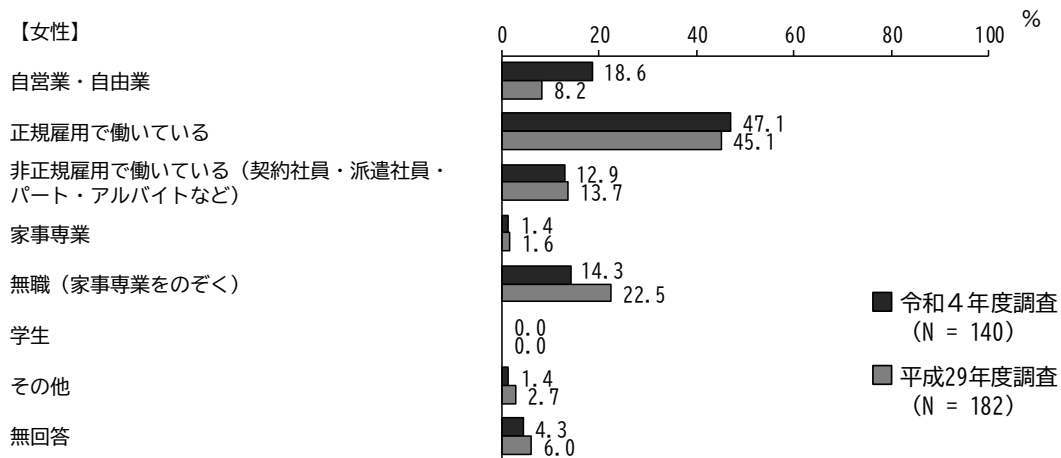
問4-2 配偶者の仕事（○は1つ）

回答者が女性の場合、配偶者の仕事は、「正規雇用で働いている」（47.1%）の割合が最も高く、次いで「自営業・自由業」（18.6%）、「無職（家事専業をのぞく）」（14.3%）となっています。

回答者が男性の場合、配偶者の仕事は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」（45.1%）の割合が最も高く、次いで「家事専業」（26.4%）、「無職（家事専業をのぞく）」（13.2%）となっています。

平成29年度調査と比較すると、回答者が女性の場合、配偶者の仕事は「自営業・自由業」の割合が増加し、「無職（家事専業をのぞく）」の割合が減少しています。

回答者が男性の場合、配偶者の仕事は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」の割合が増加し、「家事専業」の割合が減少しています。



問4-2 その他回答

会社役員

団体職員

配偶者無し

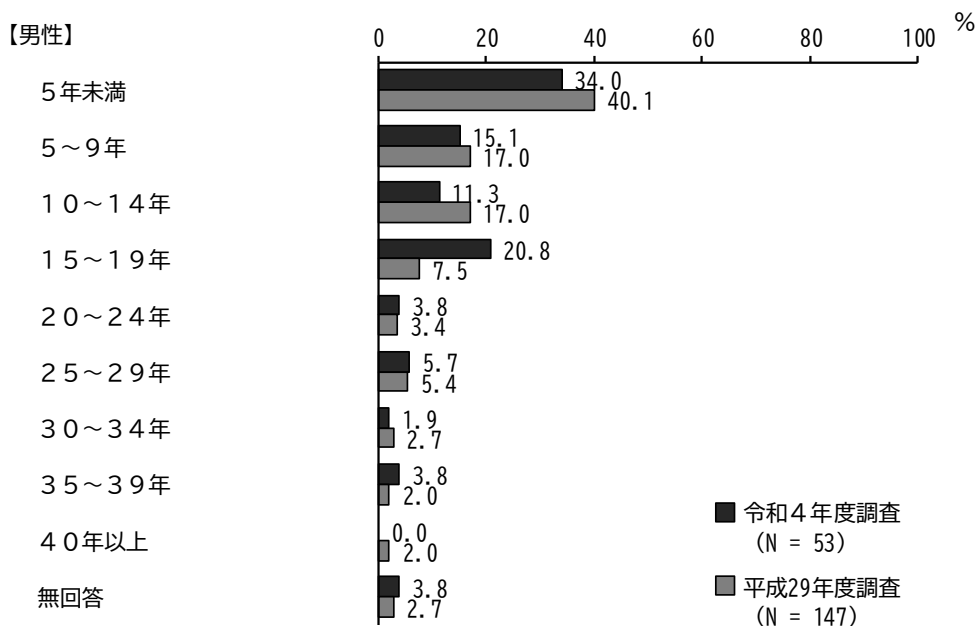
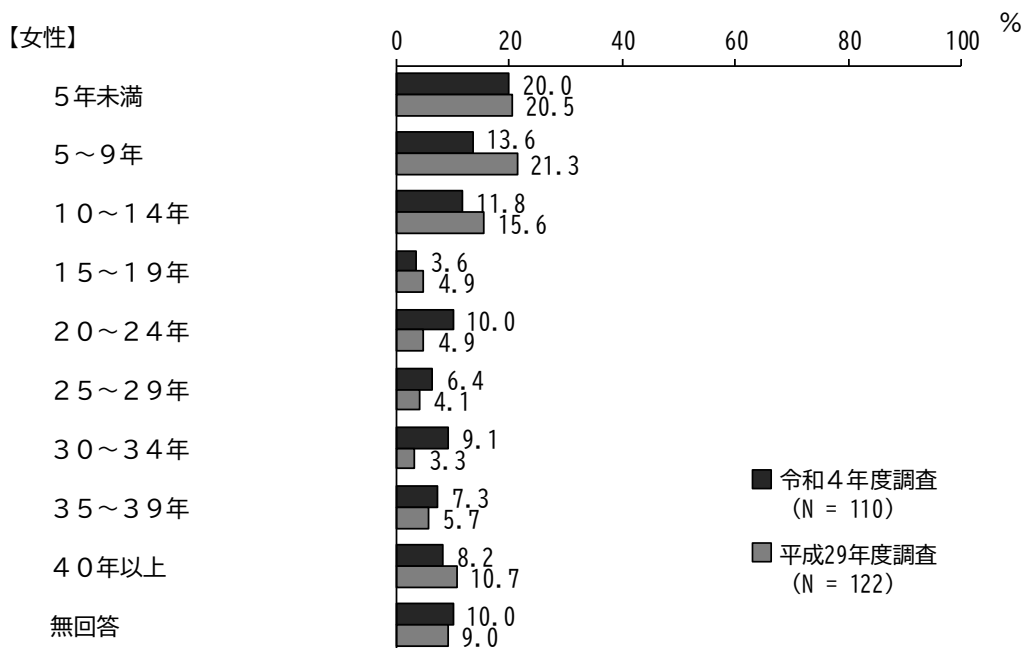
問4-2-① 【問4-2 配偶者の仕事で、「1. 自営業・自由業」「2. 正規雇用で働いている」「3. 非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」と答えた人にお聞きします。】

配偶者の勤続年数は。

回答者が女性の場合、配偶者の勤続年数は、「5年未満」（20.0％）の割合が最も高く、次いで「5～9年」（13.6％）、「10～14年」（11.8％）となっています。

回答者が男性の場合、配偶者の勤続年数は、「5年未満」（34.0％）の割合が最も高く、次いで「15～19年」（20.8％）、「5～9年」（15.1％）となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「20～24年」、「30～34年」の割合が増加し、「5～9年」の割合が減少しています。男性は「15～19年」の割合が増加し、「5年未満」、「10～14年」の割合が減少しています。



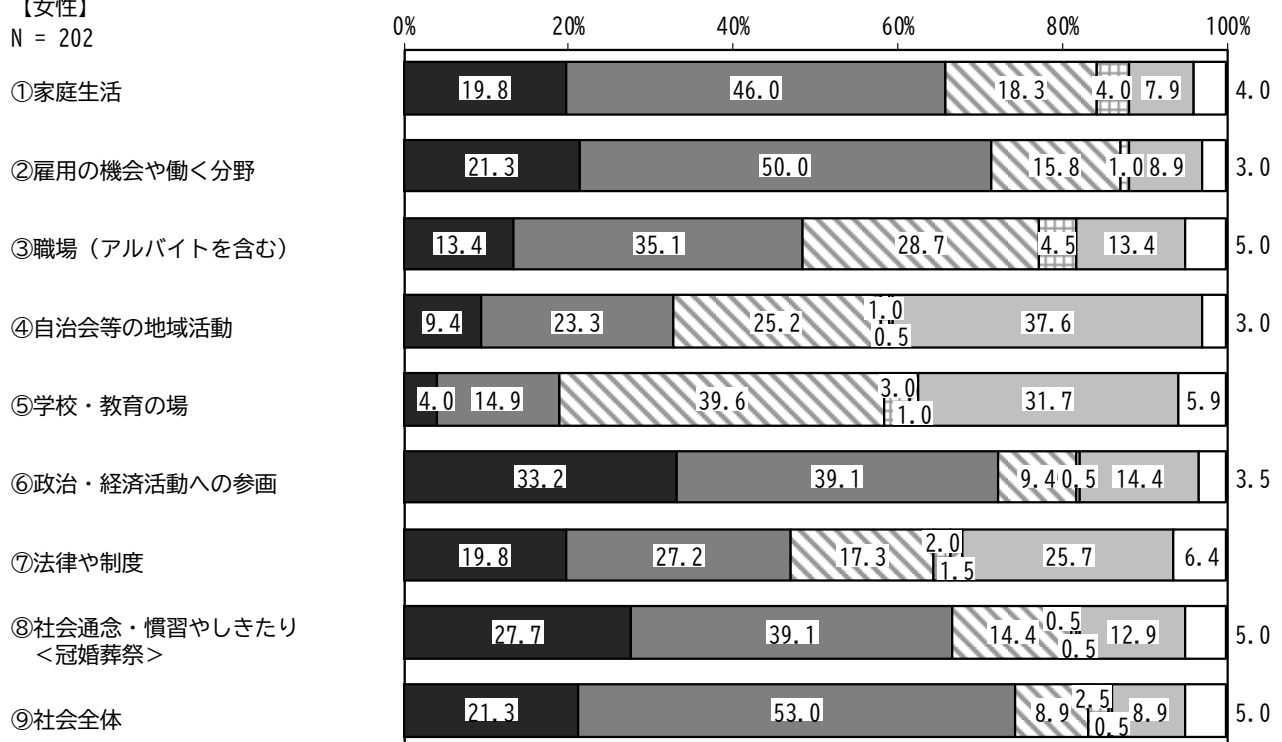
2 男女平等と性別役割分担について

問5 次の各分野において、男女がどの程度、平等になっていると思われますか。

女性では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が『⑨社会全体』(74.3%)、『⑥政治・経済活動への参画』(72.3%)、『②雇用の機会や働く分野』(71.3%)の順で高くなっています。また、『⑤学校・教育の場』(39.6%)で「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

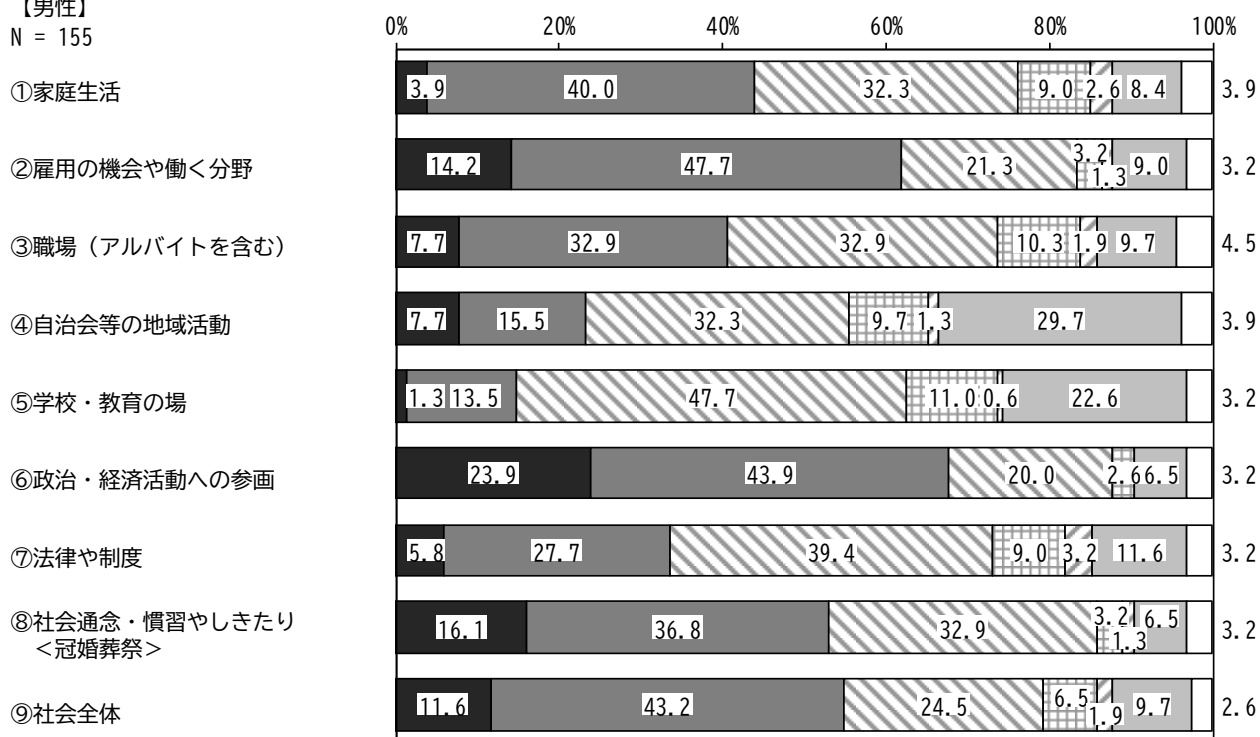
【女性】
N = 202



男性では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が『⑥政治・経済活動への参画』(67.8%)、『②雇用の機会や働く分野』(61.9%)、『⑨社会全体』(54.8%)、『⑧社会通念・慣習やしきたり<冠婚葬祭>』(52.9%)の順で高くなっています。すべての項目において、“平等”と回答している割合が女性よりも高くなっています。

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

【男性】
N = 155



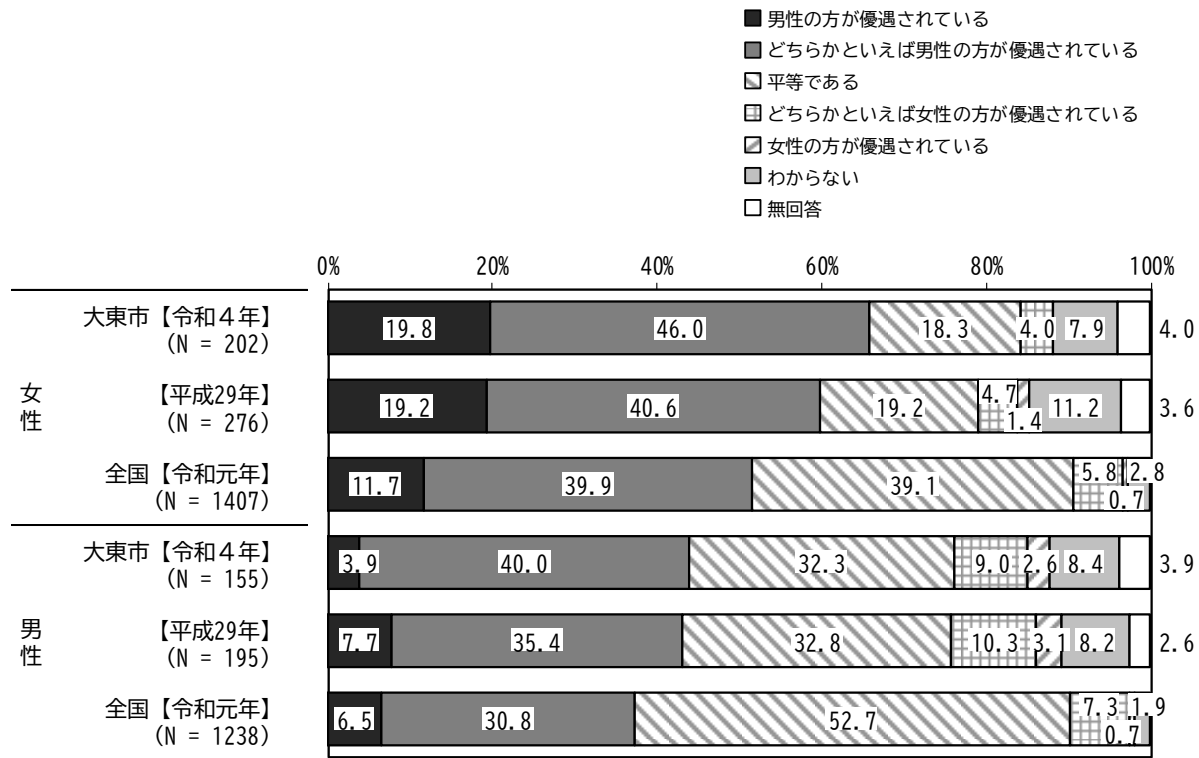
①家庭生活

【経年・全国比較（性別）】

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合は、女性が65.8%、男性が43.9%で男性より女性の方が21.9ポイント高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性が6ポイント増加しています。

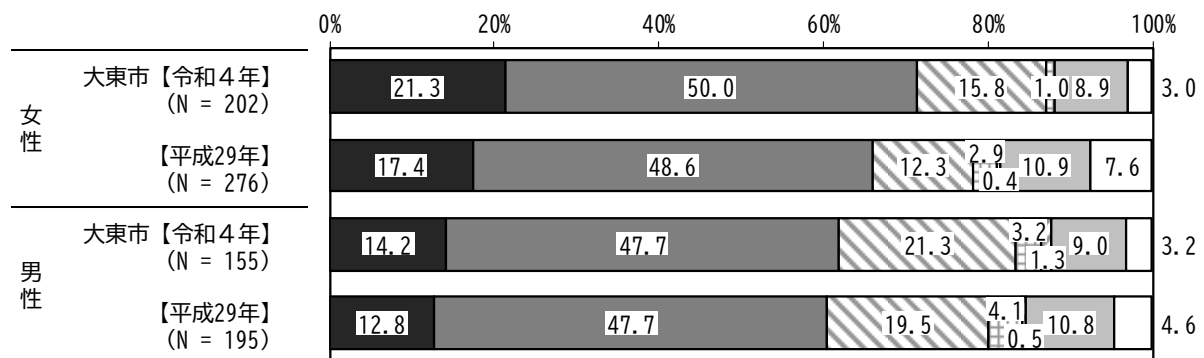
全国調査と比較すると、女性は全国調査51.6%に比べて14.2ポイント高く、男性は全国調査37.3%より6.6ポイント高くなっています。



②雇用の機会や働く分野

【経年比較（性別）】

平成29年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性が5.3ポイント増加しています。



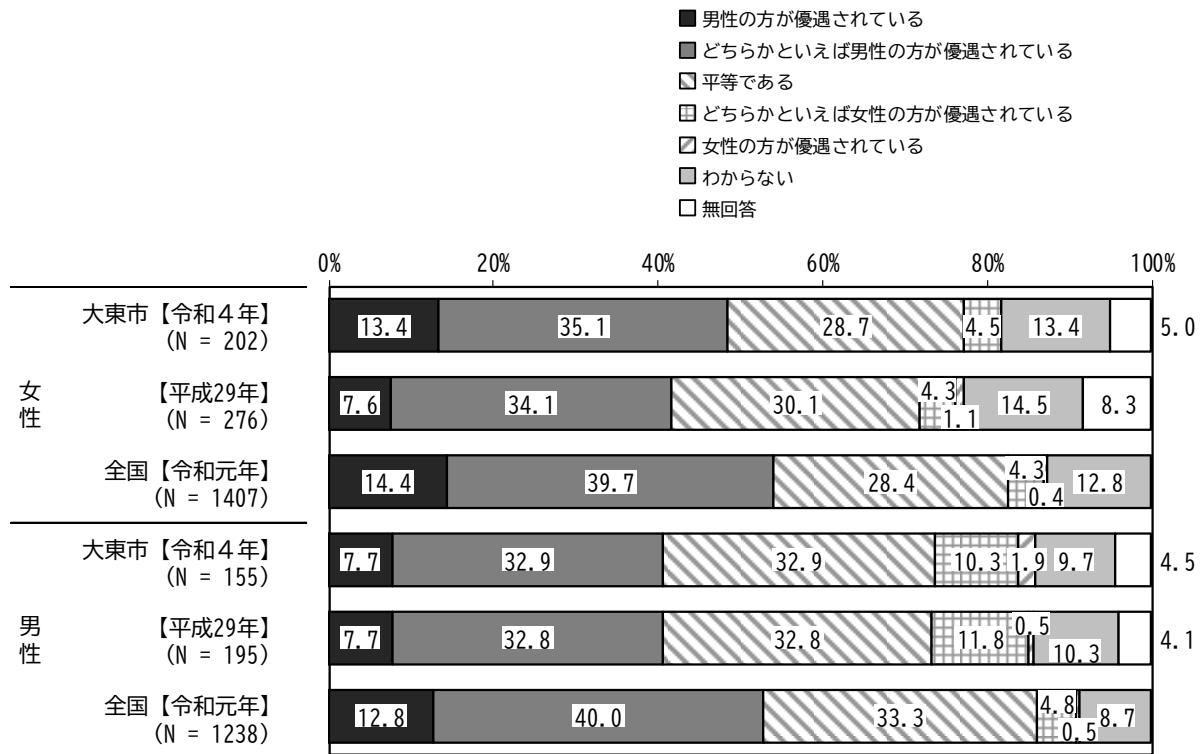
全国調査【令和元年】に調査なし

③職場（アルバイトを含む）

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性が 6.8 ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 54.1% に比べて 5.6 ポイント低く、男性は全国調査 52.8% より 12.2 ポイント低くなっています。

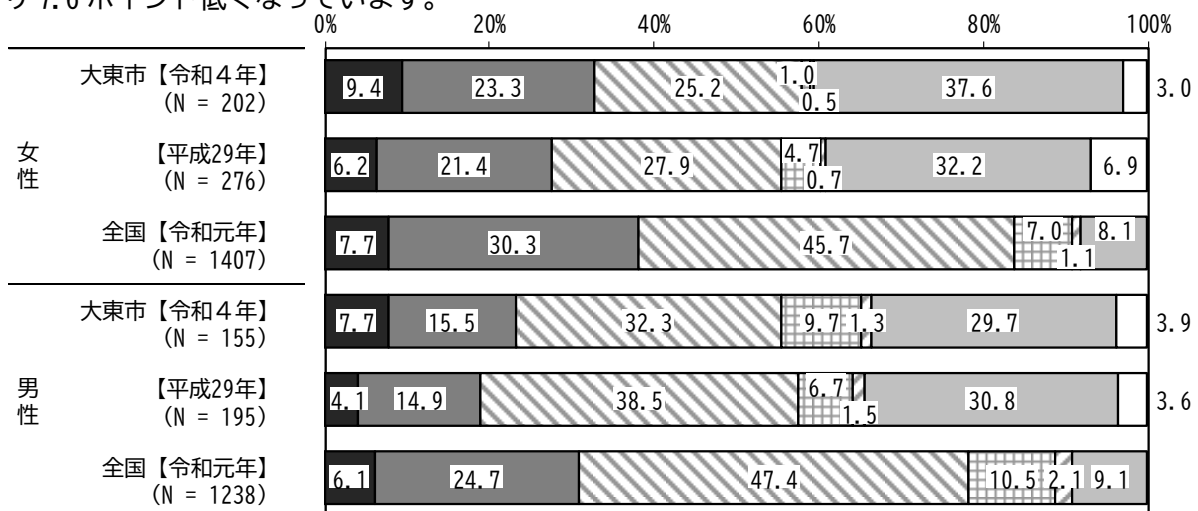


④自治会等の地域活動

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、男女とも増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 38.0% に比べて 5.3 ポイント低く、男性は全国調査 30.8% より 7.6 ポイント低くなっています。

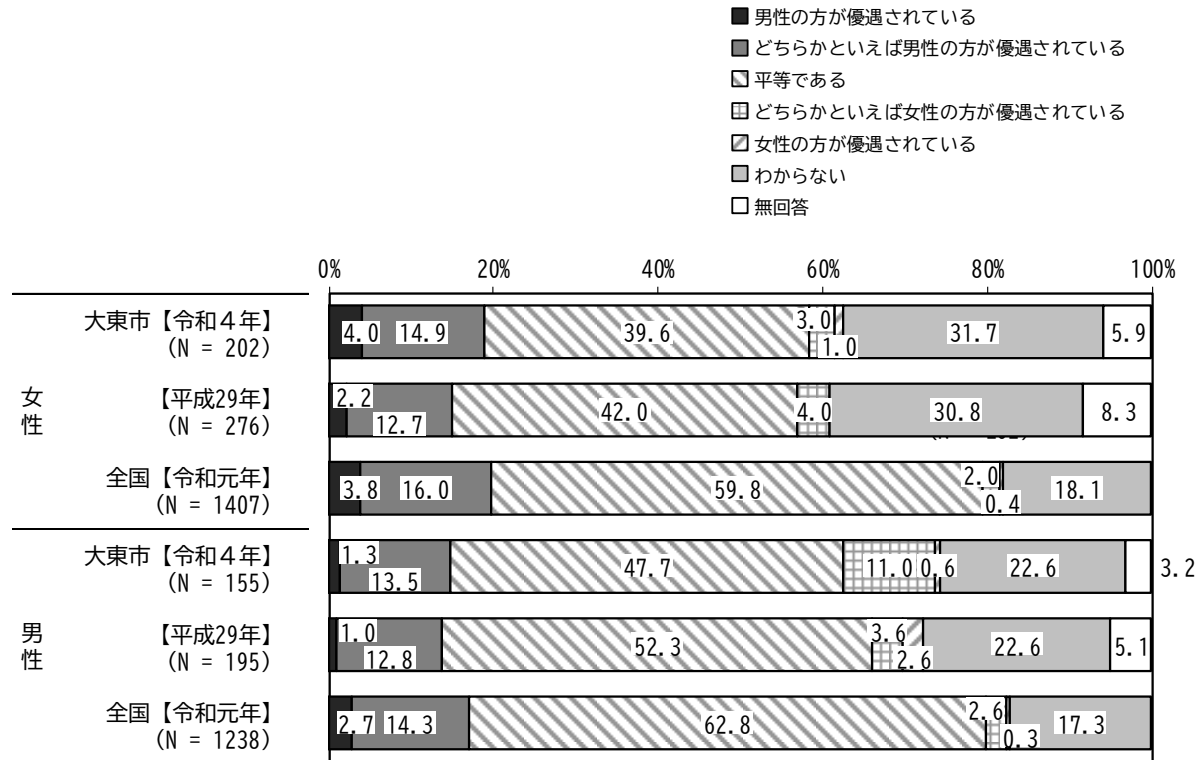


⑤学校・教育の場

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、男女とも大きな変化はみられません。

全国調査と比較すると、性別に関わらず、「平等である」の割合が低くなっています。

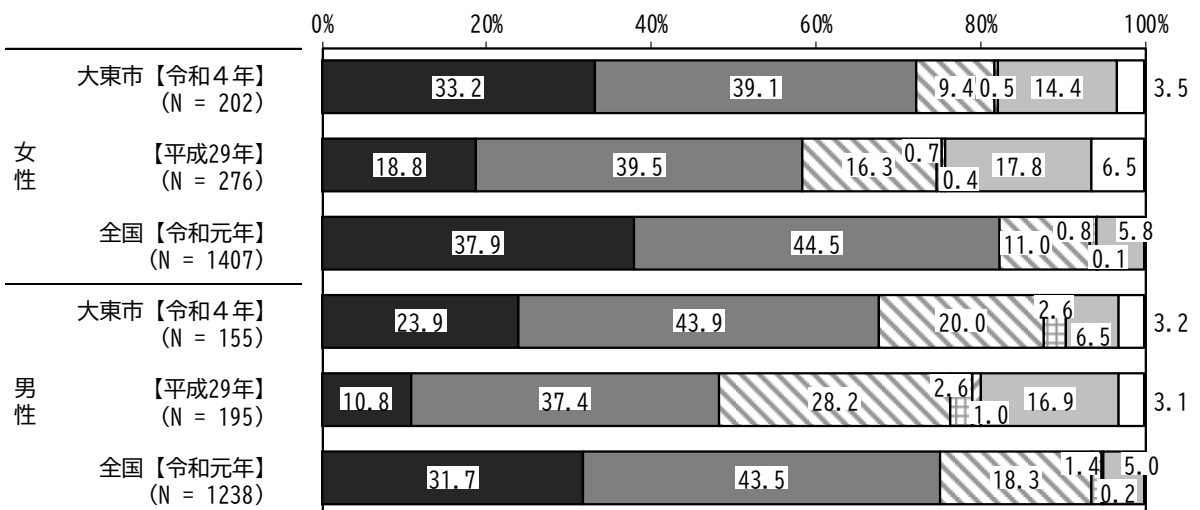


⑥政治・経済活動への参画

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性は 14.0 ポイント増加し、男性は 19.6 ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 82.4% に比べて 10.1 ポイント低く、男性は全国調査 75.2% より 7.4 ポイント低くなっています。

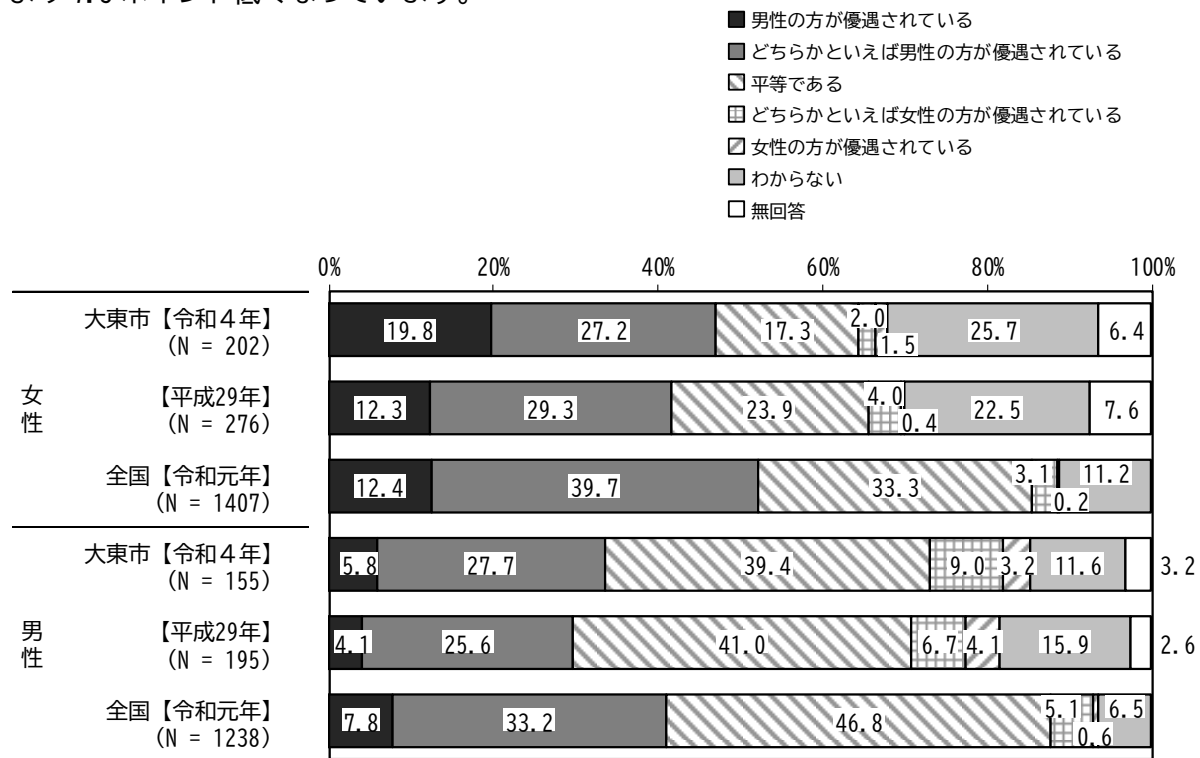


⑦法律や制度

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性は 5.4 ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 52.1% に比べて 5.1 ポイント低く、男性は全国調査 41.0% より 7.5 ポイント低くなっています。

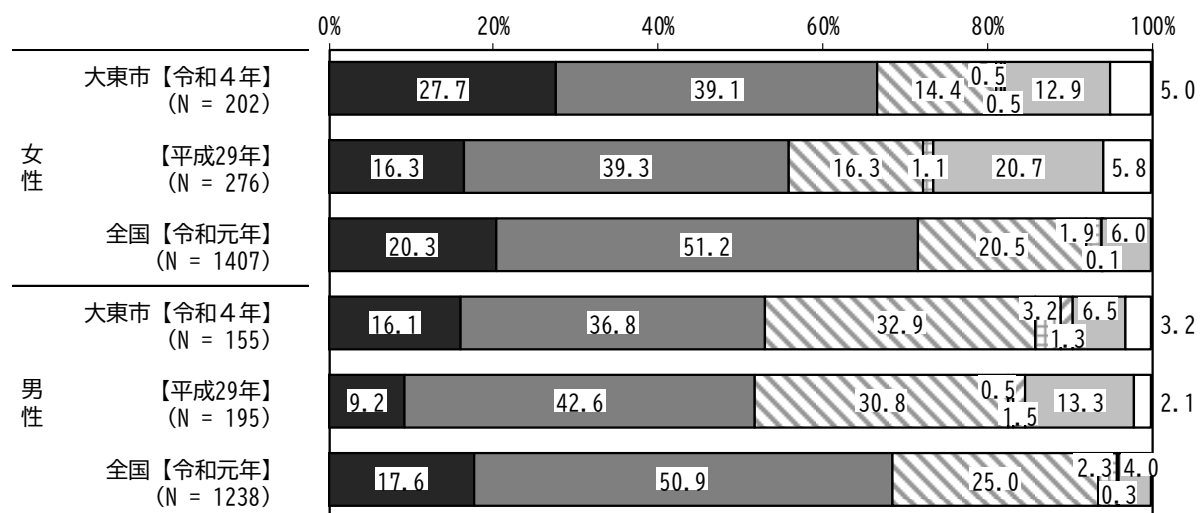


⑧社会通念・慣習やしきたり<冠婚葬祭>

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性は 11.2 ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 71.5% に比べて 4.7 ポイント低く、男性は全国調査 68.5% より 15.6 ポイント低くなっています。

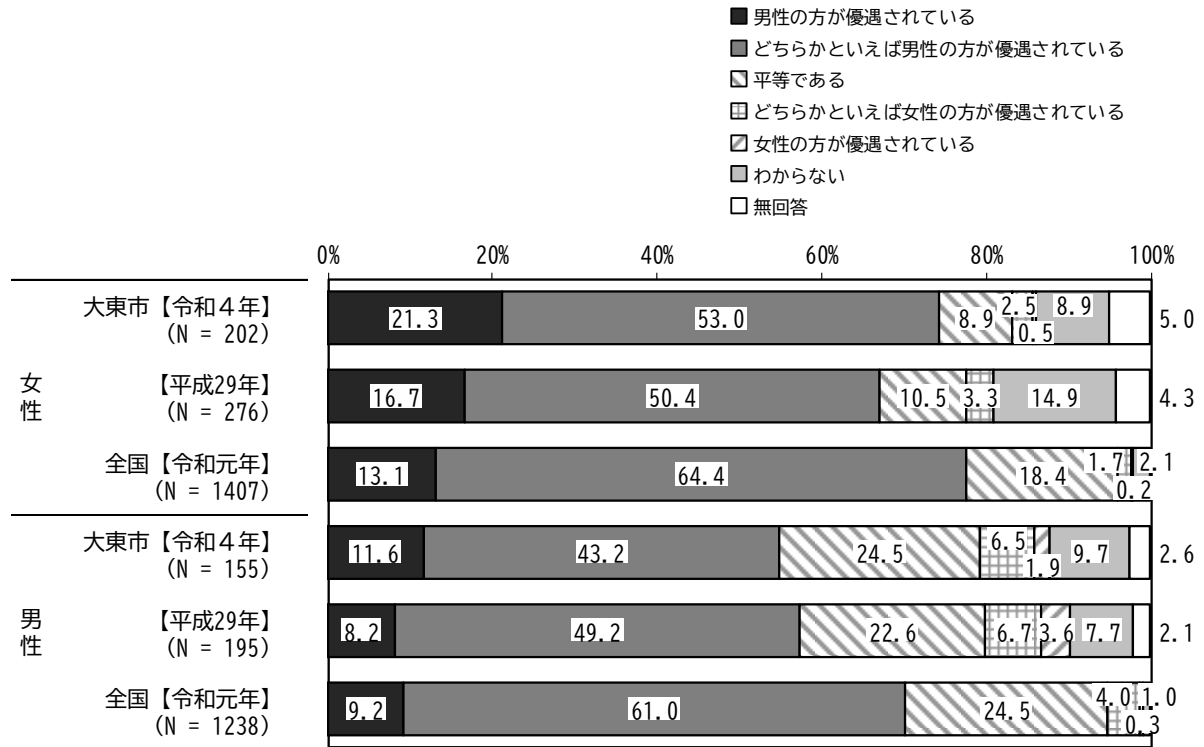


⑨社会全体

【経年・全国比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、“男性優遇”と回答している割合は、女性は 7.2 ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は全国調査 77.5%に比べて 3.2 ポイント低く、男性は全国調査 70.2%より 15.4 ポイント低くなっています。



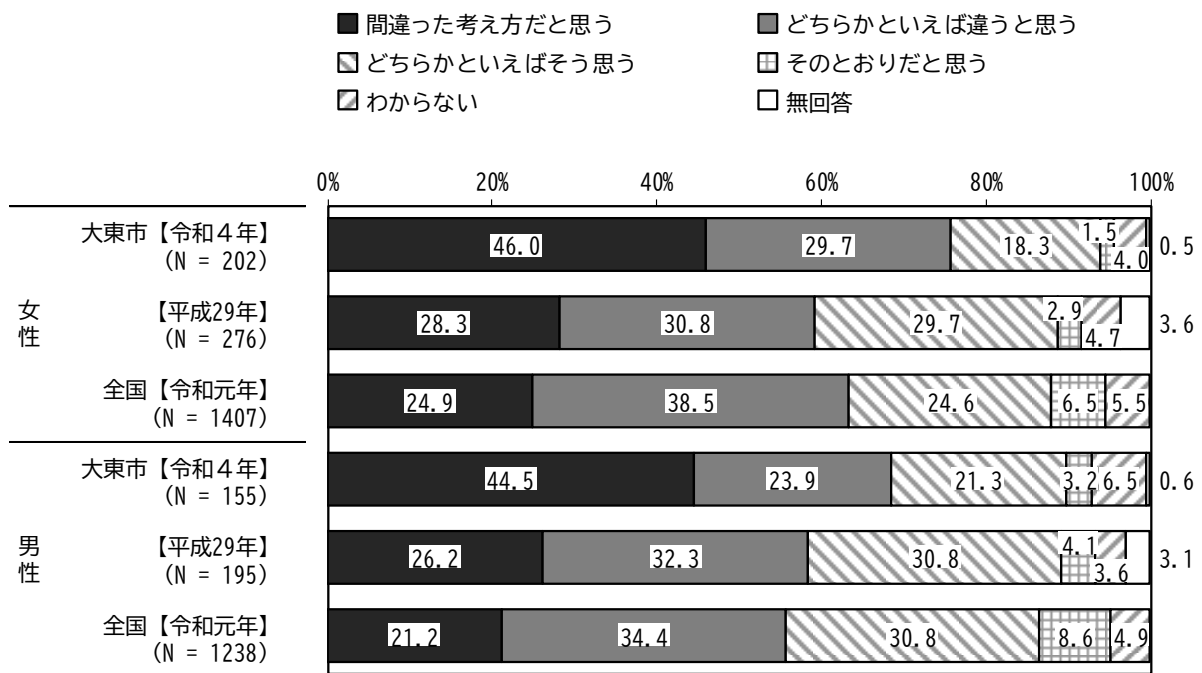
問6 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方について、あなた自身はどう思いますか。(○は1つ)

女性は「間違った考え方だと思う」46.0%と「どちらかといえば違うと思う」29.7%を合わせて、75.7%が“間違った考え方”と回答しています。

男性は「間違った考え方だと思う」44.5%と「どちらかといえば違うと思う」23.9%を合わせて、68.4%が“間違った考え方”と回答しています。

“間違った考え方”と回答している割合を平成29年度調査と比較すると、女性は16.6ポイント増加し、男性は9.9ポイント増加しています。

全国調査と比較すると、女性は63.4%より12.3ポイント高く、男性は55.6%より12.8ポイント高くなっています。



【性・年齢別】

女性では、「20歳～29歳」で「間違っただ考え方だと思う」と「どちらかといえば違うと思う」を合わせた“間違っただ考え方”の割合が最も高くなっており、次いで「30歳～39歳」、「40歳～49歳」となっています。

男性では、「50歳～59歳」で“間違っただ考え方”の割合が最も高くなっており、次いで「30歳～39歳」、「20歳～29歳」となっています。

単位：％

区分	N (件)	間違っただ考え方 だと思う	どちらかといえ ば違うと思う	どちらかといえ ば正しいと思う	そのとおりだ と思う	わからない	無回答
全 体	372	46.0	26.3	19.1	2.7	5.1	0.8
女性							
20歳～29歳	24	70.8	16.7	4.2	8.3	—	—
30歳～39歳	22	59.1	27.3	9.1	—	4.5	—
40歳～49歳	33	42.4	36.4	21.2	—	—	—
50歳～59歳	56	37.5	39.3	16.1	—	7.1	—
60歳～69歳	38	47.4	28.9	21.1	—	2.6	—
70歳以上	29	34.5	17.2	34.5	3.4	6.9	3.4
男性							
20歳～29歳	15	60.0	13.3	6.7	6.7	13.3	—
30歳～39歳	16	50.0	25.0	18.8	—	6.3	—
40歳～49歳	32	37.5	31.3	28.1	3.1	—	—
50歳～59歳	42	40.5	38.1	16.7	—	4.8	—
60歳～69歳	27	48.1	11.1	22.2	3.7	11.1	3.7
70歳以上	23	43.5	8.7	30.4	8.7	8.7	—

問6-① 【問6で、「3. どちらかといえばそう思う」「4. そのとおりだと思う」と答えた方におたずねします。】

それはなぜですか。(○は主なもの3つ以内)

女性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(72.5%)の割合が最も高く、次いで「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(55.0%)、「固定的な男性と女性の役割分担をしたほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(45.0%)となっています。

男性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(60.5%)の割合が最も高く、次いで「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(42.1%)、「固定的な男性と女性の役割分担をしたほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから」(39.5%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	固定的な男性と女性の役割分担をしたほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	わからない	その他	無回答
全体	81	43.2	64.2	49.4	18.5	6.2	-	7.4	1.2
女性	40	45.0	72.5	55.0	17.5	2.5	-	7.5	2.5
男性	38	39.5	60.5	42.1	18.4	10.5	-	7.9	-

問6-1 その他回答

男女逆のパターンも考えられるから。

性別だけで向き不向きを決めるのはおかしい。

実際、自身が仕事をしながら、互いに家事をして支え合っているから。

女が仕事を選ぶと少子化が止まらない。子どもを産めるのは女だから。

女性は男性を支える役目だと思います。

ある講義で内職や畑仕事を入れれば日本では女性の就業率はかなり高いと聞いた事があります。その延長で給与が低いのをカバーするため「女性の社会参加」と大義名分を打って女性を外で働かせる風潮が悪い意味で急激な社会変化を起こしていると思っています。アメリカ的に男性の意識改革と社会変化を起こさなければ、いつまでも「男は仕事、女は家庭」の言葉は悪い意味で残ると思います。

環境によるものだ。

実際の問題として現代は核家庭が主流で高齢出産が多く、それに伴い両親の援助を得にくい世の中なので、やはりそうせざるを得ないと言うのが現状じゃないかと思っています。

問6-② 【問6で、「1. 間違っただ考え方だと思う」「2. どちらかといえば違うと思う」と答えた方におたずねします。】

それはなぜですか。(○は主なもの3つ以内)

女性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」(81.7%)の割合が最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」(37.3%)、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(25.5%)となっています。

男性では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」(72.6%)の割合が最も高く、次いで「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(31.1%)、「男女平等に反すると思うから」(29.2%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親も家事・育児・介護を両立しながら働いていたから	わからない	その他	無回答
全体	269	78.8	27.1	21.6	33.1	9.3	5.6	0.7	7.8	2.6
女性	153	81.7	25.5	22.2	37.3	10.5	5.2	1.3	9.2	2.6
男性	106	72.6	31.1	21.7	29.2	7.5	6.6	—	5.7	2.8

問6-2 その他回答

時代錯誤だから。

性別でなく、個で考えるべきだと思うので。

結婚は仕事も家庭も両方できる人たちがすることだから。

私は女性だが、家事は苦手で仕事が好きだから。

できる人がやる。

私たちの親の代から、男尊女卑の固定観念が根付いていたため、パートナー（夫）は甘えて育ててきたため、当然と思っていることが間違っている。

全ての人に当てはまらない、人それぞれ違うので役割分担が正しいケースも間違っているケースもあると思うから。

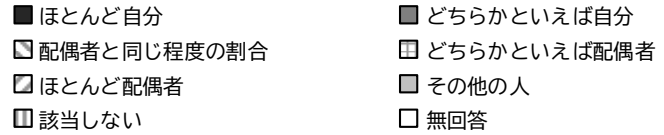
家事・育児・介護等生活全般において、男女共に行うことが家族だと思う。

男性だけ働いたら家庭が裕福になる可能性は今の時代限りなく少なく、一般的には共働きしてギリギリの生活をしていると感じるため。

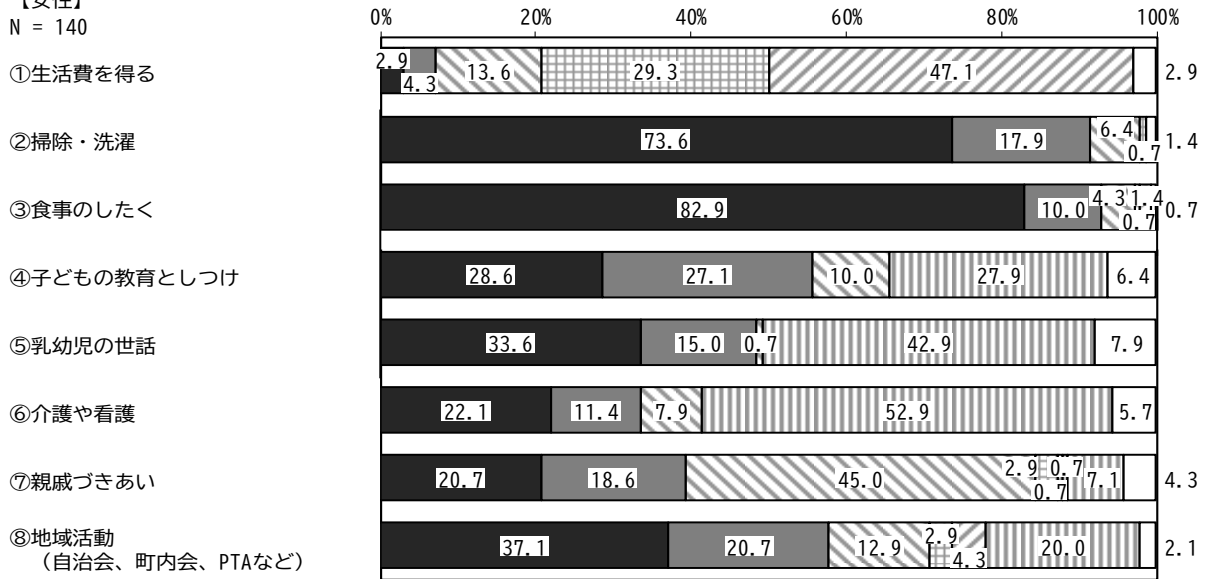
その他 10件

問7 配偶者のいる方（事実婚の方を含む）にお聞きします。次のような家庭内の仕事について、あなたのご家庭では、実際にはどなたが主に担当されていますか。

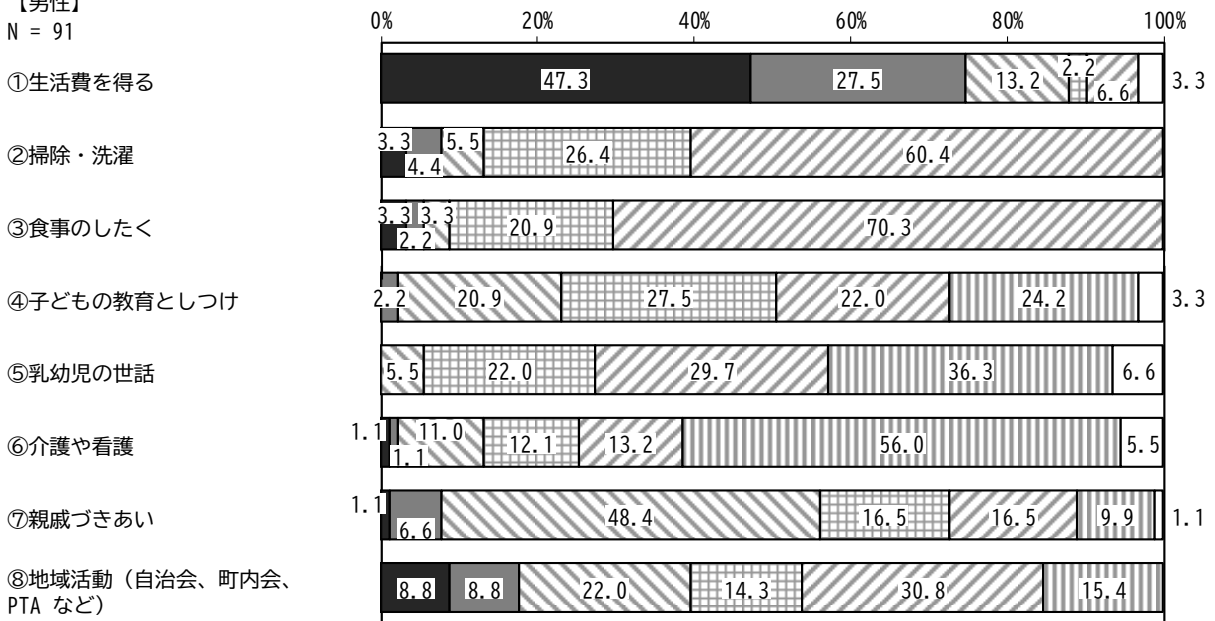
『①生活費を得る』を除いた項目で、男性に比べ、女性で「ほとんど自分」の割合が高くなっています。



【女性】
N = 140



【男性】
N = 91

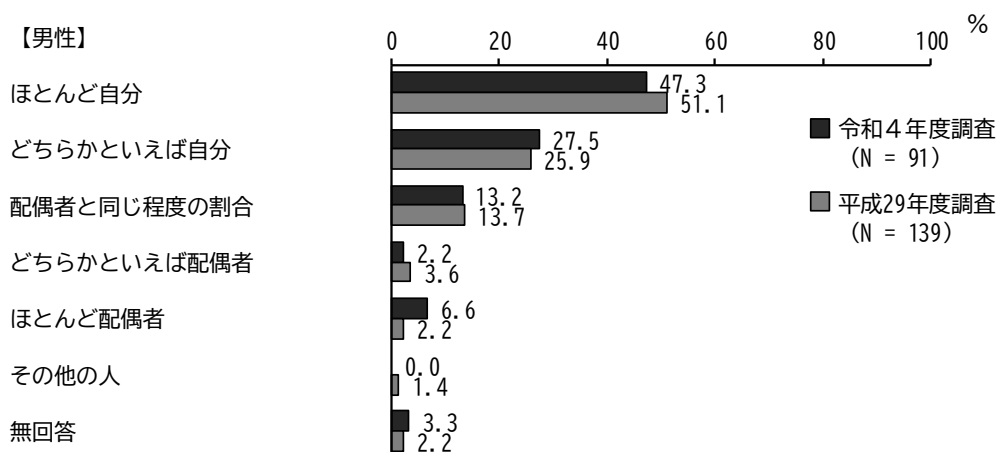
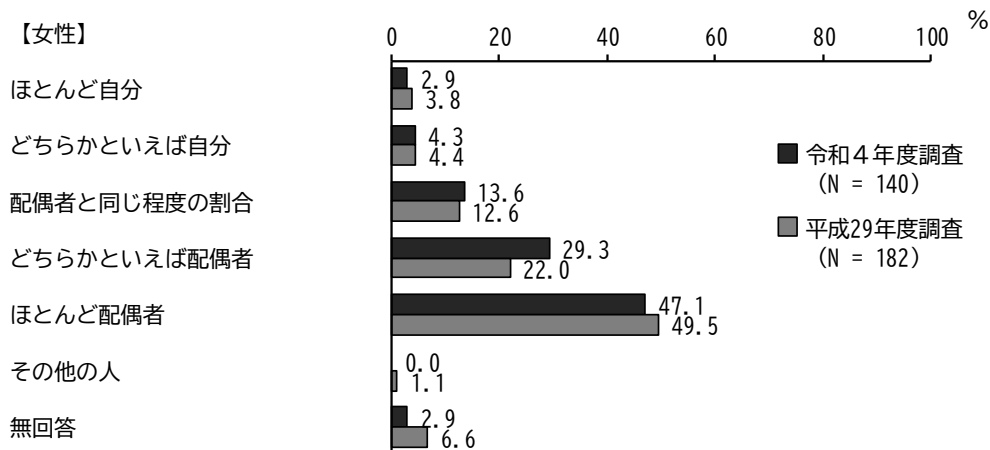


※『①生活費を得る』『②掃除・洗濯』『③食事のしたく』に「該当しない」の選択肢はありません。

①生活費を得る

【経年比較（性別）】

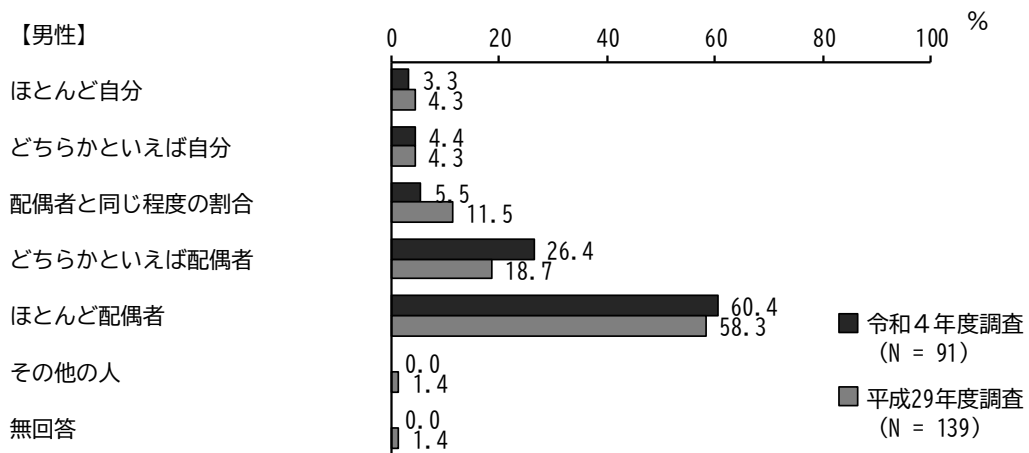
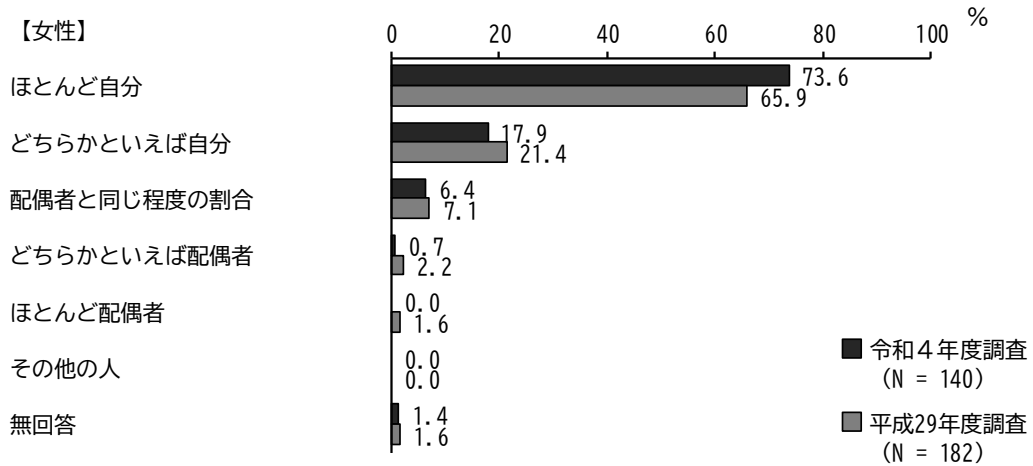
女性で「どちらかといえば配偶者」と「ほとんど配偶者」を合わせた、また、男性で「ほとんど自分」と「どちらかといえば自分」を合わせた“夫が担当”と回答している割合を平成29年度調査と比較すると、女性は増加し、男性は大きな変化はみられません。



②掃除・洗濯

【経年比較（性別）】

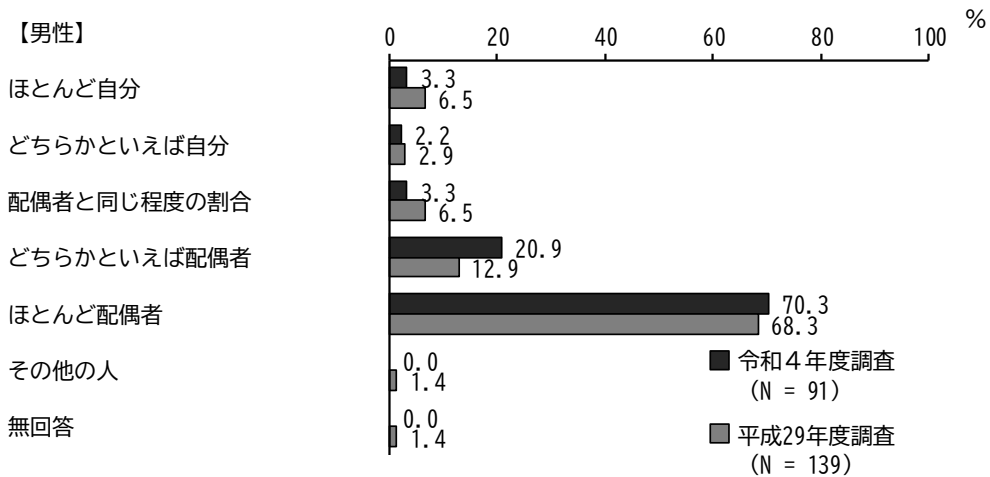
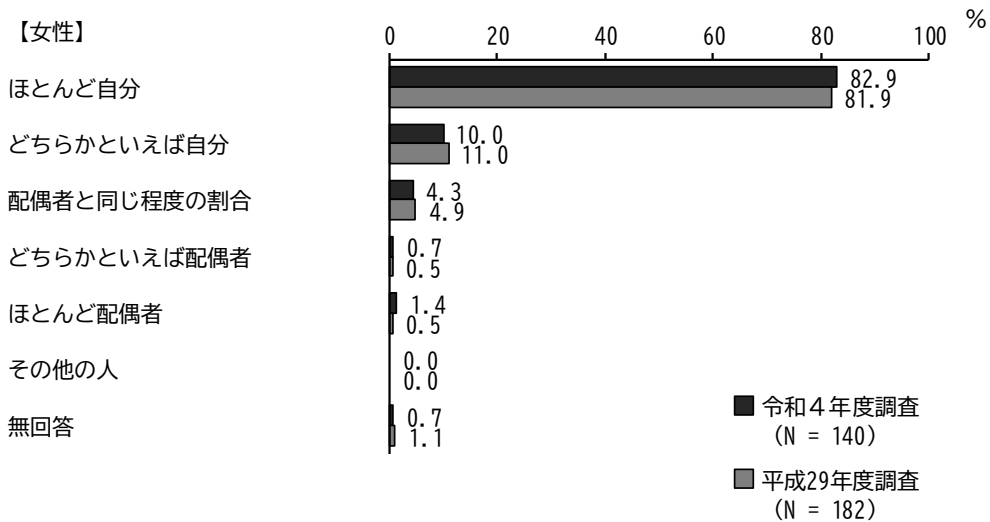
女性で「ほとんど自分」を平成29年度調査と比較すると割合が増加しています。また、男性で「どちらかといえば配偶者」と「ほとんど配偶者」を合わせた“妻が担当”を平成29年度調査と比較すると割合が増加しています。



③食事のしたく

【経年比較（性別）】

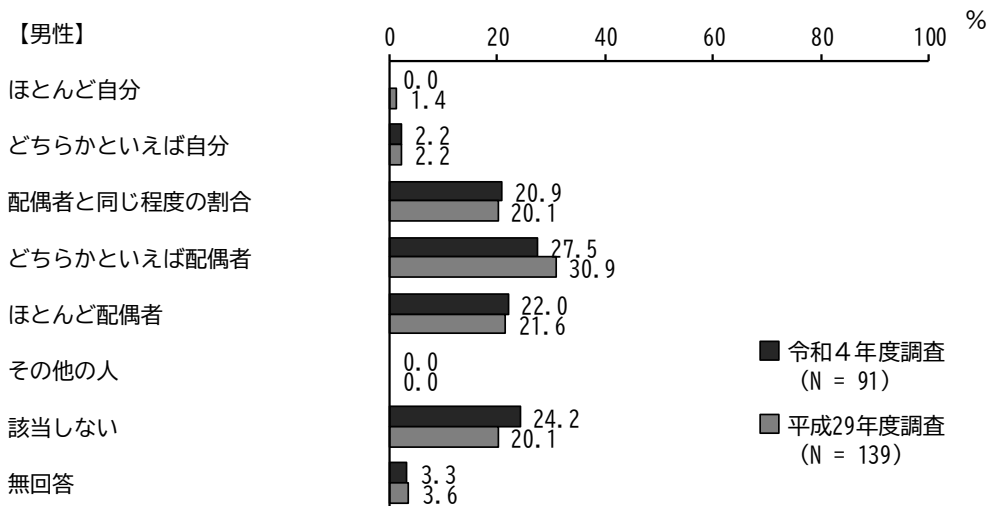
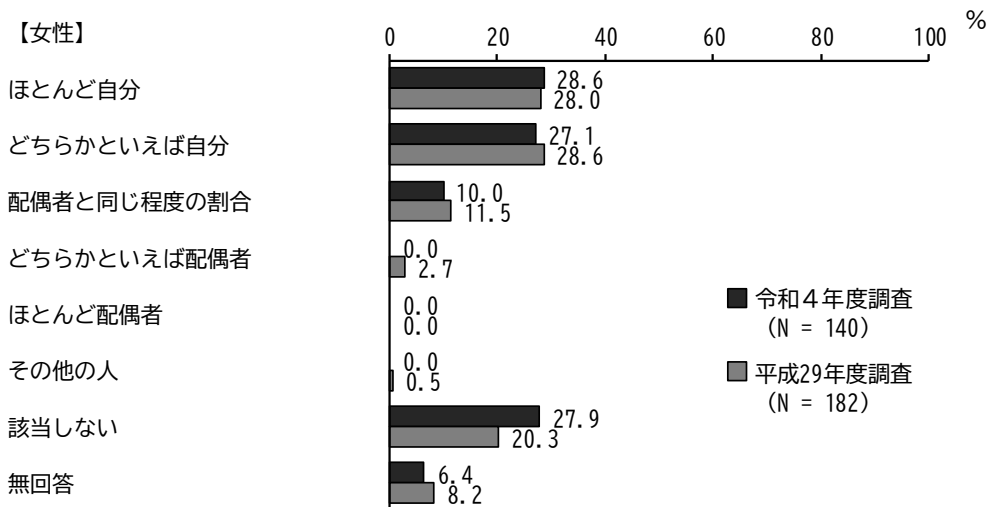
平成29年度調査と比較すると、男性で“配偶者が担当”と回答している割合が増加しています。



④子どもの教育としつけ

【経年比較（性別）】

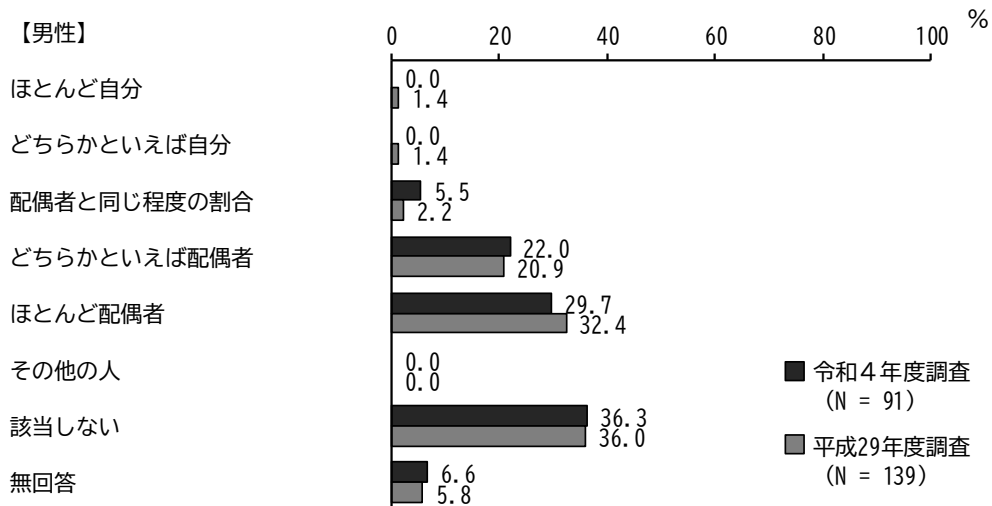
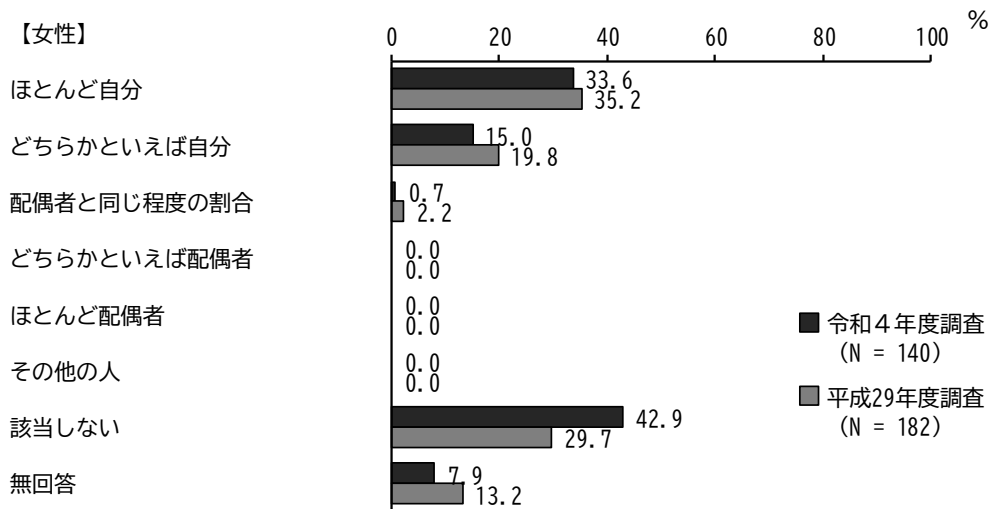
平成 29 年度調査と比較すると、男女とも、大きな変化はみられません。



⑤乳幼児の世話

【経年比較（性別）】

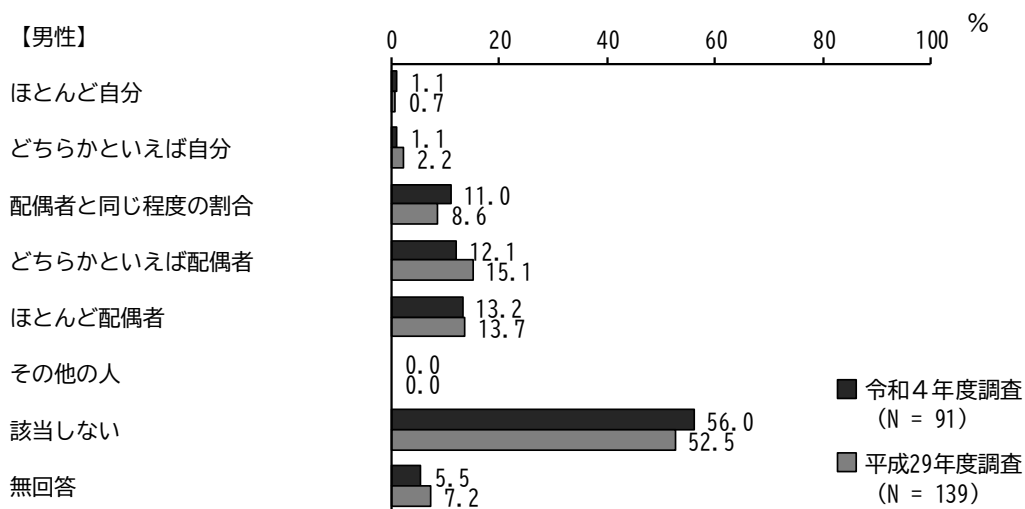
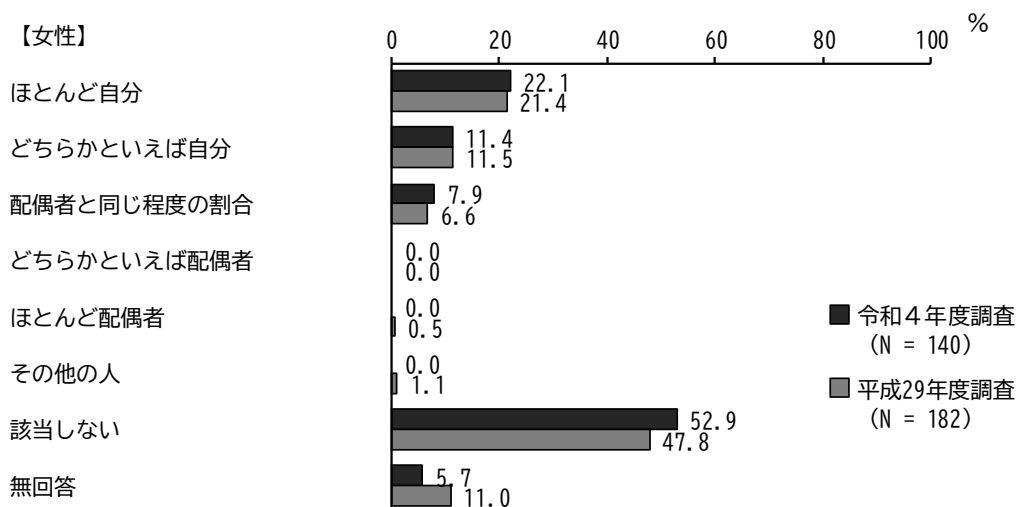
平成29年度調査と比較すると、女性で“妻が担当”と回答している割合が減少しています。



⑥介護や看護

【経年比較（性別）】

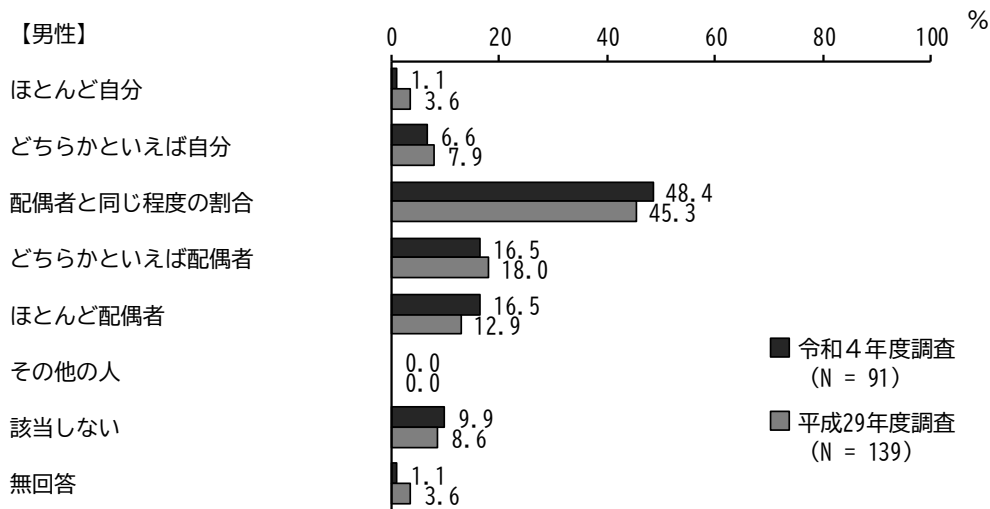
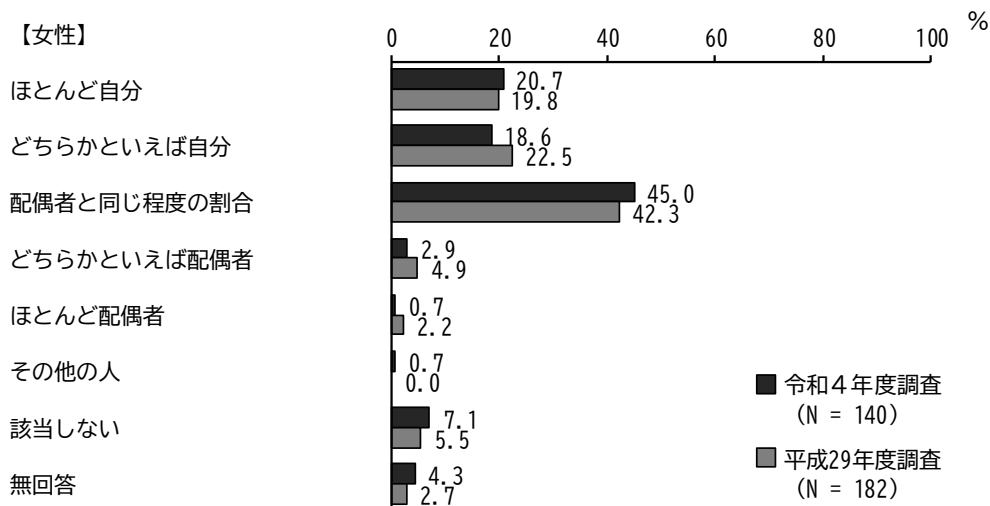
平成 29 年度調査と比較すると、男女とも、大きな変化はみられません。



⑦親戚づきあい

【経年比較（性別）】

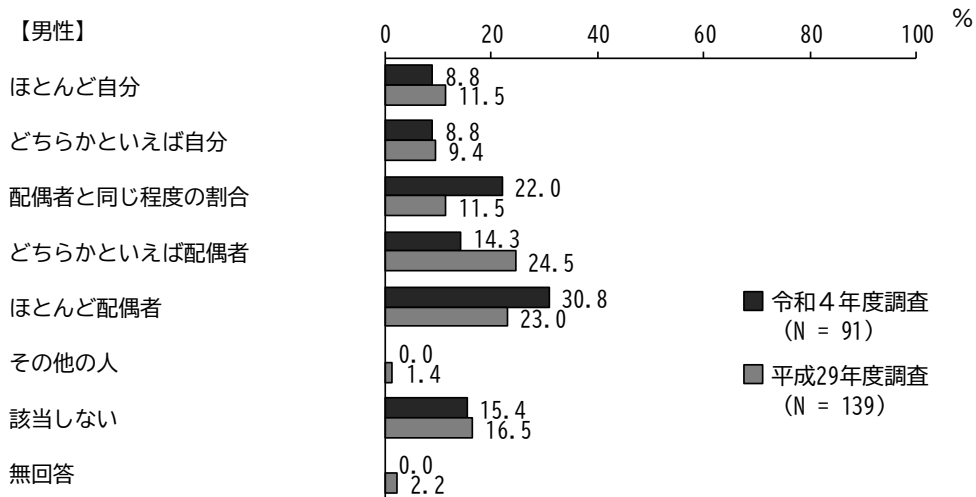
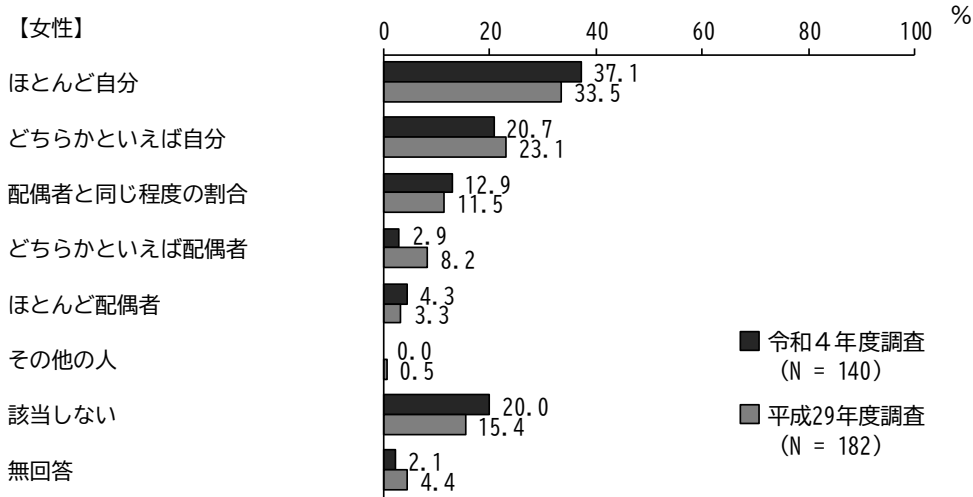
平成29年度調査と比較すると、男女とも、大きな変化はみられません。



⑧地域活動（自治会、町内会、PTA など）

【経年比較（性別）】

平成 29 年度調査と比較すると、男性で「配偶者と同じ程度の割合」、「ほとんど配偶者」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば配偶者」の割合が減少しています。

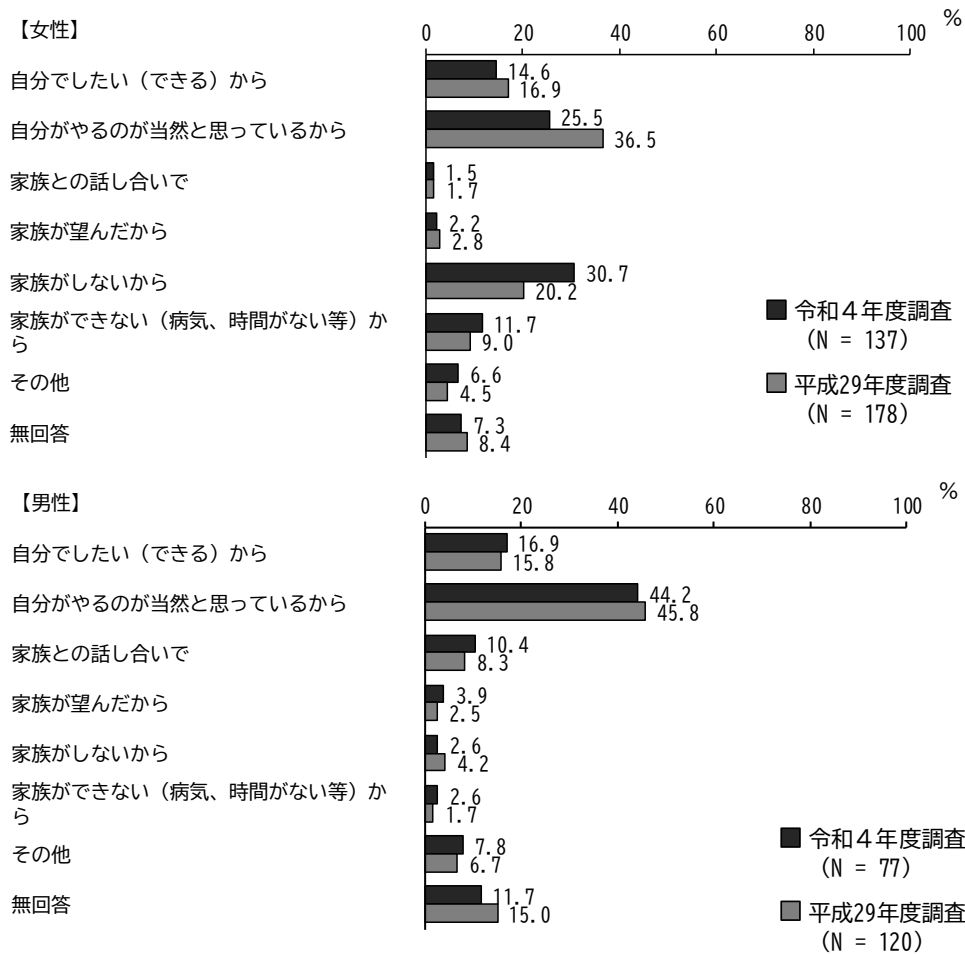


問 7-① この分担はどのように決めましたか。もっとも近いものを選んでください。
(○は1つ)

女性は、「家族がしないから」(30.7%)の割合が最も高く、次いで、「自分がやるのが当然と思っているから」(25.5%)、「自分でしたい(できる)から」(14.6%)、「家族ができない(病気、時間がない等)から」(11.7%)となっています。

男性は、「自分がやるのが当然と思っているから」(44.2%)の割合が最も高く、次いで「自分でしたい(できる)から」(16.9%)、「家族との話し合いで」(10.4%)となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「家族がしないから」の割合が増加しています。一方、「自分がやるのが当然と思っているから」の割合が減少しています。男性は大きな変化はみられません。



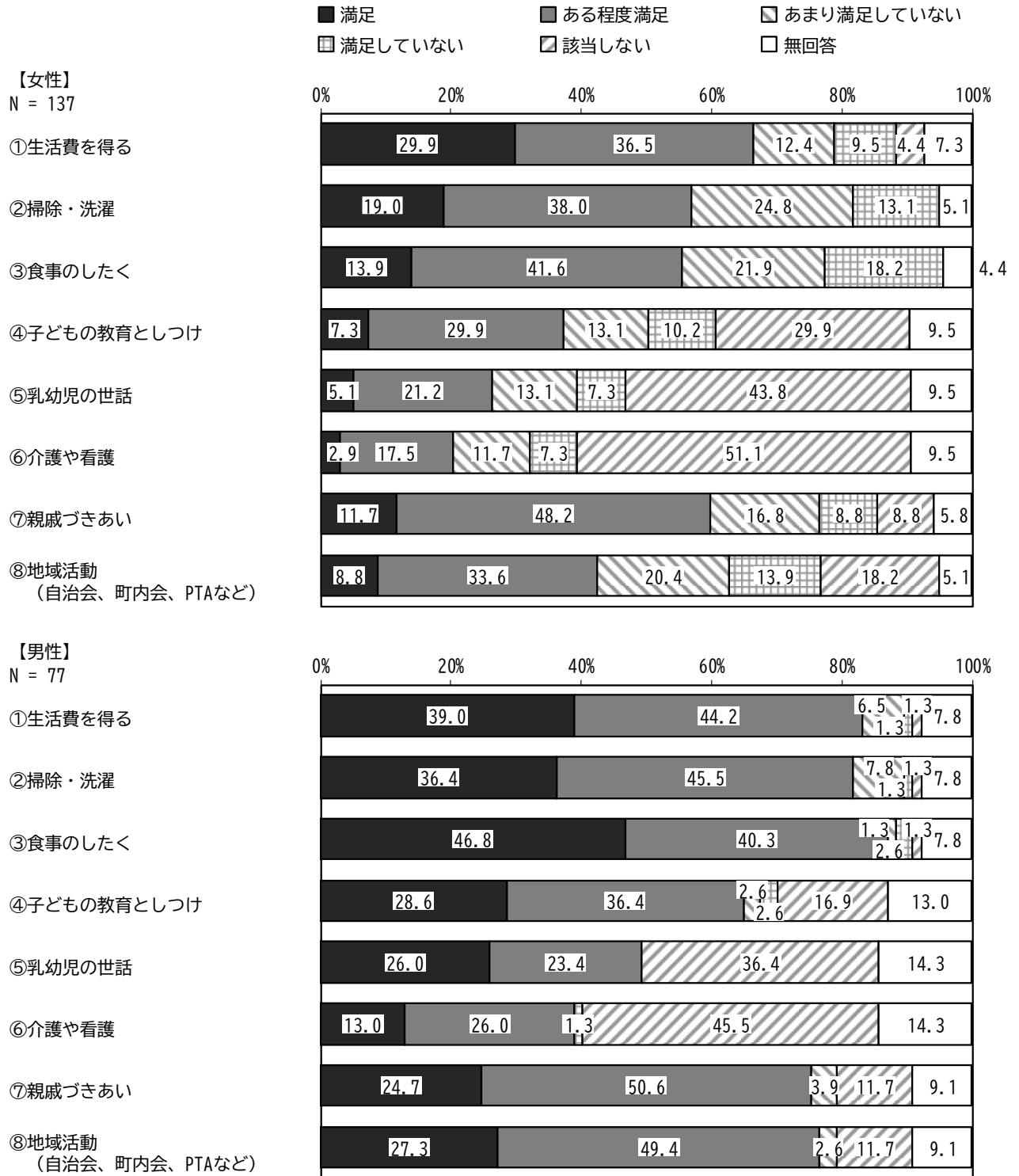
問 7-1 その他回答
自然に。
夫が亡くなったから。
該当時間に自分しかいない。
自分でやったほうが早いから。
家庭のことは女性がして当たり前の社会なのでその流れで。
自分がしないと不機嫌になる。誰もしないので自分がするしかありません。

その他9件

問8 役割分担に満足していますか。(〇はそれぞれに1つずつ)

女性では『①生活費を得る』で「満足」と「ある程度満足」を合わせた“満足”の割合が最も高く、『③食事のしたく』で「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた“満足していない”の割合が最も高くなっています。

男性では『③食事のしたく』で“満足”の割合が最も高くなっています。



問8-① 【問8で、「あまり満足していない」「満足していない」と答えた方におたずねします。】

家庭内の仕事の分担について家族全体が満足できるようにするにはどのようなすればよいと思いますか。(○は主なもの2つ以内)

女性では、「パートナーの家庭内の仕事への役割分担に対する意識の向上」(56.8%)の割合が最も高く、次いで「家庭内の仕事は、女性がすべきであるという社会の意識の改善」(44.4%)、「相手(パートナー)とのコミュニケーション不足の解消」(17.3%)となっています。

男性では、「残業時間の削減等の労働時間の短縮」(42.9%)、「相手(パートナー)とのコミュニケーション不足の解消」(42.9%)の割合が最も高く、次いで「パートナーの家庭内の仕事への役割分担に対する意識の向上」(14.3%)、「家庭内の仕事の能力向上」(14.3%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	残業時間の削減等の労働時間の短縮	相手(パートナー)とのコミュニケーション不足の解消	パートナーの家庭内の仕事への役割分担に対する意識の向上	家庭内の仕事の能力向上	家庭内の仕事は、女性がすべきであるという社会の意識の改善	その他	無回答
全体	99	19.2	20.2	48.5	11.1	39.4	8.1	7.1
女性	81	14.8	17.3	56.8	11.1	44.4	7.4	7.4
男性	14	42.9	42.9	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1

問8-1 その他回答

女性と男性が同等に就業し、経済的に自立すること。

お互いの満足度合いのすり合わせ。満足のレベルが違うので、妥協点を話し合うことが必要。

パートナーの所得が上がれば。

年金が少ない。

ならないと思う。

夫は結構手伝ってくれていますが、仕事が教師なので私や子どもが病気した時でも休めず、どんなに私がしんどかろうと、全て私任せなのは腑に落ちない。看病で仕事を休むのもいつも私。平等じゃない。せめて夫の有給を妻も使えるような制度が欲しい。私の有給ばかりが減っていく。フェアじゃない！

3 働き方と暮らし方の調和について

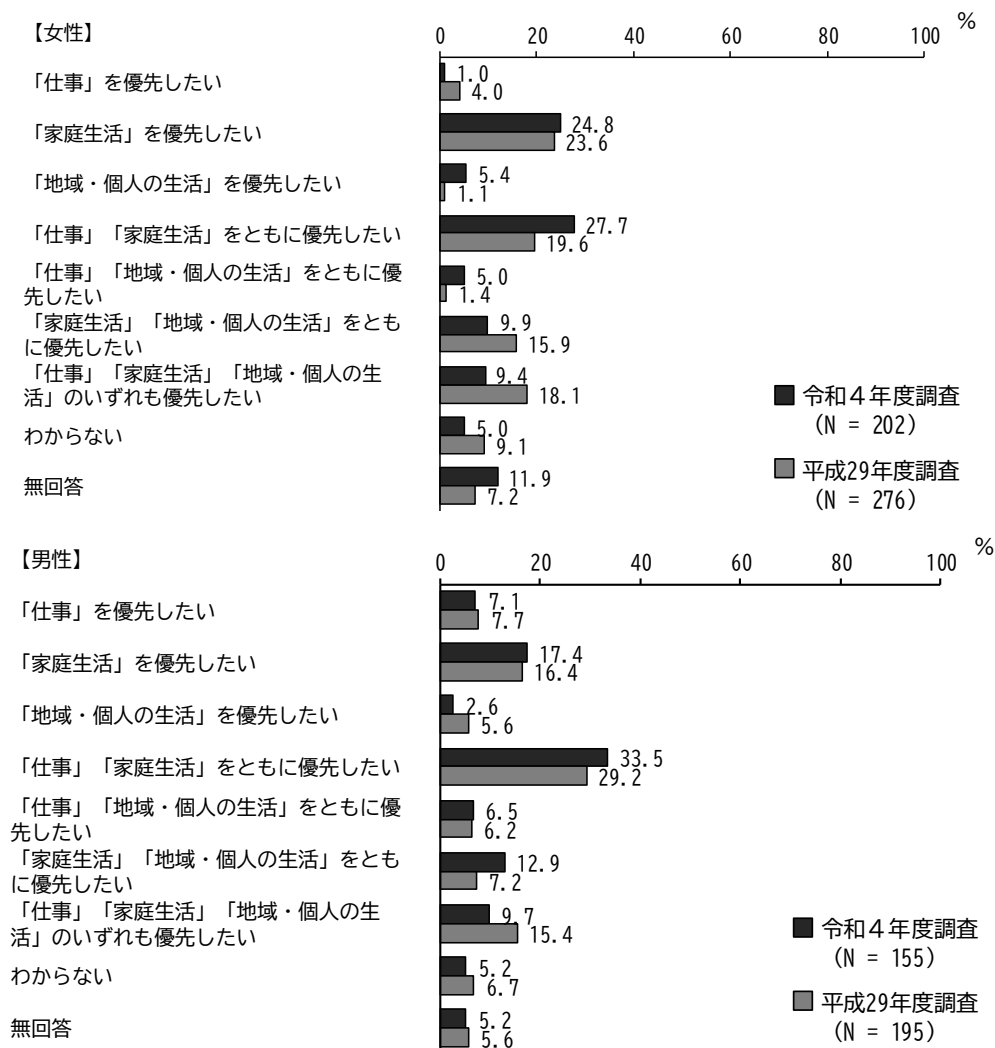
問9 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」について、あなたの希望と現実（現状）にあてはまる番号に○をつけてください。（それぞれ○は1つずつ）

問9-1 希望

女性では、「仕事」「家庭生活」をともに優先したい（27.7%）の割合が最も高く、次いで、「家庭生活」を優先したい（24.8%）、「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい（9.9%）となっています。

男性では、「仕事」「家庭生活」をともに優先したい（33.5%）の割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（17.4%）、「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい（12.9%）となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「仕事」「家庭生活」をともに優先したいの割合が増加しています。一方、「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のいずれも優先したいの割合が減少しています。男性は「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したいの割合が増加しています。一方、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のいずれも優先したいの割合が減少しています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性は、全体として「仕事」「家庭生活」をともに優先したい」の割合が高くなっていますが、30歳～39歳と40歳～49歳では「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。

男性は、すべての世代で「仕事」「家庭生活」をともに優先したい」の割合が高くなっています。

単位：%

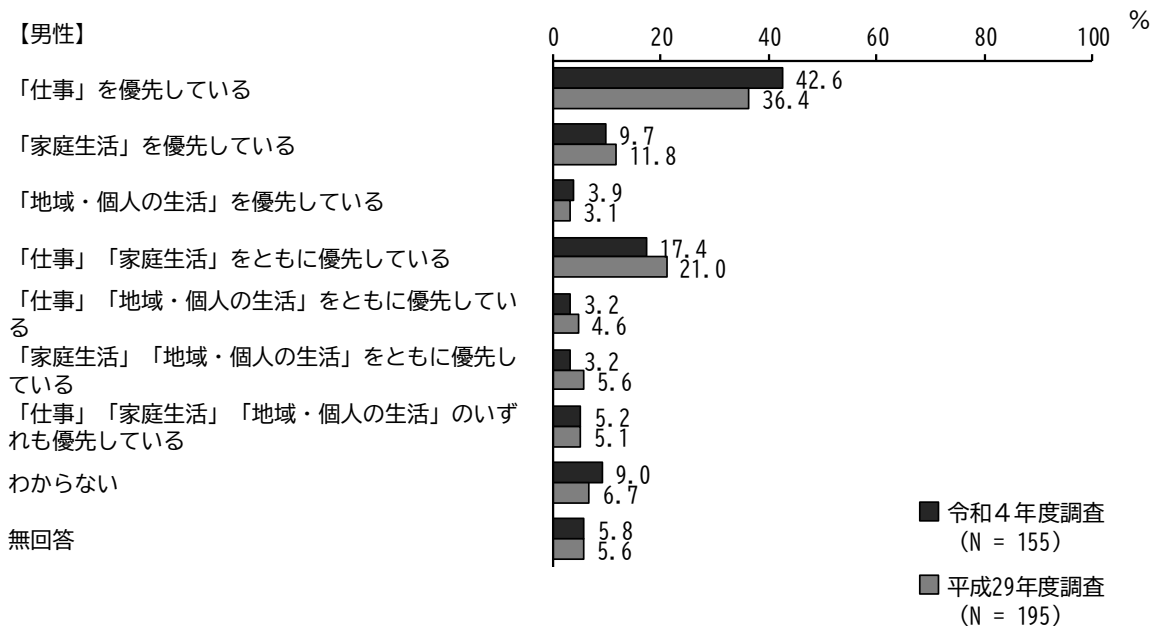
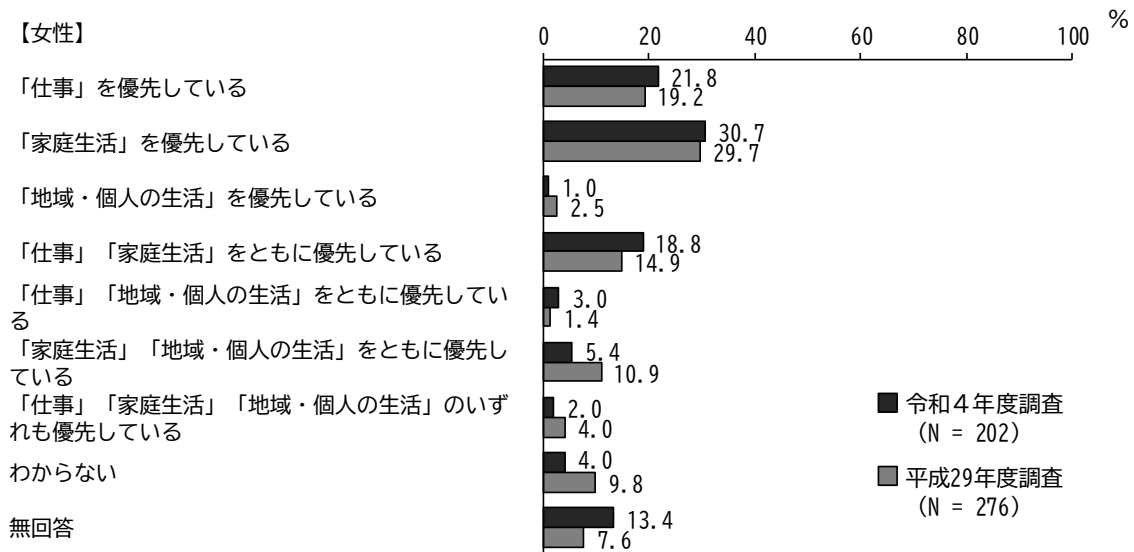
区分	N (件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	い「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のいずれも優先したい	わからない	無回答
全体	372	3.5	21.2	4.0	30.4	5.4	11.0	9.7	5.6	9.1
女性										
20歳～29歳	24	4.2	20.8	16.7	41.7	—	4.2	8.3	4.2	—
30歳～39歳	22	—	45.5	—	22.7	9.1	4.5	9.1	—	9.1
40歳～49歳	33	—	36.4	3.0	33.3	9.1	9.1	6.1	3.0	—
50歳～59歳	56	1.8	19.6	5.4	33.9	3.6	10.7	14.3	3.6	7.1
60歳～69歳	38	—	21.1	—	21.1	7.9	7.9	10.5	7.9	23.7
70歳以上	29	—	13.8	10.3	10.3	—	20.7	3.4	10.3	31.0
男性										
20歳～29歳	15	6.7	20.0	13.3	26.7	—	20.0	13.3	—	—
30歳～39歳	16	12.5	—	—	37.5	12.5	31.3	6.3	—	—
40歳～49歳	32	6.3	18.8	6.3	34.4	9.4	9.4	3.1	6.3	6.3
50歳～59歳	42	4.8	21.4	—	40.5	9.5	9.5	9.5	4.8	—
60歳～69歳	27	11.1	11.1	—	25.9	3.7	3.7	18.5	11.1	14.8
70歳以上	23	4.3	26.1	—	30.4	—	17.4	8.7	4.3	8.7

問9-2 現実（現状）

女性では、「家庭生活」を優先している（30.7%）の割合が最も高く、次いで「仕事」を優先している（21.8%）、「仕事」「家庭生活」をともに優先している（18.8%）となっています。

男性では、「仕事」を優先している（42.6%）の割合が最も高く、次いで「仕事」「家庭生活」をともに優先している（17.4%）、「家庭生活」を優先している（9.7%）となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している、「わからない」の割合が減少しています。男性は「仕事」を優先しているの割合が増加しています



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性 39 歳以下では「仕事」を優先している」、40 歳以上では「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。男性では 69 歳以下では「仕事を優先している」、70 歳以上では「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。

単位：%

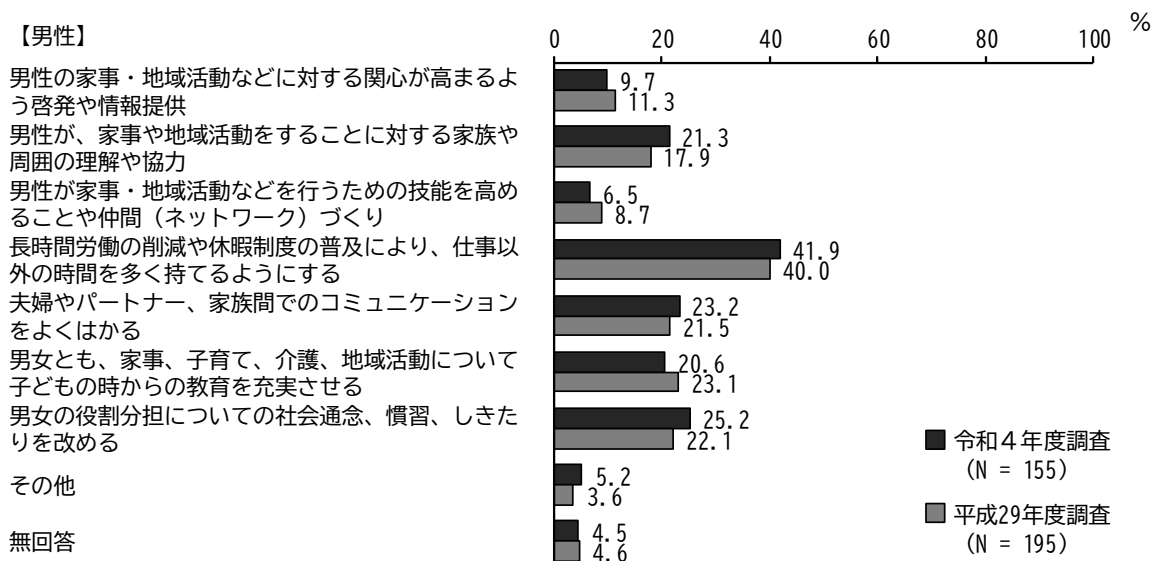
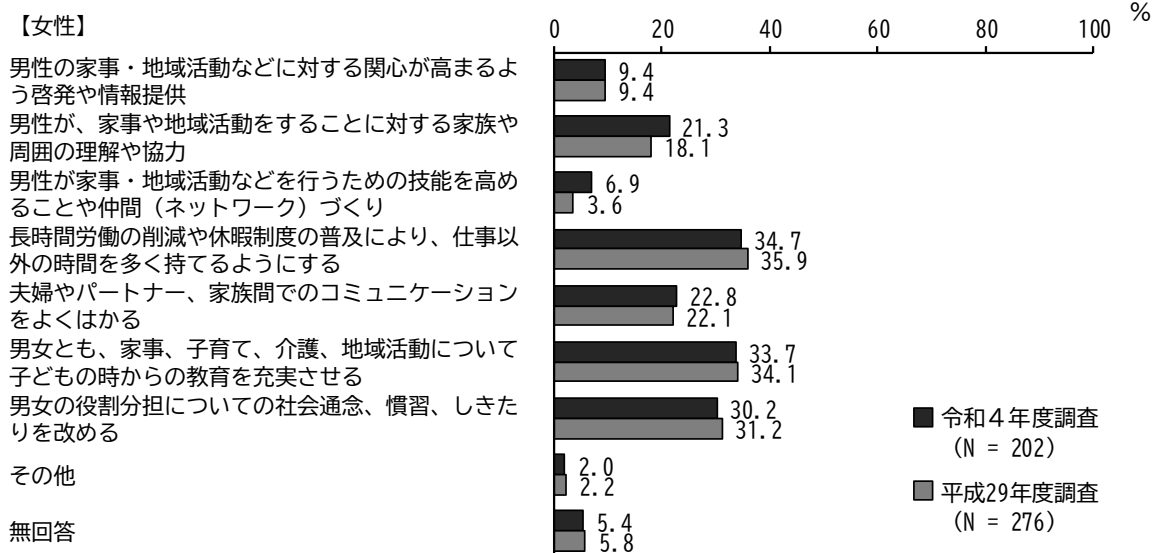
区分	N (件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活を優先している	「仕事」「家庭生活」をともに優先している	「仕事」「地域・個人の生活をともに優先している	「家庭生活」「地域・個人の生活をともに優先している	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のいずれも優先している	わからない	無回答
全 体	372	30.4	21.5	2.2	18.3	3.0	4.6	3.8	6.5	9.9
女性										
20 歳～29 歳	24	41.7	25.0	—	12.5	8.3	4.2	4.2	4.2	—
30 歳～39 歳	22	31.8	13.6	4.5	27.3	4.5	—	9.1	—	9.1
40 歳～49 歳	33	24.2	42.4	—	33.3	—	—	—	—	—
50 歳～59 歳	56	19.6	37.5	1.8	16.1	1.8	5.4	1.8	5.4	10.7
60 歳～69 歳	38	18.4	28.9	—	15.8	5.3	5.3	—	2.6	23.7
70 歳以上	29	3.4	24.1	—	10.3	—	17.2	—	10.3	34.5
男性										
20 歳～29 歳	15	33.3	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	—
30 歳～39 歳	16	56.3	6.3	6.3	18.8	—	6.3	6.3	—	—
40 歳～49 歳	32	50.0	—	3.1	15.6	6.3	3.1	3.1	12.5	6.3
50 歳～59 歳	42	52.4	7.1	—	23.8	4.8	—	2.4	9.5	—
60 歳～69 歳	27	40.7	3.7	3.7	18.5	—	—	7.4	11.1	14.8
70 歳以上	23	13.0	30.4	8.7	13.0	—	8.7	8.7	4.3	13.0

問10 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は主なもの2つ以内)

女性では、「長時間労働の削減や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(34.7%)の割合が最も高く、次いで「男女とも、家事、子育て、介護、地域活動について子どもの時からの教育を充実させる」(33.7%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(30.2%)となっています。

男性では、「長時間労働の削減や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(41.9%)の割合が最も高く、次いで、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(25.2%)、「夫婦やパートナー、家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(23.2%)となっています。

各項目とも、性別に関わらず、概ね同様の構成比であるが、「男女とも、家事、子育て、介護、地域活動について子どもの時からの教育を充実させる」(女性33.7%、男性20.6%)で女性が13.1ポイント高くなっています。



問10 その他回答
会社の理解。
女性と男性が同等に就業し、経済的に自立すること。
政治の中核の男女の比率の改善（女性のトップが少なすぎる）。
二世帯生活、親との同居。
男性の意識を高める推進。
会社が育休を取っても戻りやすい環境を作ること。
お金と時間。
気持ち次第。
賃金上がることで全ての余裕に繋がる。

4 女性と職業について

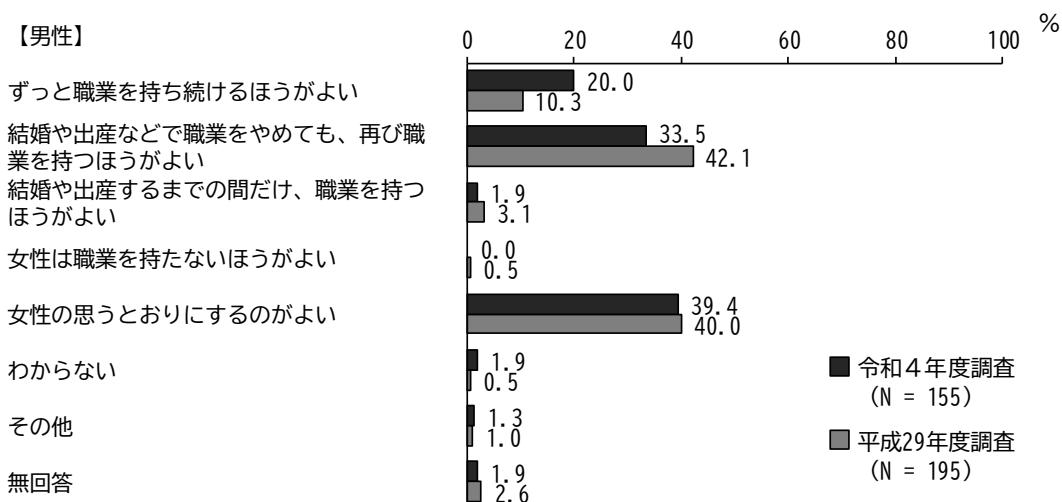
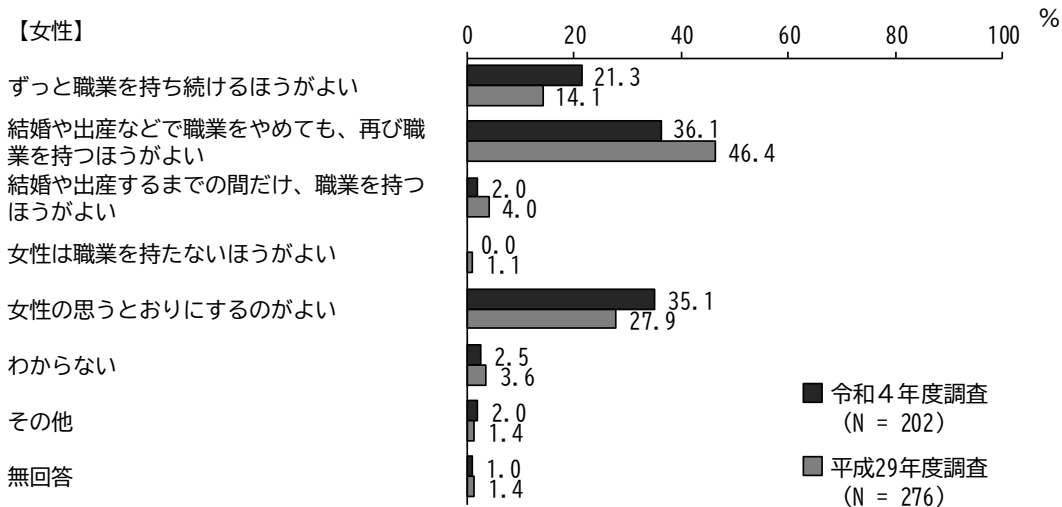
問11 女性が職業を持つことについて、あなた自身はどのように考えますか。
(○は1つ)

女性では、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」(36.1%)の割合が最も高く、次いで「女性の思うとおりにするのがよい」(35.1%)、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(21.3%)となっています。

男性では、「女性の思うとおりにするのがよい」(39.4%)が最も高く、次いで、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」(33.5%)「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(20.0%)となっています。

性別に関わらず、『女性が職業を持つことについて』は肯定的な回答の割合が高く、男女差は少なくなっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」、「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が増加しています。一方、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」の割合が減少しています。男性は「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が増加しています。一方、「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」の割合が減少しています。



【性・年齢別】

性別に関わらず、20歳～29歳、30歳～39歳、60歳～69歳で「女性の思うとおりにするのがよい」の割合が、40歳～49歳、50歳～59歳、70歳以上で「結婚や出産などで職業をやめても、再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	N (件)	ずっと職業を持ち続けるほうがよい	結婚や出産などで職業をやめても、 再び職業を持つほうがよい	結婚や出産するまでの間だけ、 職業を持つほうがよい	女性は職業を持たないほうがよい	女性の思うとおりにするのがよい	わからない	その他	無回答
全体	372	21.0	34.4	1.9	—	37.1	2.2	1.6	1.9
女性									
20歳～29歳	24	20.8	29.2	4.2	—	41.7	4.2	—	—
30歳～39歳	22	9.1	40.9	4.5	—	45.5	—	—	—
40歳～49歳	33	24.2	33.3	3.0	—	30.3	6.1	3.0	—
50歳～59歳	56	19.6	41.1	—	—	35.7	—	1.8	1.8
60歳～69歳	38	23.7	28.9	—	—	39.5	2.6	5.3	—
70歳以上	29	27.6	41.4	3.4	—	20.7	3.4	—	3.4
男性									
20歳～29歳	15	6.7	26.7	—	—	60.0	6.7	—	—
30歳～39歳	16	12.5	6.3	—	—	75.0	—	—	6.3
40歳～49歳	32	18.8	46.9	3.1	—	31.3	—	—	—
50歳～59歳	42	28.6	33.3	2.4	—	31.0	2.4	2.4	—
60歳～69歳	27	22.2	25.9	—	—	44.4	3.7	—	3.7
70歳以上	23	17.4	47.8	4.3	—	21.7	—	4.3	4.3

問11 その他回答
男が働くというのが前提なのもおかしい。
人による。
仕事より大切なものはあるはず。家庭や大事な人との時間を優先すべき。
家計に余裕があれば、家にいた方がよい。

その他2件

問12 あなたは、結婚・出産・育児・介護を機に仕事をやめた経験はありますか。
(○は1つ)

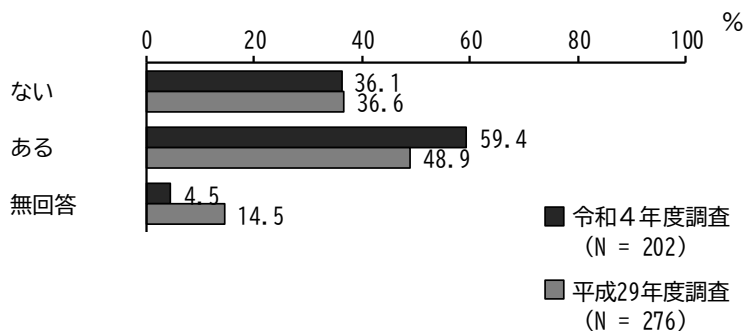
女性では、「ある」(59.4%)、「ない」は(36.1%)となっています。

男性では、「ある」(3.9%)、「ない」は(84.5%)となっています。

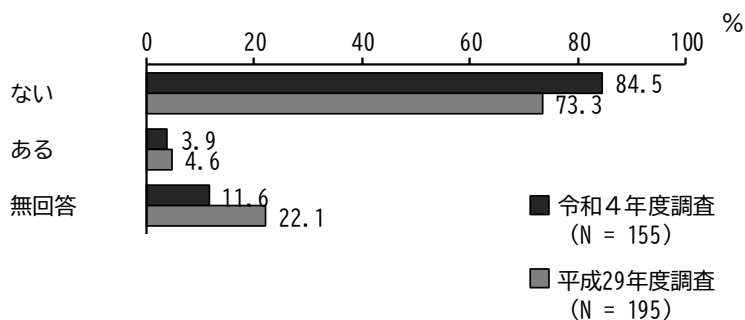
仕事をやめた経験が「ある」は、女性が男性よりも55.5ポイント高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「ある」の割合が増加しています。男性は「ない」の割合が増加しています。

【女性】



【男性】



問12-① 【問12で、「2. ある」と答えた方におたずねします。】

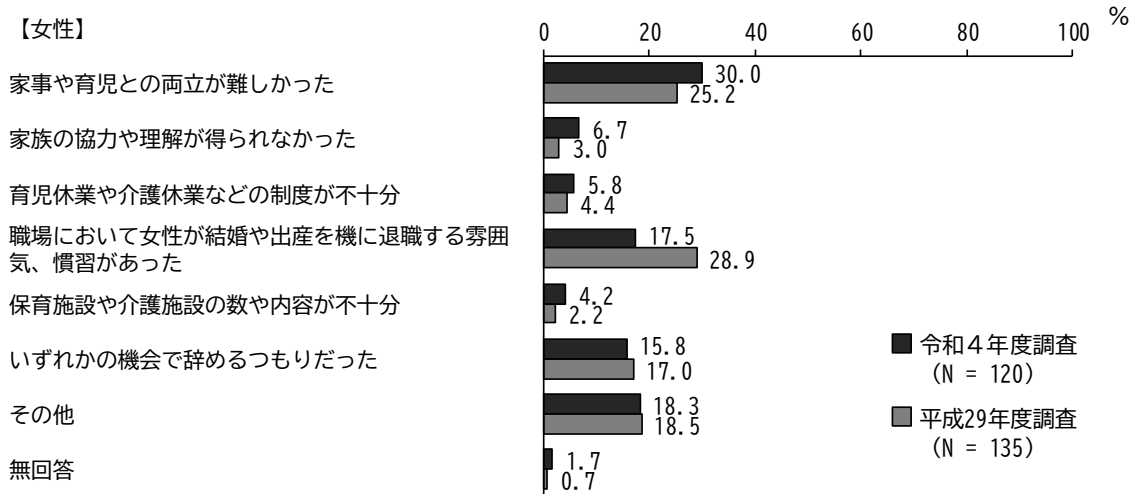
それはどのような理由からですか。(○は1つ)

女性では、「家事や育児との両立が難しかった」(30.0%)の割合が最も高く、次いで「その他」(18.3%)、「職場において女性が結婚や出産を機に退職する雰囲気、慣習があった」(17.5%)、「いずれかの機会ですめるつもりだった」(15.8%)となっています。

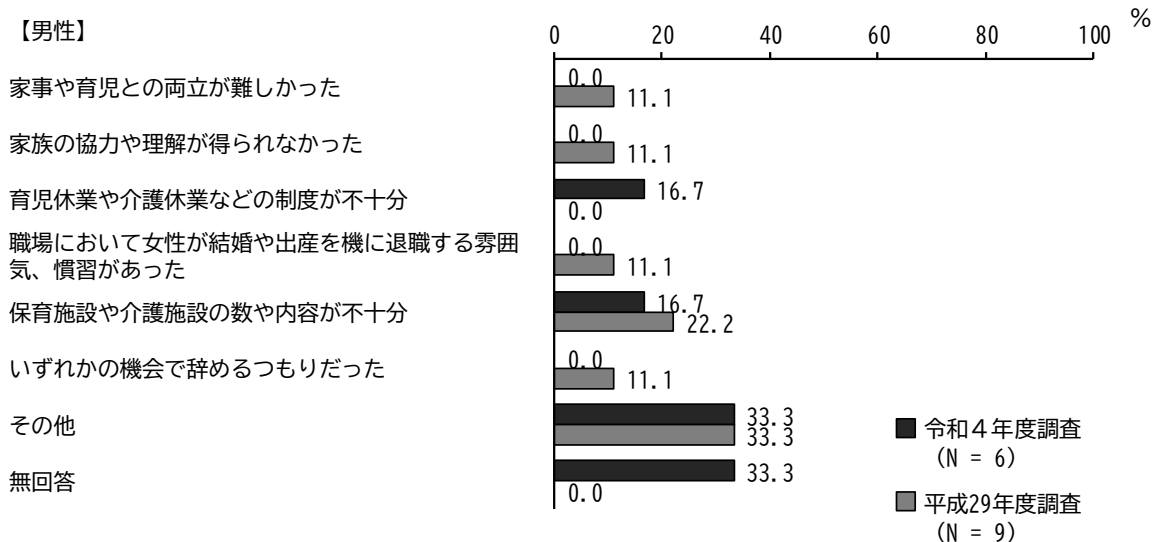
男性では、「その他」(33.3%)の割合が最も高く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分」(16.7%)、「保育施設や介護施設の数や内容が不十分」(16.7%)となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「職場において女性が結婚や出産を機に退職する雰囲気、慣習があった」の割合が減少しています。男性は「育児休業や介護休業などの制度が不十分」の割合が増加しています。一方、「家事や育児との両立が難しかった」、「家族の協力や理解が得られなかった」「職場において女性が結婚や出産を機に退職する雰囲気、慣習があった」、「保育施設や介護施設の数や内容が不十分」、「いずれかの機会ですめるつもりだった」の割合が減少しています。

【女性】



【男性】



問 12-1 その他回答
妊娠を機に辞めた。体調が良くなかったため。
育児を優先したかった。
再就職が可能な職場が増えてほしいと思いました。
子どもは、3歳までは母親が育てるべきと思っていたから。
忙しすぎて、一人暮らしもムリなのに、結婚生活での両立は更にムリと思った。
介護できる人が私しかいなくなったので。
社内結婚は片方がやめる社則があった。
他県に引っ越したため。
育休、介護休業が制度化された職場でしたが、親や子の病気に直面した時、何度か退職しようと思いました。子や親の急な病気による休業を余儀なくされた時、雇用者は、申請方法をもっと簡素化して、取得しやすいようにしてほしいと思った。
独身なので、自分が親の介護をするしか選択肢がなかった。
不妊治療のため。
私自身仕事をやめて、子どもの育児、しつけ、教育を就業前(小学校に行くまで)までに教えたかったから。
結婚を機に、家に居て欲しいと言われた。
給料が低かった。
当時は結婚すれば退社するのが当たり前だったから。
遠距離恋愛だったので結婚生活をする為には退職するしかなかった。

その他 10 件

問13 出産・子育て・介護などの理由で仕事を離れることなく女性が働き続けていく職場にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は主なもの3つ以内)

女性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境」(68.8%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム制などを導入すること」(43.1%)、「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」(34.2%)となっています。

男性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境」(65.2%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム制などを導入すること」(47.7%)、「出産・子育て・介護などを理由とする退職者の再就職を、同一企業で保障すること」(35.5%)となっています。

単位：%

区分	N(件)	賃金や職務内容、昇進等の男女差をなくすこと	育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境	労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム制などを導入すること	事業所内に託児施設を設置すること	出産・子育て・介護などを理由とする退職者の再就職を、同一企業で保障すること	各種研修や職業訓練などの機会を充実させること	職場のトップが女性の活躍推進に積極的であること	上司・同僚が、女性が働くことに理解があること	身近に活躍している女性(お手本となる人)がいること	その他	無回答
全体	372	26.9	65.9	44.4	19.9	32.0	1.1	8.6	31.2	4.0	2.2	5.9
女性	202	26.2	68.8	43.1	23.8	28.2	0.5	9.4	34.2	4.5	2.0	3.5
男性	155	27.7	65.2	47.7	15.5	35.5	1.9	7.1	29.0	3.9	1.9	7.7

問13 その他回答
ベーシックインカムで生活が安定すれば、自由になれる。
こうすればと簡単に言える問題ではないと思う。
女性を職場のトップに据える。幹部の女性、男性の比率を5:5、または女性のほうが多くなるようにする。
職場の改善ということではなく、市役所の場所を駅チカや駅中にしたり、平日夜間や休日の開庁をするなどして仕事をわざわざ休まなくてもいいようにしてほしい。
女性にしかできないこともあるので、両立せず育児や介護に専念するほうが自然。現実と乖離していると感じる。
職場で前年度評価で賞与が決まるなど、男女に関わらず職場への復帰における壁がある。たまたま女性が出産で休職した際にそれが適用される。男女どちらかが子育てで休職する時にやむなく女性が休職せざるを得ないだけではないか。
出産前後だけでなく、妊娠初期から融通や理解があってほしいです。妊娠は病気じゃないと言いますが、体調の著しい変化やデリケートな問題、お腹で赤ちゃんを健康無事に育てる為の期間なので、そこから理解や対応があればいいと思います。
働かないで、生活出来るような、社会にすれば良い。

問14 女性の活躍が進むためには、家族や社会等からどのような支援が特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性では、「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」(67.3%)の割合が最も高く、次いで「保育の施設・サービスの充実」(50.0%)、「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」(37.6%)となっています。

男性では、「保育の施設・サービスの充実」(59.4%)の割合が最も高く、次いで「配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画」(57.4%)、「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」(39.4%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	配偶者・パートナーの積極的な家事・育児・介護への参画	配偶者・パートナー以外の家族や、地域による家事・育児・介護支援	保育の施設・サービスの充実	高齢者や病人の施設や介護サービスの充実	利用しやすい(育児・介護以外の)家事サービス	スキルアップに向けた研修や就職相談等の、再就職しやすい環境	起業するための資金調達やノウハウの取得の機会の充実	特になし	わからない	その他	無回答
全体	372	62.1	28.5	53.0	39.2	22.0	12.1	4.6	2.4	2.7	1.1	2.2
女性	202	67.3	32.7	50.0	37.6	20.3	15.8	2.5	2.5	1.5	0.5	1.0
男性	155	57.4	22.6	59.4	39.4	25.2	7.7	6.5	1.9	3.9	1.3	3.2

問14 その他回答
全体の意識改革
保育や介護で、現場で働く人の給料や処遇を改善する。
会社での子どもがいる家庭への理解度を高め、その人への保障が充実するような社会づくりが必要。

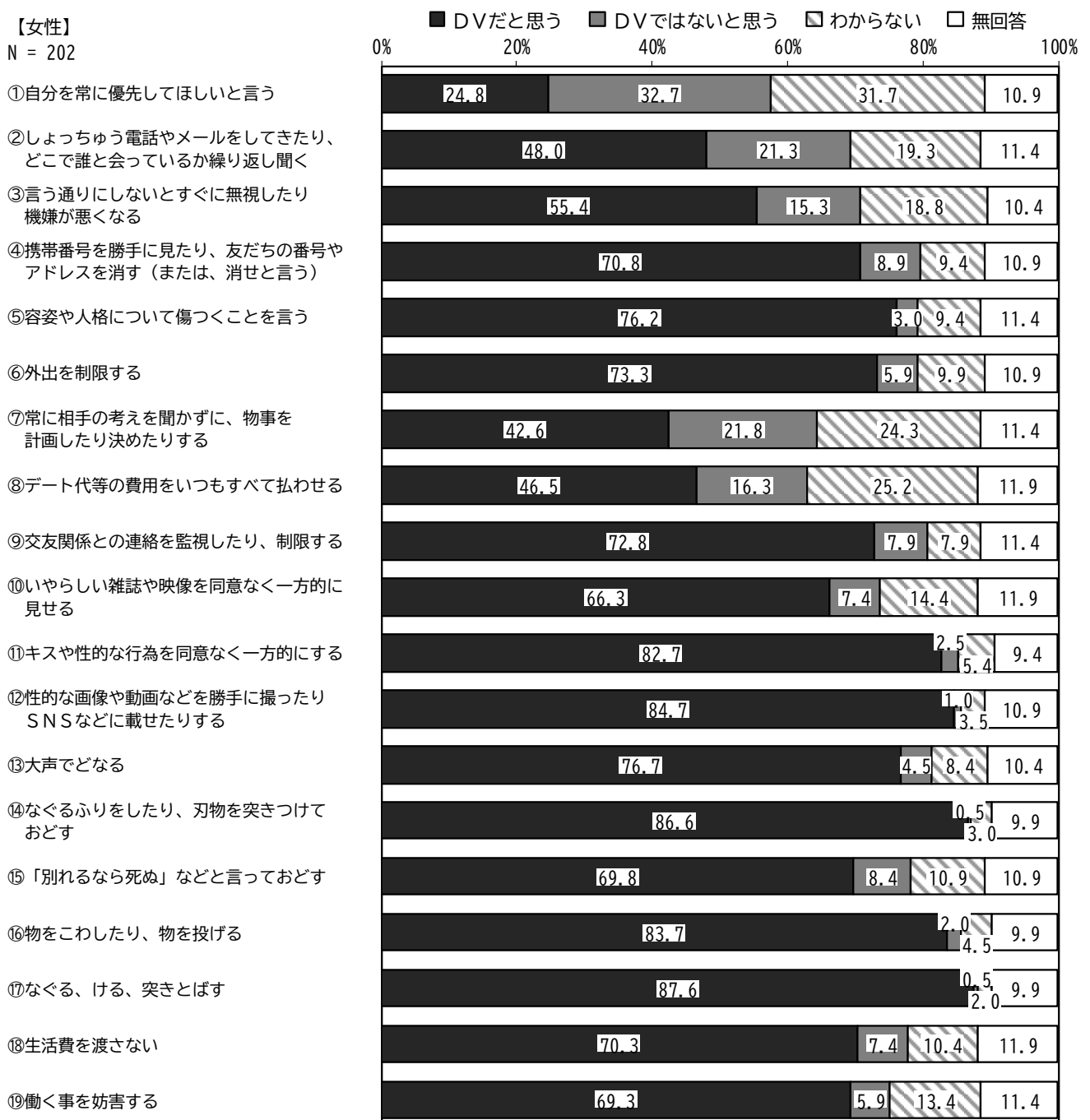
5 男女間の暴力について

問15 夫婦や元夫婦、同棲など親密な関係にある男女間でおきる暴力を、ドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。また、恋人の間でおきる暴力をデートDVといいます。あなたは次の行為が行われた場合どう思いますか。また実際に相手にしたり、されたことがありますか。

〈 DV・デートDVの判断 〉

女性では『①キスや性的な行為を同意なく一方的にする』、『⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする』、『⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす』、『⑯物をこわしたり、物を投げる』、『⑰なぐる、ける、突きとばす』で「DVだと思う」の割合が、『①自分を常に優先してほしいと言う』で「DVではないと思う」の割合が高くなっています。

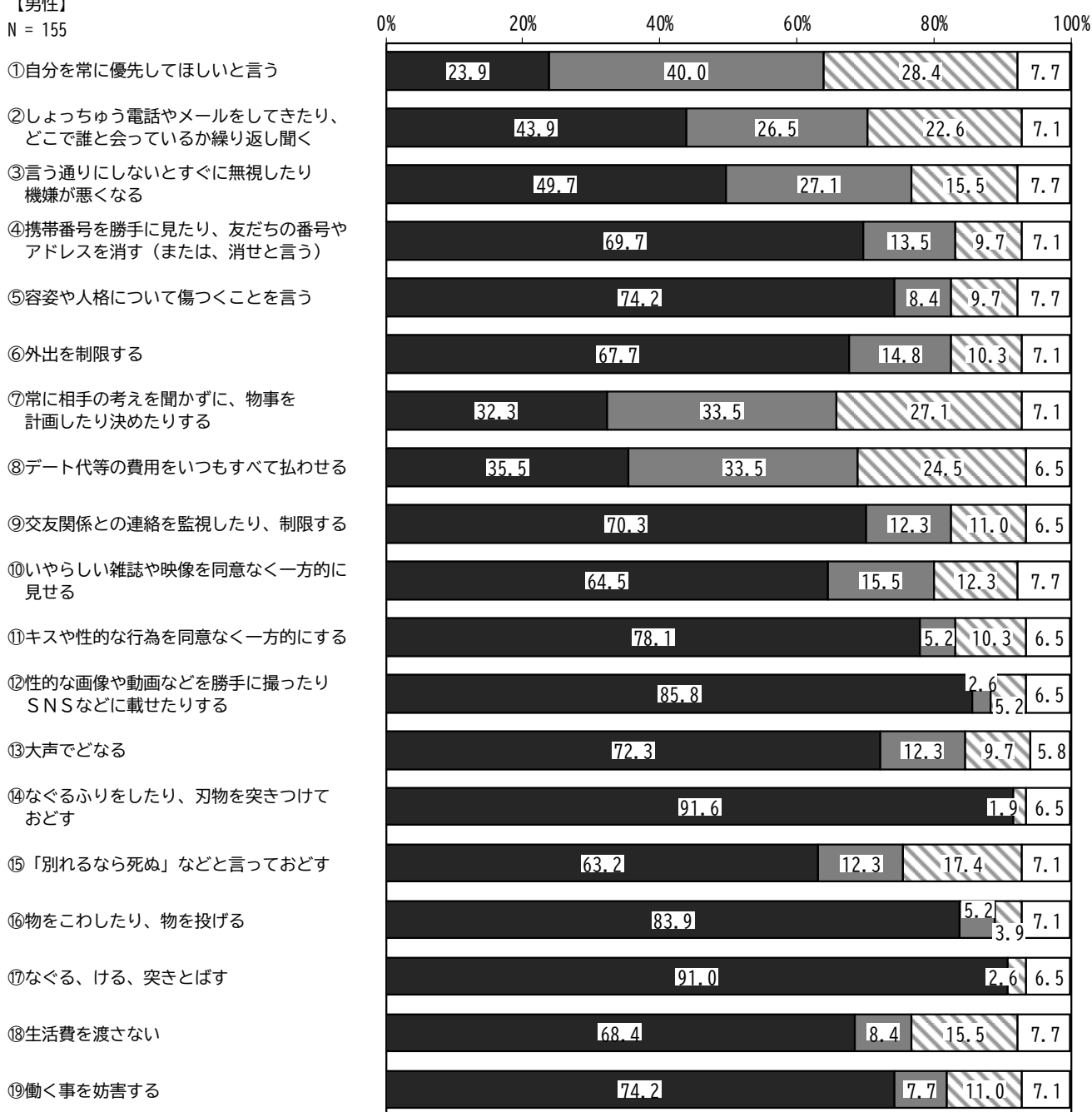
【女性】
N = 202



男性では、『⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする』、『⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす』、『⑯物をこわしたり、物を投げる』、『⑰なぐる、ける、突きとばす』で「DVだと思う」の割合が、『①自分を常に優先してほしいと言う』で「DVではないと思う」の割合が高くなっています。

■ DVだと思う ■ DVではないと思う ▨ わからない □ 無回答

【男性】
N = 155



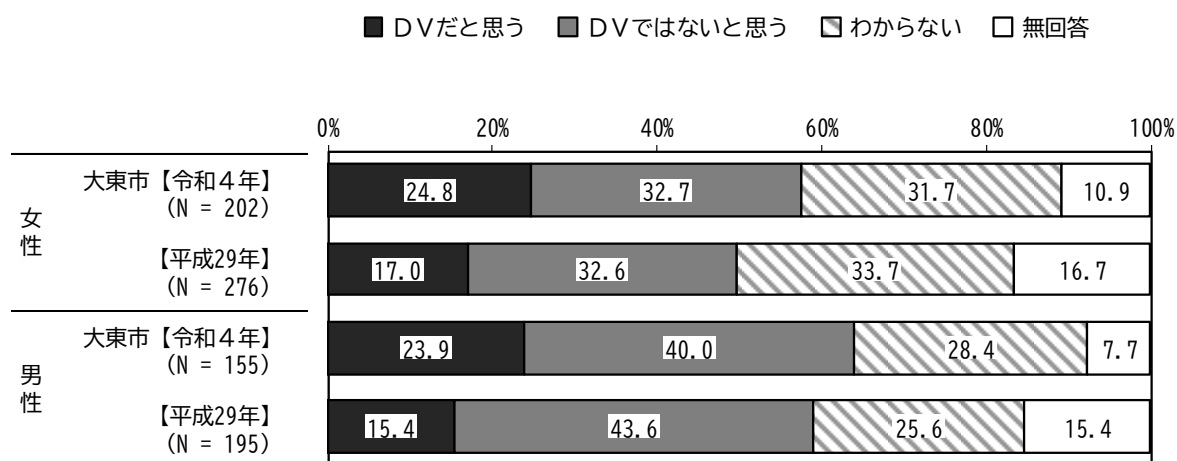
①自分を常に優先してほしいと言う

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は24.8%、「DVではないと思う」は32.7%で、男性では「DVだと思う」は23.9%、「DVではないと思う」は40.0%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が7.8ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が8.5ポイント増加しています。



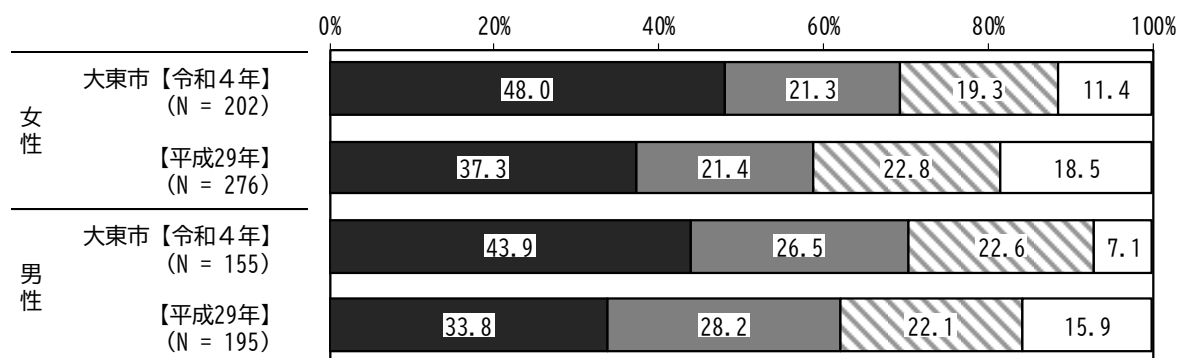
②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は48.0%、「DVではないと思う」は21.3%で、男性では「DVだと思う」は43.9%、「DVではないと思う」は26.5%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が10.7ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が10.1ポイント増加しています。



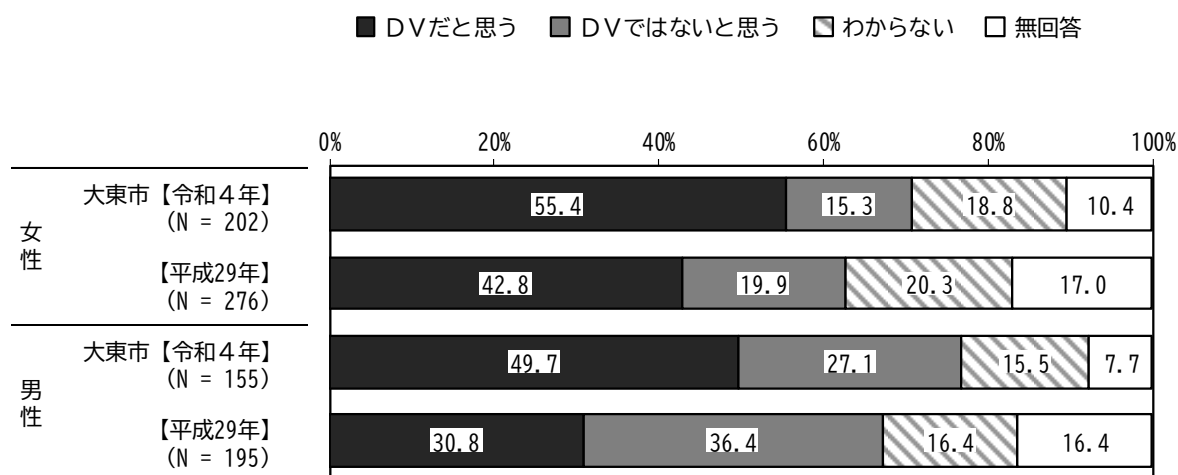
③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は55.4%、「DVではないと思う」は15.3%で、男性では「DVだと思う」は49.7%、「DVではないと思う」は27.1%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が12.6ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が18.9ポイント増加しています。



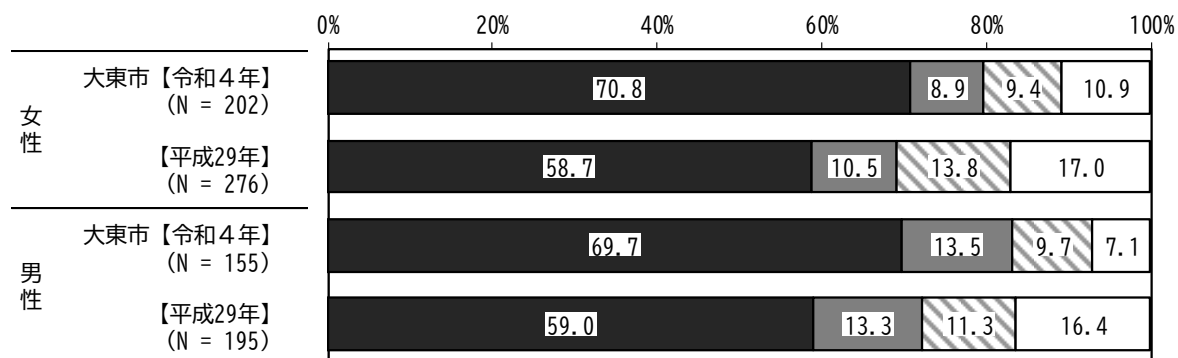
④携帯番号を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は70.8%、「DVではないと思う」は8.9%で、男性では「DVだと思う」は69.7%、「DVではないと思う」は13.5%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が12.1ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が10.7ポイント増加しています。



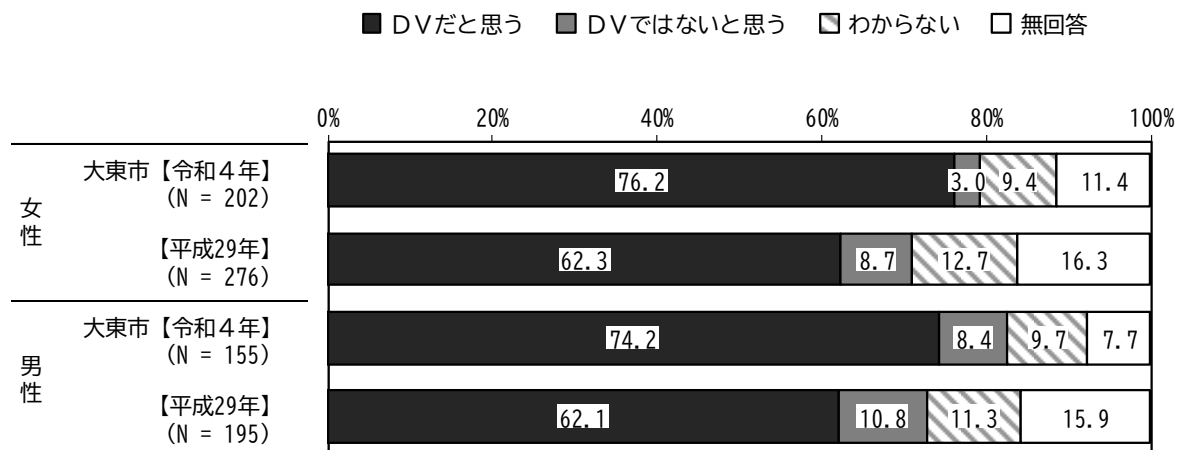
⑤容姿や人格について傷つくことを言う

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は76.2%、「DVではないと思う」は3.0%で、男性では「DVだと思う」は74.2%、「DVではないと思う」は8.4%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が13.9ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が12.1ポイント増加しています。



⑥外出を制限する

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は73.3%、「DVではないと思う」は5.9%で、男性では「DVだと思う」は67.7%、「DVではないと思う」は14.8%となっています。

「DVだと思う」については、女性の方が5.6ポイント高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、女性で「DVだと思う」と回答している割合が16.8ポイント増加し、男性で「DVだと思う」と回答している割合が13.3ポイント増加しています。



⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

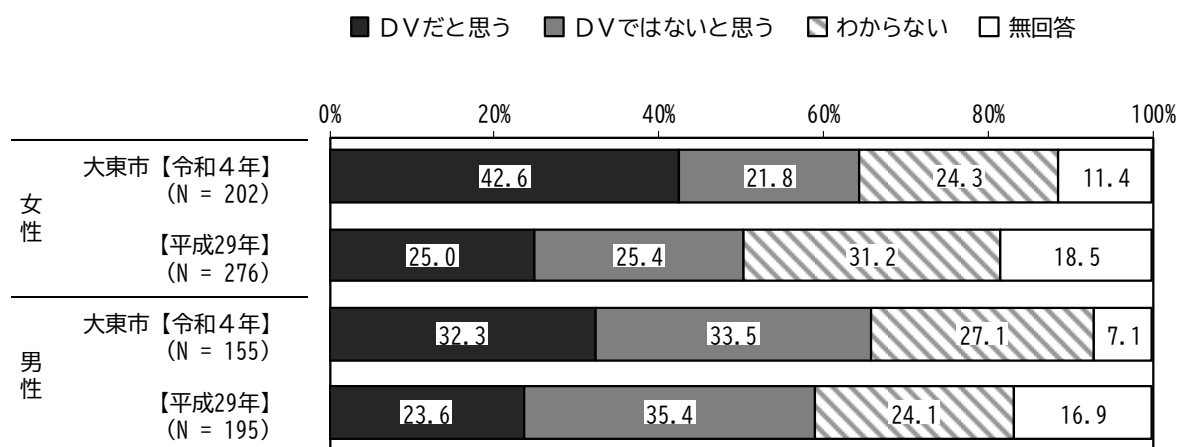
【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は42.6%、「DVではないと思う」は21.8%で、男性では「DVだと思う」32.3%を「DVではないと思う」33.5%となっています。

「DVだと思う」については、女性が男性より10.3ポイント高くなっています。

「DVではないと思う」については、男性が11.7ポイント高く、女性と男性で認識に差があります。

平成29年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が17.6ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が8.7ポイント増加しています。



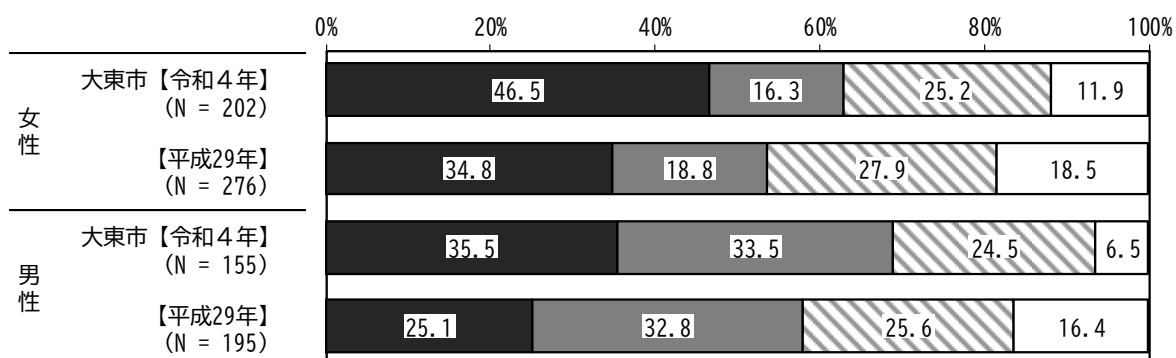
⑧デート代等の費用をいつもすべて払わせる

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は46.5%、「DVではないと思う」は16.3%で、男性では「DVだと思う」は35.5%、「DVではないと思う」は33.5%となっています。

「DVだと思う」については、女性の方が11.0ポイント高く、「DVではないと思う」では、男性が17.2ポイント高くなっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が11.7ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が10.4ポイント増加しています。



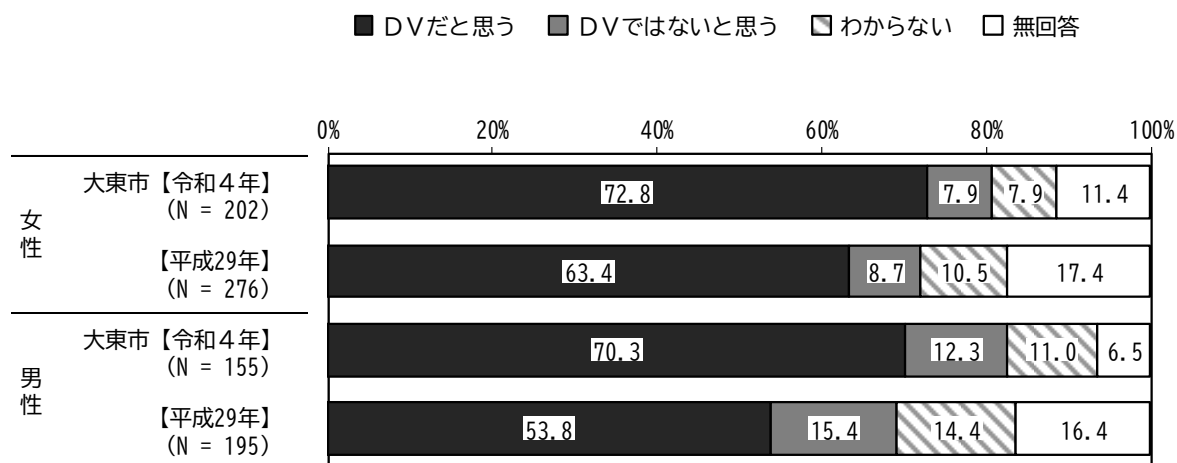
⑨交友関係との連絡を監視したり、制限する

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 72.8%、「DVではないと思う」は 7.9%で、男性では「DVだと思う」は 70.3%、「DVではないと思う」は 12.3%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 9.4 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 16.5 ポイント増加しています。



⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 66.3%、「DVではないと思う」は 7.4%で、男性では「DVだと思う」は 64.5%、「DVではないと思う」は 15.5%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 11.6 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 11.7 ポイント増加しています。



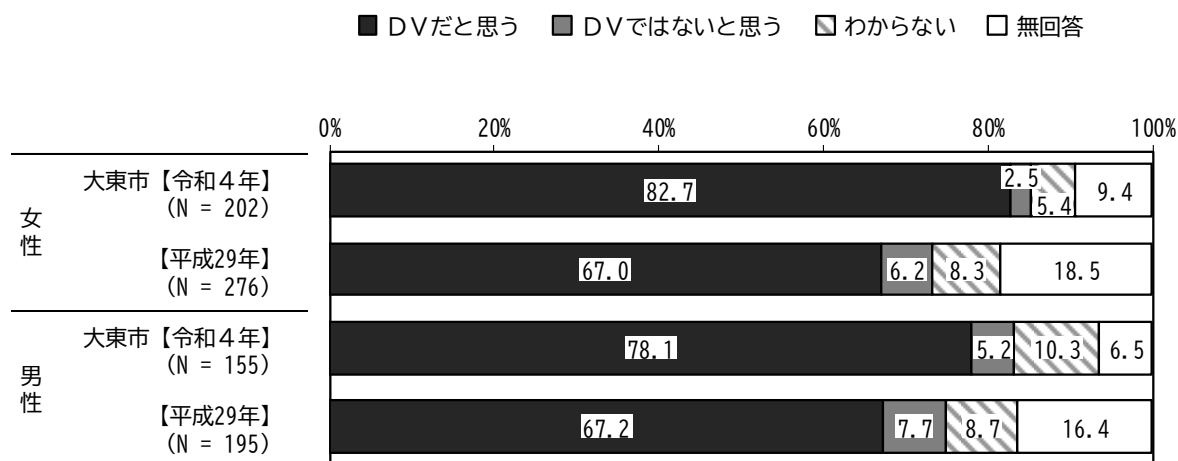
①キスや性的な行為を同意なく一方的にする

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 82.7%、「DVではないと思う」は 2.5%で、男性では「DVだと思う」は 78.1%、「DVではないと思う」は 5.2%となっています。

「DVだと思う」、「DVではないと思う」のいずれについても、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 15.7 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 10.9 ポイント増加しています。

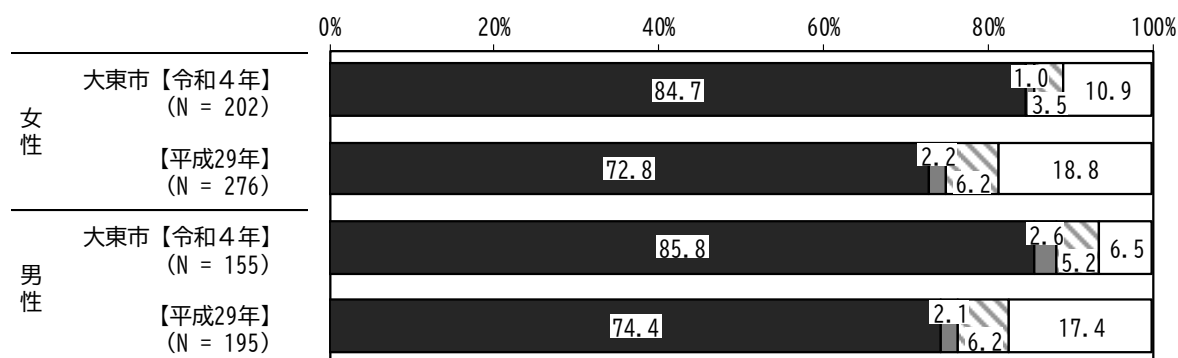


②性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 84.7%、「DVではないと思う」は 1.0%で、男性では「DVだと思う」は 85.8%、「DVではないと思う」は 2.6%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 11.9 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 11.4 ポイント増加しています。



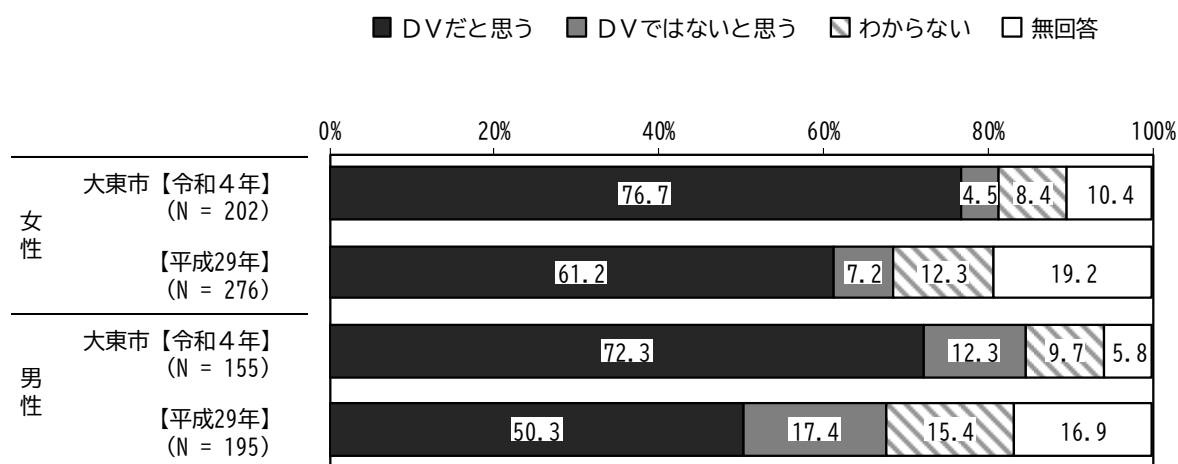
⑬大声でどなる

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 76.7%、「DVではないと思う」は 4.5%で、男性では「DVだと思う」は 72.3%、「DVではないと思う」は 12.3%となっています。

「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 15.5 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 22.0 ポイント増加しています。



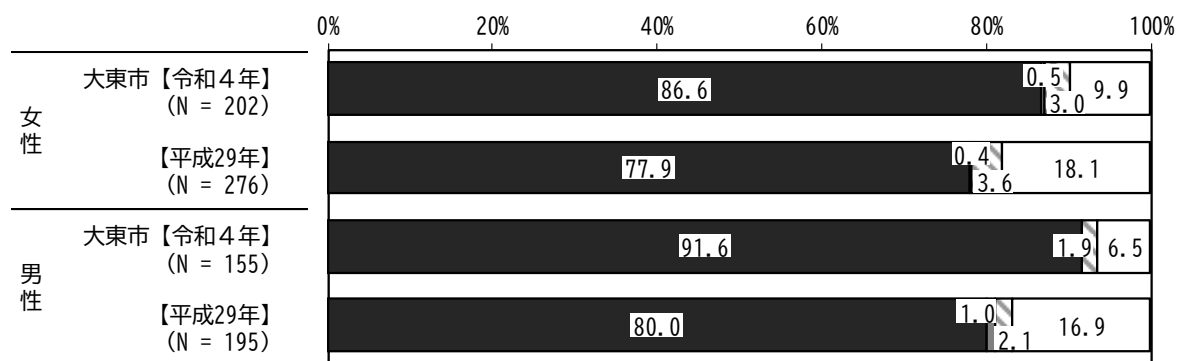
⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 86.6%、「DVではないと思う」は 0.5%で、男性では「DVだと思う」は 91.6%、「DVではないと思う」は 0.0%となっています。

「DVだと思う」については、女性が男性より 5.0 ポイント低くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 8.7 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 11.6 ポイント増加しています。



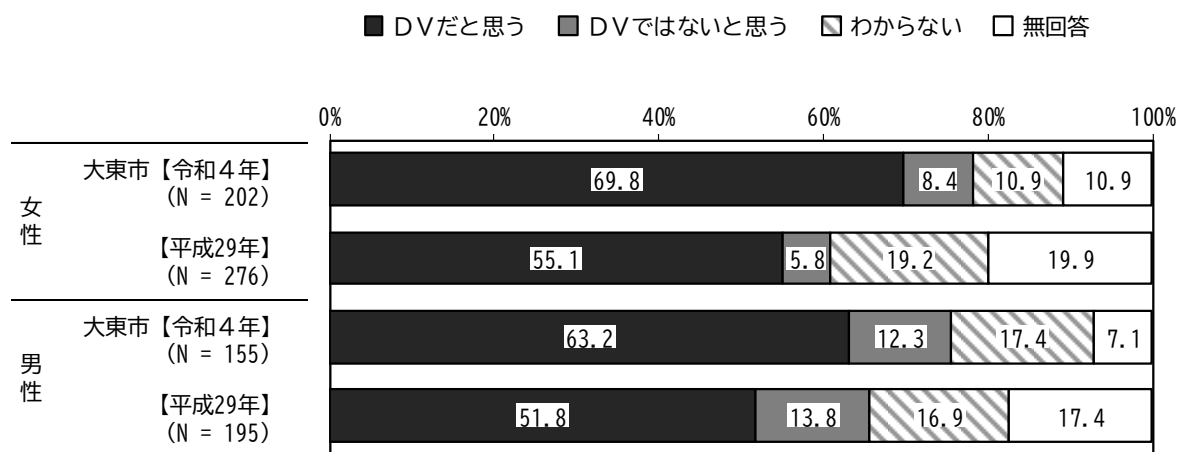
⑮「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 69.8%、「DVではないと思う」は 8.4%で、男性では「DVだと思う」は 63.2%、「DVではないと思う」は 12.3%となっています。

「DVだと思う」については、女性が男性より 6.6 ポイント高くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 14.7 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 11.4 ポイント増加しています。



⑯物をこわしたり、物を投げる

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 83.7%、「DVではないと思う」は 2.0%で、男性では「DVだと思う」は 83.9%、「DVではないと思う」は 5.2%となっています。

「DVだと思う」、「DVではないと思う」のいずれについても、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 14.9 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 14.7 ポイント増加しています。



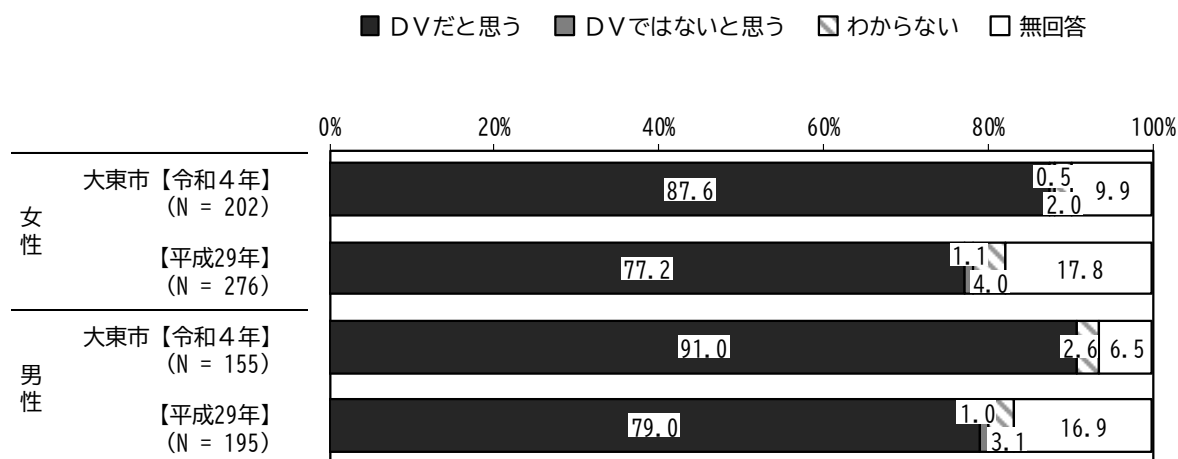
⑰なぐる、ける、突きとばす

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思ふ」は 87.6%、「DVではないと思ふ」は 0.5%で、男性では「DVだと思ふ」は 91.0%、「DVではないと思ふ」は 0.0%となっています。

「DVだと思ふ」、「DVではないと思ふ」のいずれについても、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思ふ」の割合が 10.4 ポイント増加し、男性は「DVだと思ふ」の割合が 12.0 ポイント増加しています。



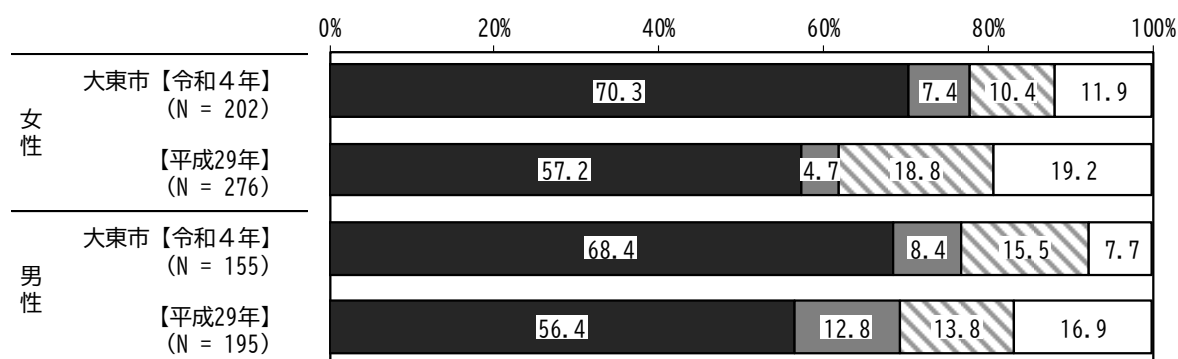
⑱生活費を渡さない

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思ふ」は 70.3%、「DVではないと思ふ」は 7.4%で、男性では「DVだと思ふ」は 68.4%、「DVではないと思ふ」は 8.4%となっています。

「DVだと思ふ」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思ふ」の割合が 13.1 ポイント増加し、男性は「DVだと思ふ」の割合が 12.0 ポイント増加しています。



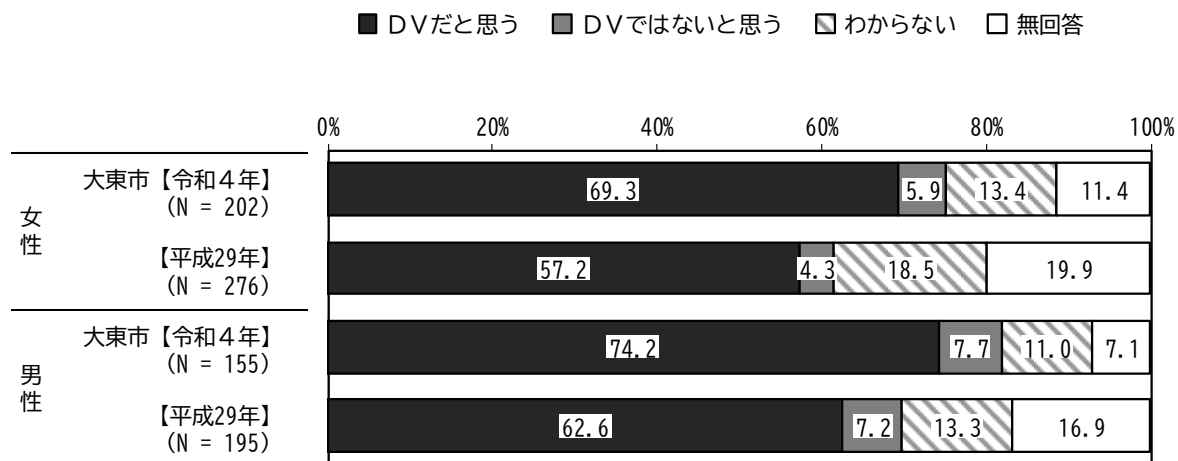
①働く事を妨害する

【経年比較（性別）】

女性では「DVだと思う」は 69.3%、「DVではないと思う」は 5.9%で、男性では「DVだと思う」は 74.2%、「DVではないと思う」は 7.7%となっています。

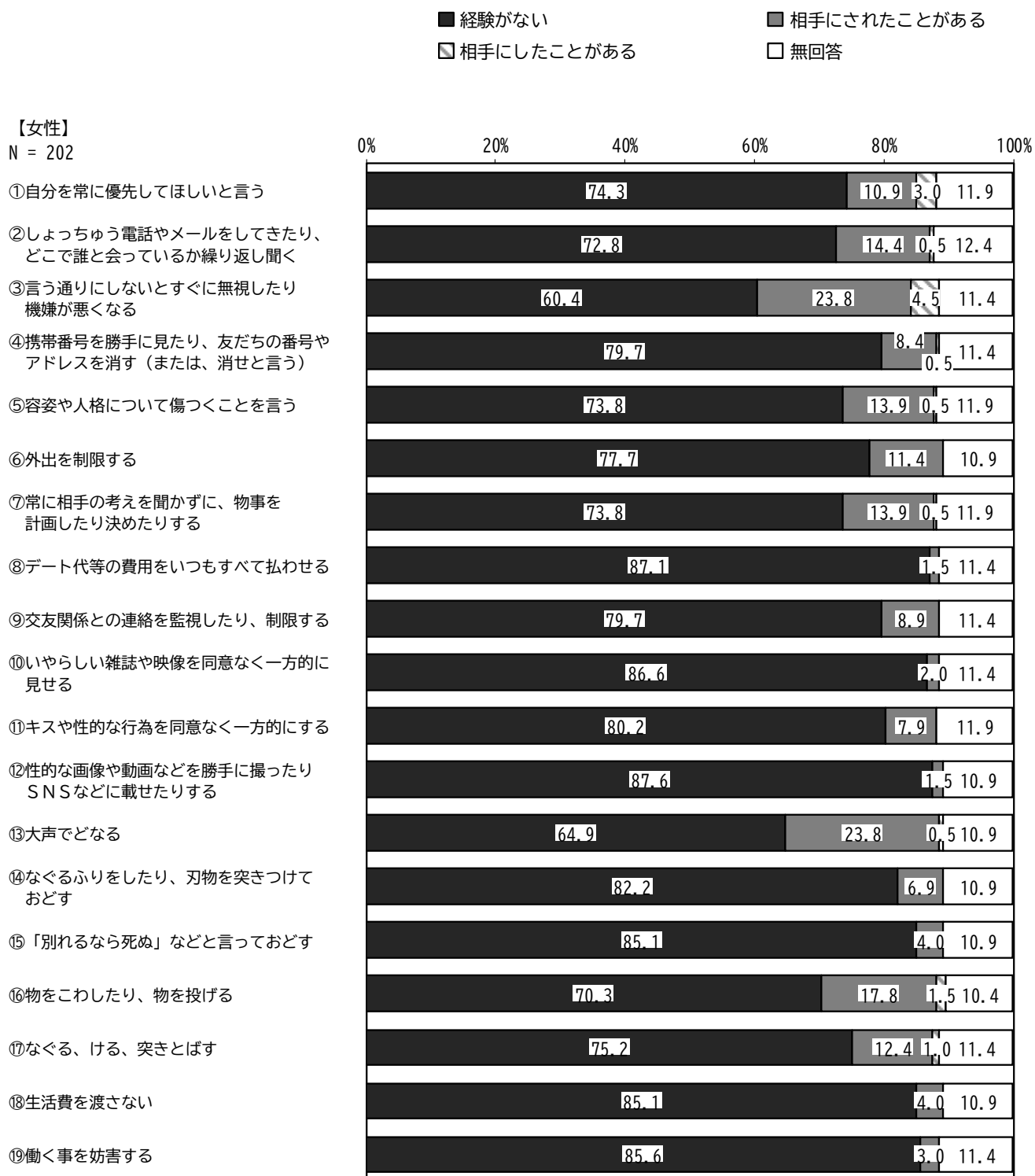
「DVだと思う」については、女性と男性の差はほぼありません。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「DVだと思う」の割合が 12.1 ポイント増加し、男性は「DVだと思う」の割合が 11.6 ポイント増加しています。



〈 DV・デートDVの経験 〉

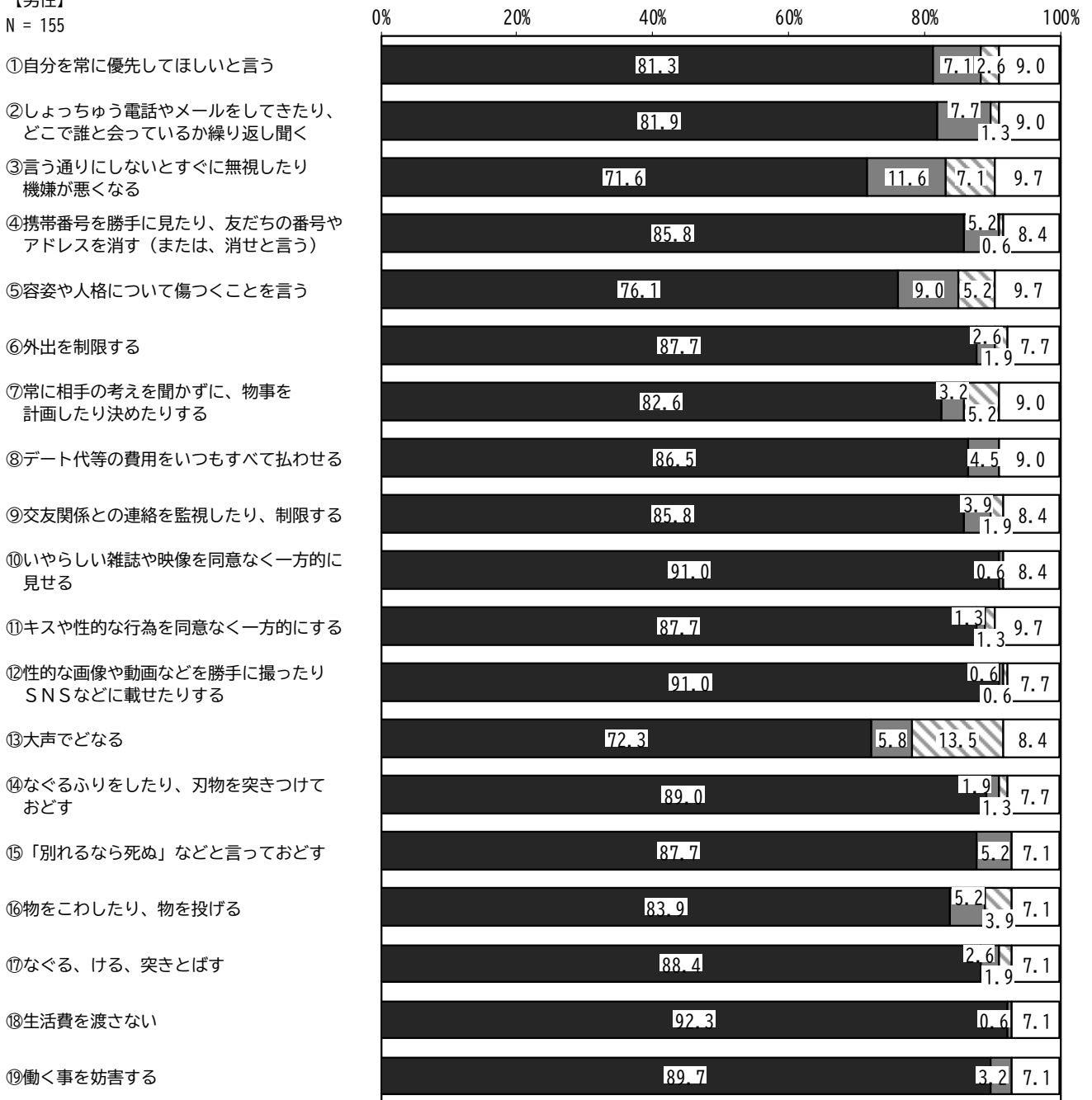
女性では『③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる』、『⑬大声でどなる』で「相手にされたことがある」の割合が高くなっています。



男性では『③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる』で「相手にされたことがある」の割合が、『⑬大声でどなる』で「相手にしたことがある」の割合が高くなっています。

■ 経験がない ■ 相手にされたことがある
 □ 相手にしたことがある □ 無回答

【男性】
 N = 155

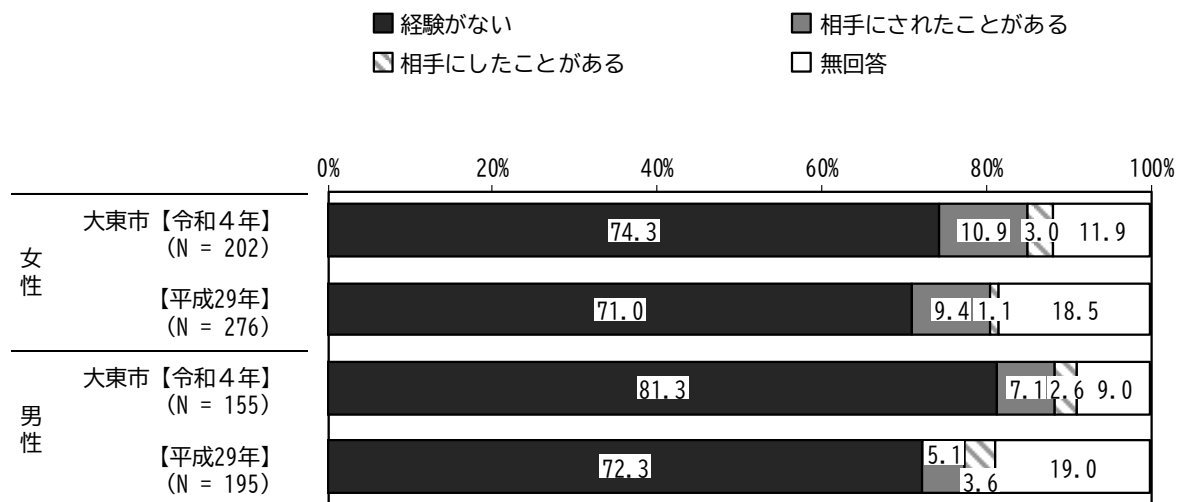


①自分を常に優先してほしいと言う

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は10.9%、「相手にしたことがある」が3.0%、男性では「相手にされたことがある」は7.1%、「相手にしたことがある」が2.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は大きな変化はみられません。男性は「経験がない」の割合が増加しています。



②しょっちゅう電話やメールをしてきたり、どこで誰と会っているか繰り返し聞く

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は14.4%、「相手にしたことがある」が0.5%、男性では「相手にされたことがある」は7.7%、「相手にしたことがある」が1.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は大きな変化はみられません。男性は「経験がない」の割合が増加しています。

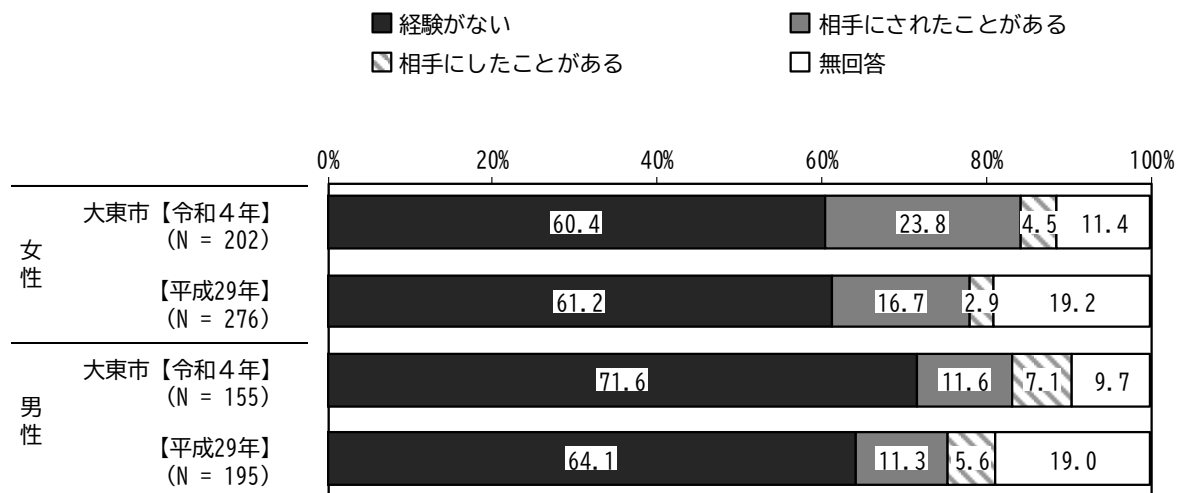


③言う通りにしないとすぐに無視したり機嫌が悪くなる

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は23.8%、「相手にしたことがある」が4.5%、男性では「相手にされたことがある」は11.6%、「相手にしたことがある」が7.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「相手にされたことがある」の割合が増加しています。男性は「経験がない」の割合が増加しています。

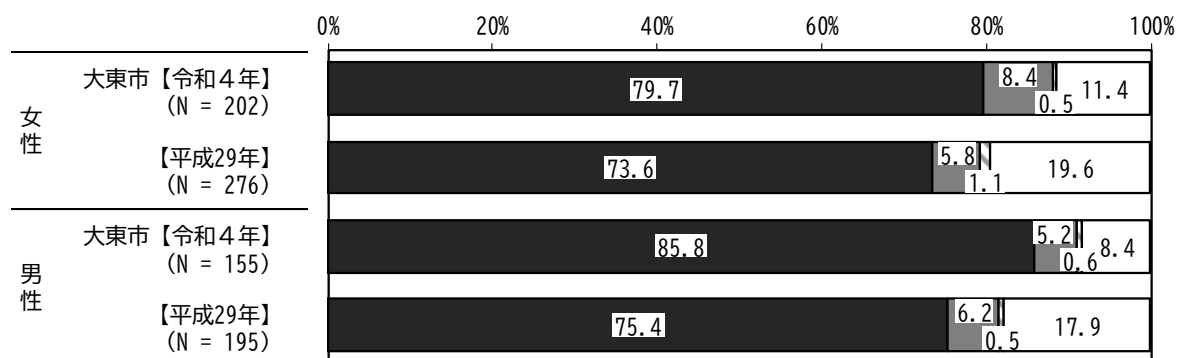


④携帯番号を勝手に見たり、友だちの番号やアドレスを消す（または、消せと言う）

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は8.4%、「相手にしたことがある」が0.5%、男性では「相手にされたことがある」は5.2%、「相手にしたことがある」が0.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

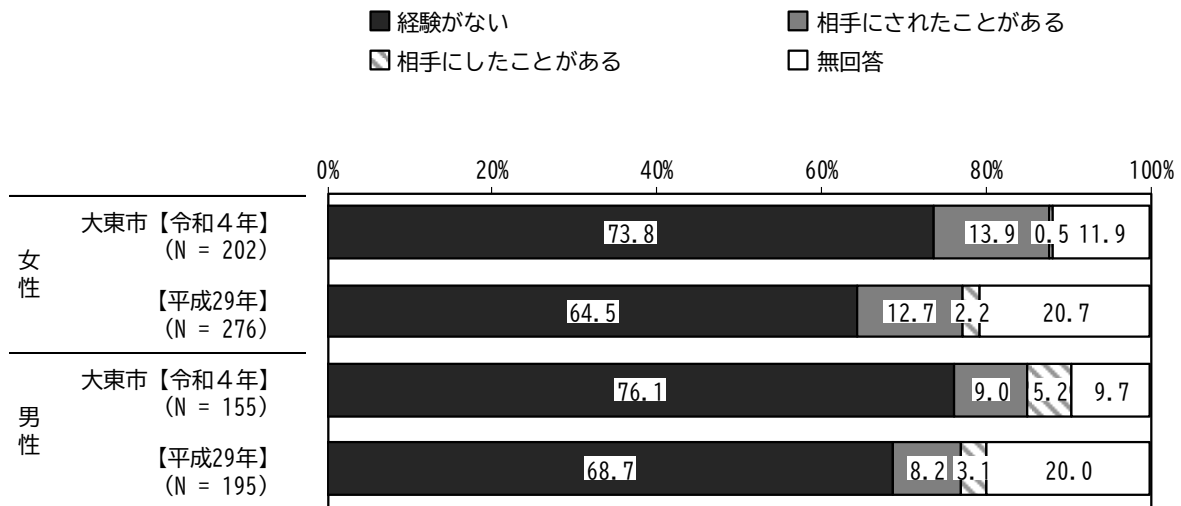


⑤容姿や人格について傷つくことを言う

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は13.9%、「相手にしたことがある」が0.5%、男性では「相手にされたことがある」は9.0%、「相手にしたことがある」が5.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

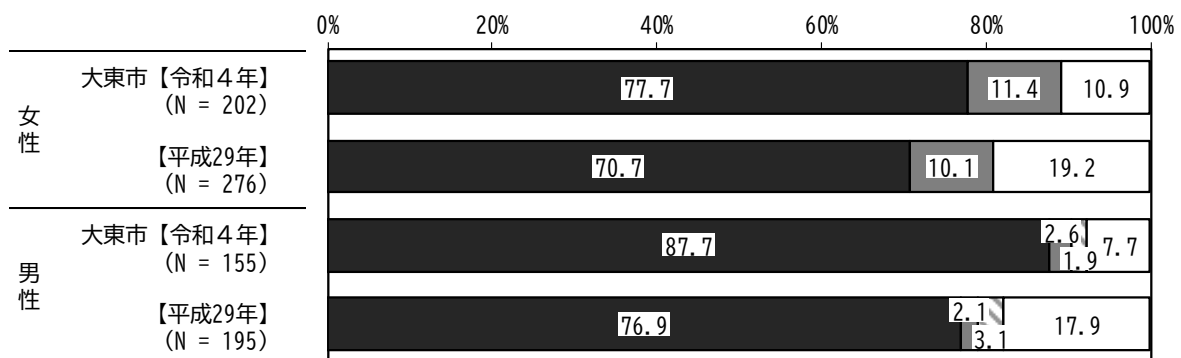


⑥外出を制限する

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は11.4%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は2.6%、「相手にしたことがある」が1.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

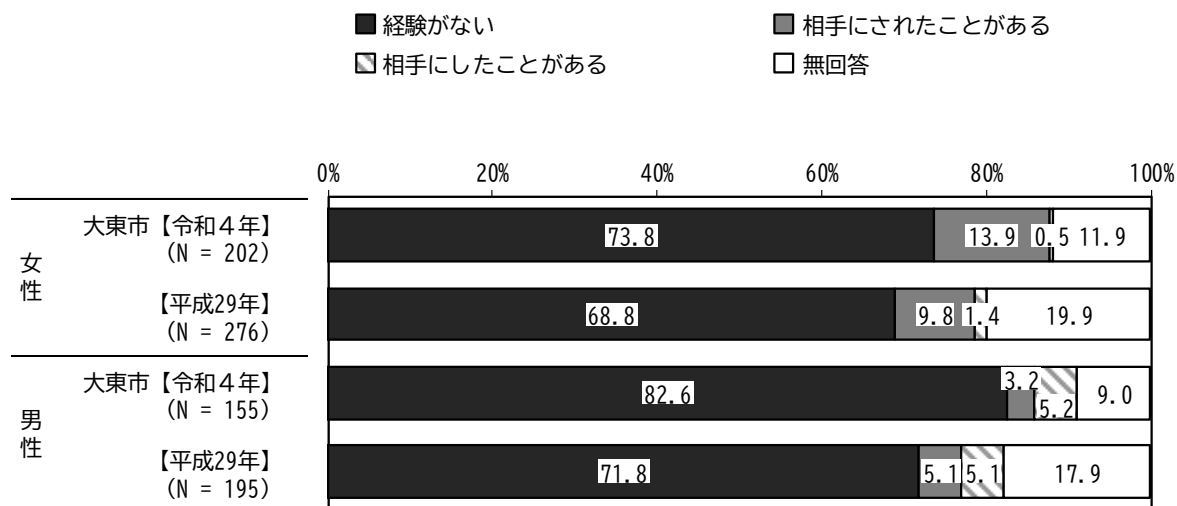


⑦常に相手の考えを聞かずに、物事を計画したり決めたりする

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は13.9%、「相手にしたことがある」が0.5%、男性では「相手にされたことがある」は3.2%、「相手にしたことがある」が5.2%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

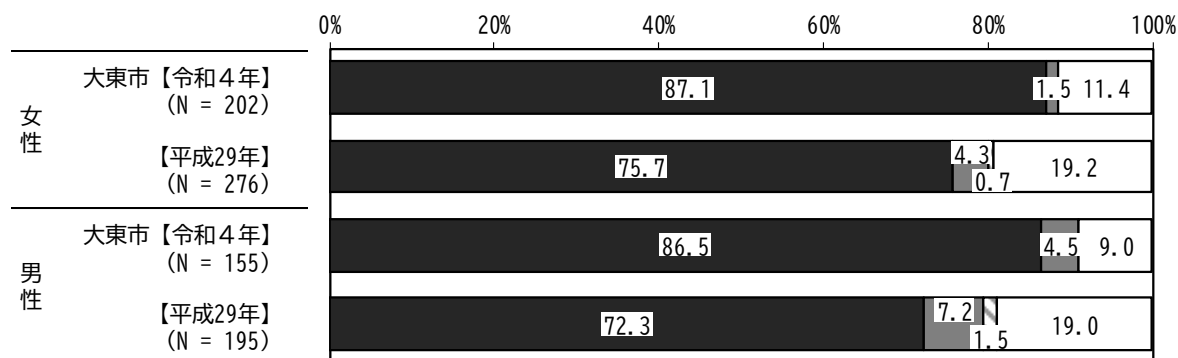


⑧デート代等の費用をいつもすべて払わせる

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は1.5%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は4.5%、「相手にしたことがある」が0.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

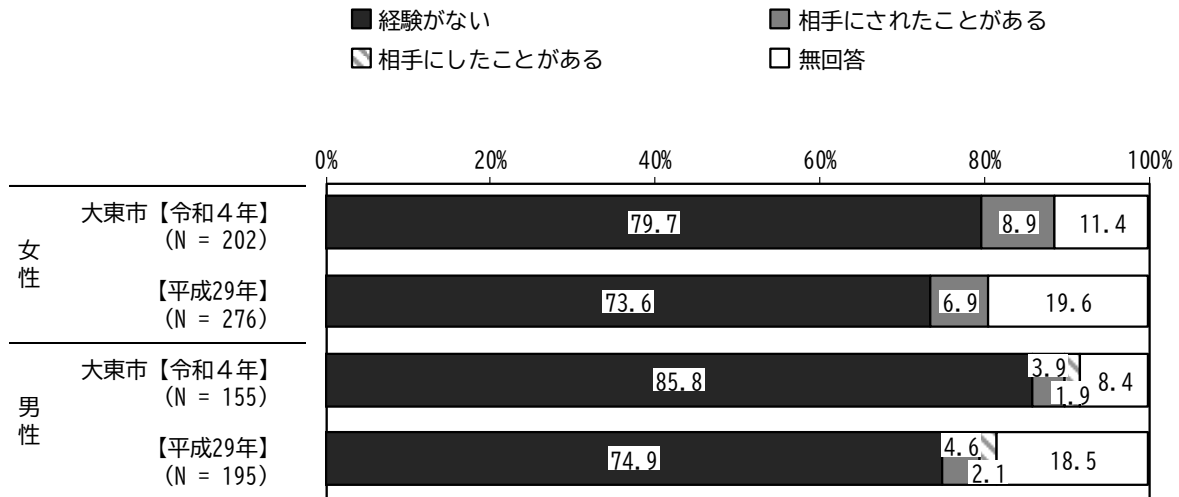


⑨交友関係との連絡を監視したり、制限する

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は8.9%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は3.9%、「相手にしたことがある」が1.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

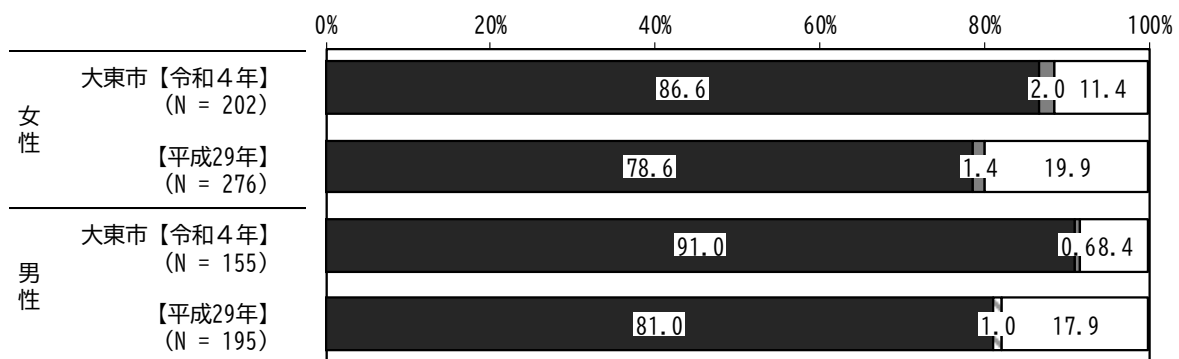


⑩いやらしい雑誌や映像を同意なく一方的に見せる

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は2.0%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は0.6%、「相手にしたことがある」が0.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

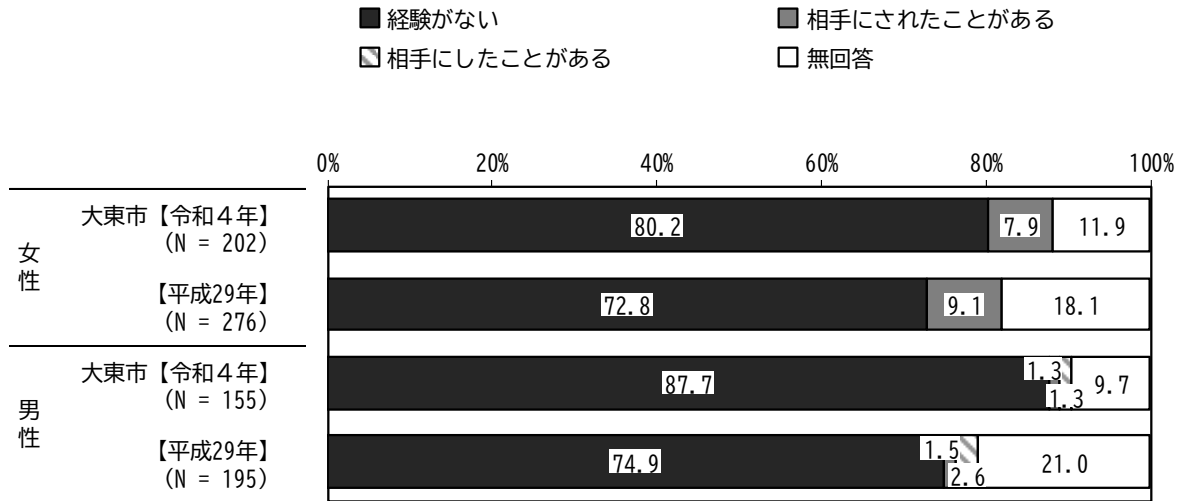


⑪キスや性的な行為を同意なく一方的にする

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は7.9%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は1.3%、「相手にしたことがある」が1.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

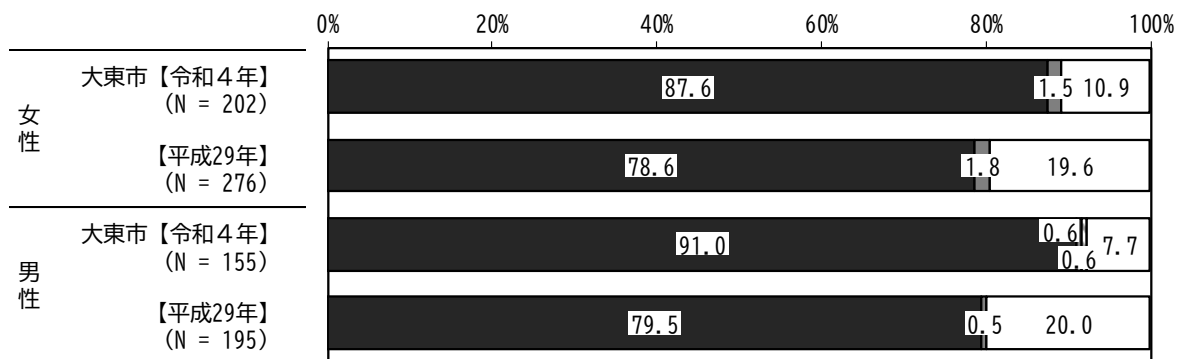


⑫性的な画像や動画などを勝手に撮ったりSNSなどに載せたりする

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は1.5%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は0.6%、「相手にしたことがある」が0.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

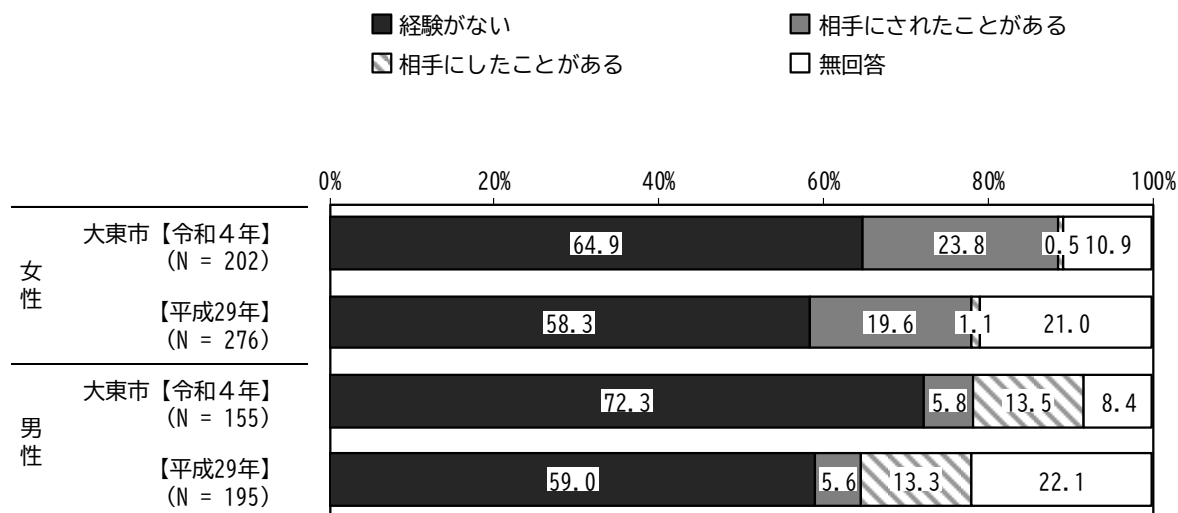


⑬大声でどなる

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は23.8%、「相手にしたことがある」が0.5%、男性では「相手にされたことがある」は5.8%、「相手にしたことがある」が13.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

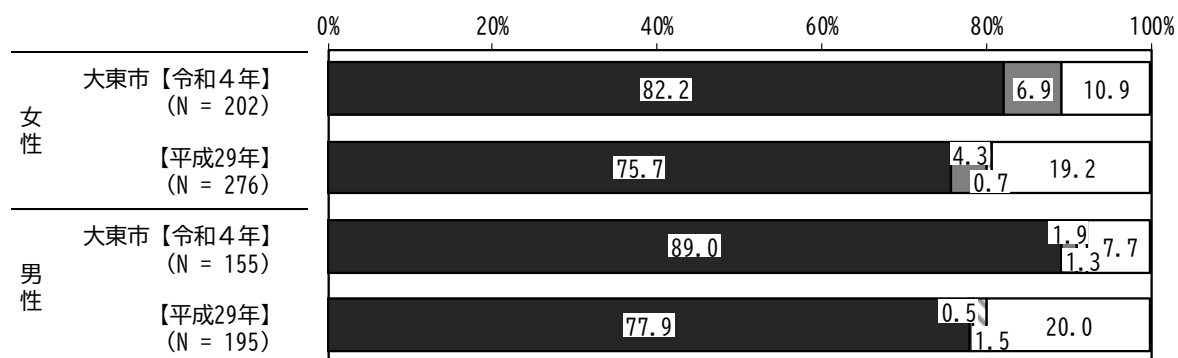


⑭なぐるふりをしたり、刃物を突きつけておどす

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は6.9%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は1.9%、「相手にしたことがある」が1.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

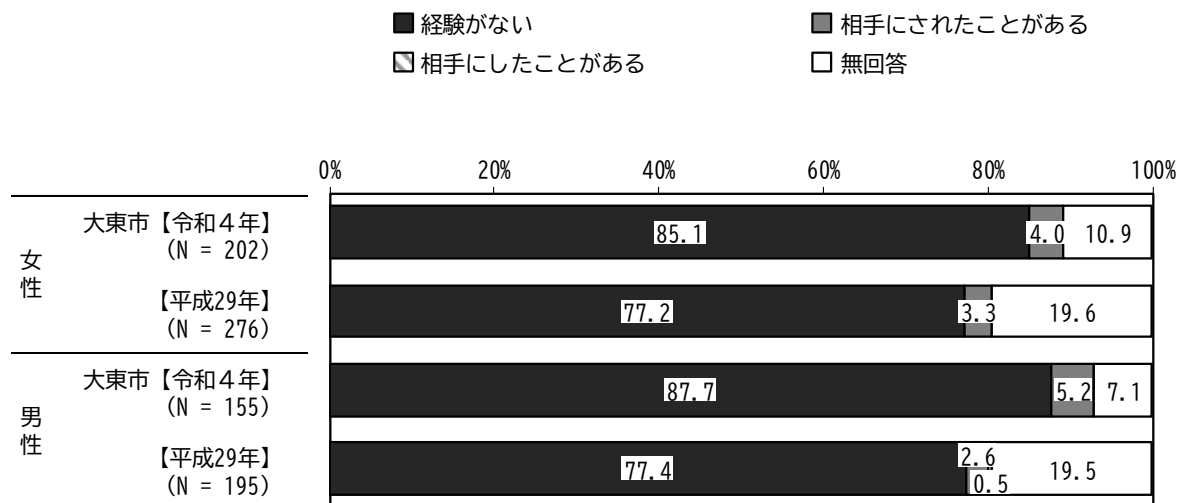


⑮「別れるなら死ぬ」などと言っておどす

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は4.0%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は5.2%、「相手にしたことがある」が0.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

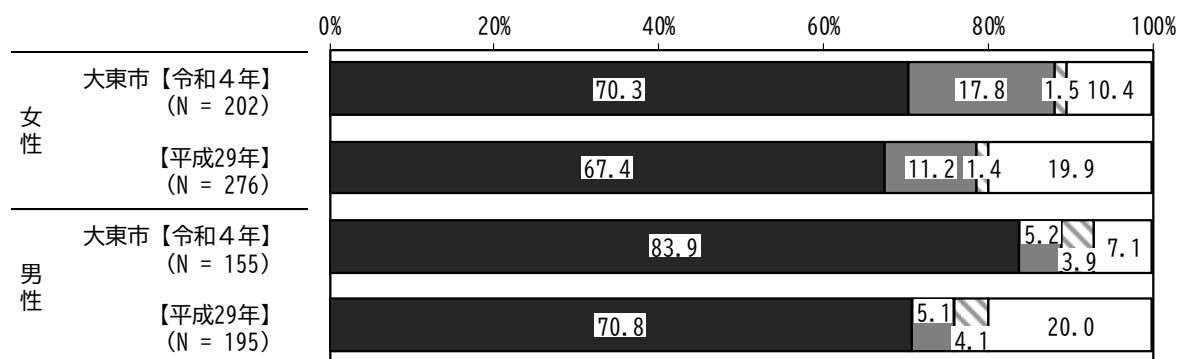


⑯物をこわしたり、物を投げる

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は17.8%、「相手にしたことがある」が1.5%、男性では「相手にされたことがある」は5.2%、「相手にしたことがある」が3.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「相手にされたことがある」の割合が増加しています。男性は「経験がない」の割合が増加しています。

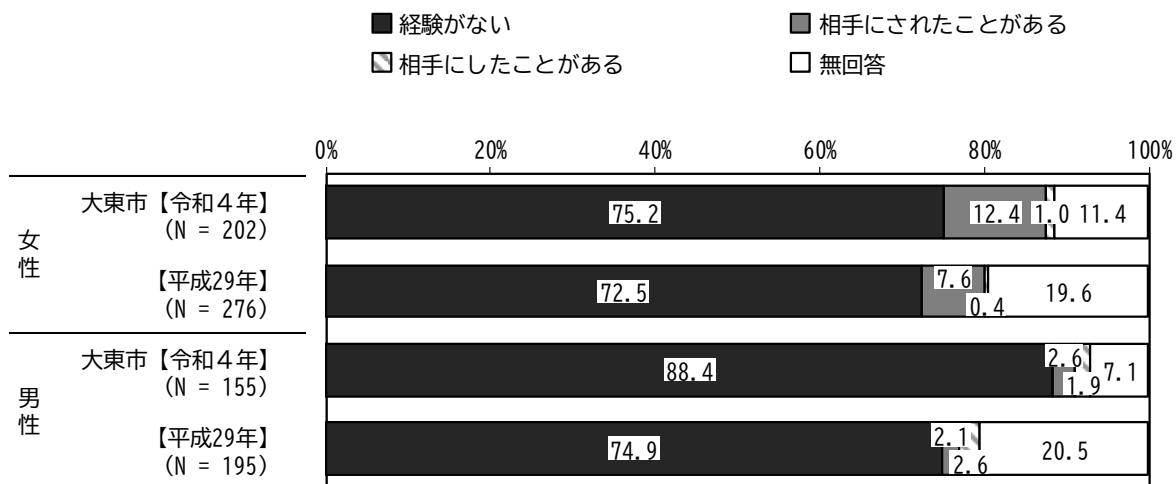


⑰なぐる、ける、突きとばす

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は12.4%、「相手にしたことがある」が1.0%、男性では「相手にされたことがある」は2.6%、「相手にしたことがある」が1.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は大きな変化はみられません。男性は「経験がない」の割合が増加しています。

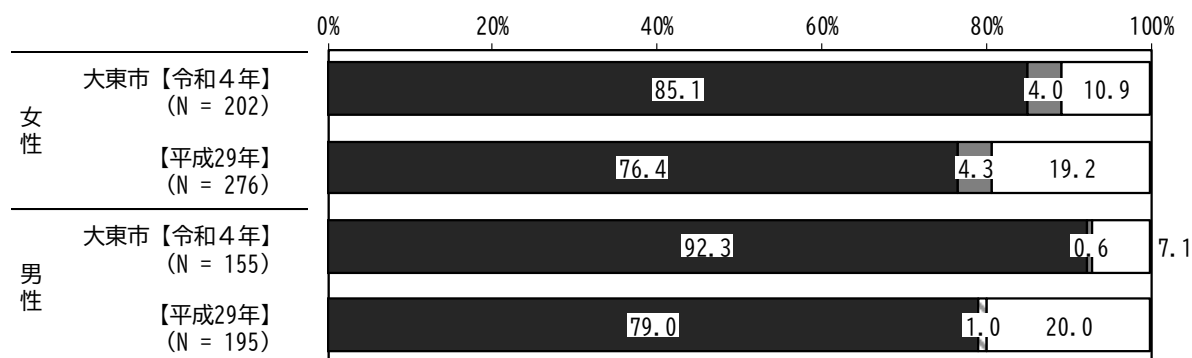


⑱生活費を渡さない

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は4.0%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は0.6%、「相手にしたことがある」が0.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。

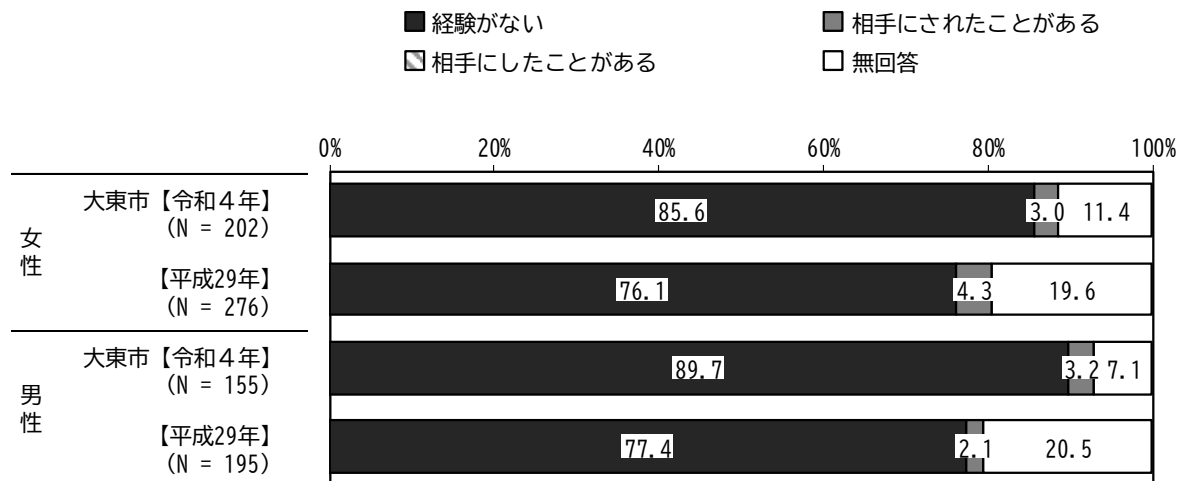


①働く事を妨害する

【経年比較（性別）】

女性では「相手にされたことがある」は3.0%、「相手にしたことがある」が0.0%、男性では「相手にされたことがある」は3.2%、「相手にしたことがある」が0.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「経験がない」の割合が増加しています。



問16 【問15の【DV・デートDVの経験】で1つでも「2. 相手にされたことがある」、「3. 相手にしたことがある」と答えた人にお聞きします。】

それらの行為をしたり、されたりしたそのあと、誰かに相談しましたか。(○は1つ)

女性では「相談した」(29.9%)、「相談しなかった」(65.5%)、男性では「相談した」(7.3%)、「相談しなかった」(76.4%)となっています。

女性と男性を比較すると、「相談しなかった」については、男性は女性より10.9ポイント高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	相談した	相談しなかった	無回答
全体	147	21.1	70.1	8.8
女性	87	29.9	65.5	4.6
男性	55	7.3	76.4	16.4

問16-① 【問16で、「1. 相談した」と答えた人にお聞きします。】

それは誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

女性では、「親、祖父母、兄弟姉妹、親族」(73.1%)の割合が最も高く、次いで「友人、知人」(53.8%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	親、祖父母、 兄弟姉妹、 親族	友人、 知人	学校関係者	医療関係者 (医師・看護師など)	市役所の相談窓口	大阪府中央子ども家庭センター	大阪府女性相談センター	警察	法務局、 人権擁護委員	民間の相談窓口	弁護士・ 弁護士会	その他	無回答
全体	31	67.7	51.6	-	3.2	6.5	-	-	16.1	-	-	6.5	3.2	3.2
女性	26	73.1	53.8	-	3.8	3.8	-	-	7.7	-	-	3.8	-	3.8
男性	4	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-	50.0	-	-	25.0	25.0	-

問16-1 その他回答

2人で話して解決した。

相手の性格の問題で、人に相談することではないと思った。

問16-② 【問16で、「2. 相談しなかった」と答えた人にお聞きします。】

それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

女性では、「相談するほどたいしたことでもないと思った」(40.4%)の割合が最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」(35.1%)、「誰(どこ)に相談しても無駄だと思った」(28.1%)「自分にも非があると思った」(24.6%)となっています。

男性では、「相談するほどたいしたことでもないと思った」(52.4%)の割合が最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思った」(23.8%)、「誰(どこ)に相談しても無駄だと思った」(19.0%)、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった」(16.7%)、「自分にも非があると思った」(16.7%)となっています。

女性と男性を比較すると、概ね同じ傾向であるが、「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が女性の方が11.3ポイント高くなっています。

単位：%

区分	N (件)	誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった	誰(どこ)に相談しても無駄だと思った	相談したことが相手(恋人)にわかると怖くて、何もできなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	自分さえ我慢すればよいと思った	自分にも非があると思った	自分のための好意的な行為だと思った	相談するほどたいしたことでもないと思った	その他	無回答
全体	103	15.5	23.3	5.8	7.8	29.1	20.4	5.8	45.6	6.8	3.9
女性	57	14.0	28.1	10.5	12.3	35.1	24.6	7.0	40.4	7.0	3.5
男性	42	16.7	19.0	—	2.4	23.8	16.7	4.8	52.4	7.1	2.4

問16-2 その他回答

精神的に病んでしまっていたから。

(経済的な暴力だと思ったが)男がお金を払うのが当たり前の風潮になっているから。

その他4件

6 様々な活動と男女共同参画について

問17 大震災や水害等の災害時において性別による配慮や被災者のニーズに十分に
 応えていくために必要なことは何ですか。(○は主なもの2つ以内)

女性では、「避難所の設備（プライバシー空間の確保、男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」（71.3%）の割合が最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」（32.7%）、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人へのサポート体制）」（29.7%）、「災害対策本部、防災会議に男女がともに参画し、対策・計画に男女両方の視点が入ること」（25.2%）となっています。

男性では、「避難所の設備（プライバシー空間の確保、男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」（74.8%）の割合が最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」（35.5%）、「災害対策本部、防災会議に男女がともに参画し、対策・計画に男女両方の視点が入ること」（22.6%）、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人へのサポート体制）」（21.3%）となっています。

単位：%

区分	N(件)	避難所の設備（プライバシー空間の確保、男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）	避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人へのサポート体制）	相談支援体制の充実（母子・父子世帯、高齢者、障がい者、妊産婦、外国人等）	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に下着等を支給する際の女性への配慮	災害対策本部、防災会議に男女がともに参画し、対策・計画に男女両方の視点が入ること	その他	無回答
全体	372	72.8	33.6	25.8	8.9	11.0	24.2	1.3	4.8
女性	202	71.3	32.7	29.7	11.4	9.9	25.2	1.5	5.0
男性	155	74.8	35.5	21.3	5.8	12.9	22.6	1.3	4.5

問17 その他回答

避難所での性被害・レイプに遭う危険があることの周知、そしてそれを防ぐための防犯、監視体制を整えること。

まずは何よりも人命を優先すべきだと思うので、男女どちらよりも人命に関わる事を優先すべきだと思う。食事などの備蓄品のニーズと残数の把握など。

施設の備蓄情報。ペット対応かどうか。

問18 あなたは、議会の議員や審議会の委員など、政策決定の場に女性の参画が増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は主なもの2つ以内)

女性では、「女性が参画することへの抵抗感をなくす」(42.6%)の割合が最も高く、次いで「女性の活動を支援する人・組織・ネットワークの充実」(26.7%)、「女性自身が積極的な参画意識を持ち、行動すること」(25.2%)、「女性の比率を高めるための施策の充実」(24.8%)、「女性が参画することに対して家族からの支援や協力があること」(17.3%)、「女性の能力開発の機会を充実させること」(16.3%)となっています。

男性では、「女性自身が積極的な参画意識を持ち、行動すること」(34.2%)の割合が最も高く、次いで「女性が参画することへの抵抗感をなくす」(32.3%)、「女性の比率を高めるための施策の充実」(30.3%)、「女性の活動を支援する人・組織・ネットワークの充実」(25.8%)、「女性の能力開発の機会の充実」(20.0%)、「女性が参画することに対して家族からの支援や協力があること」(19.4%)となっています。

単位：%

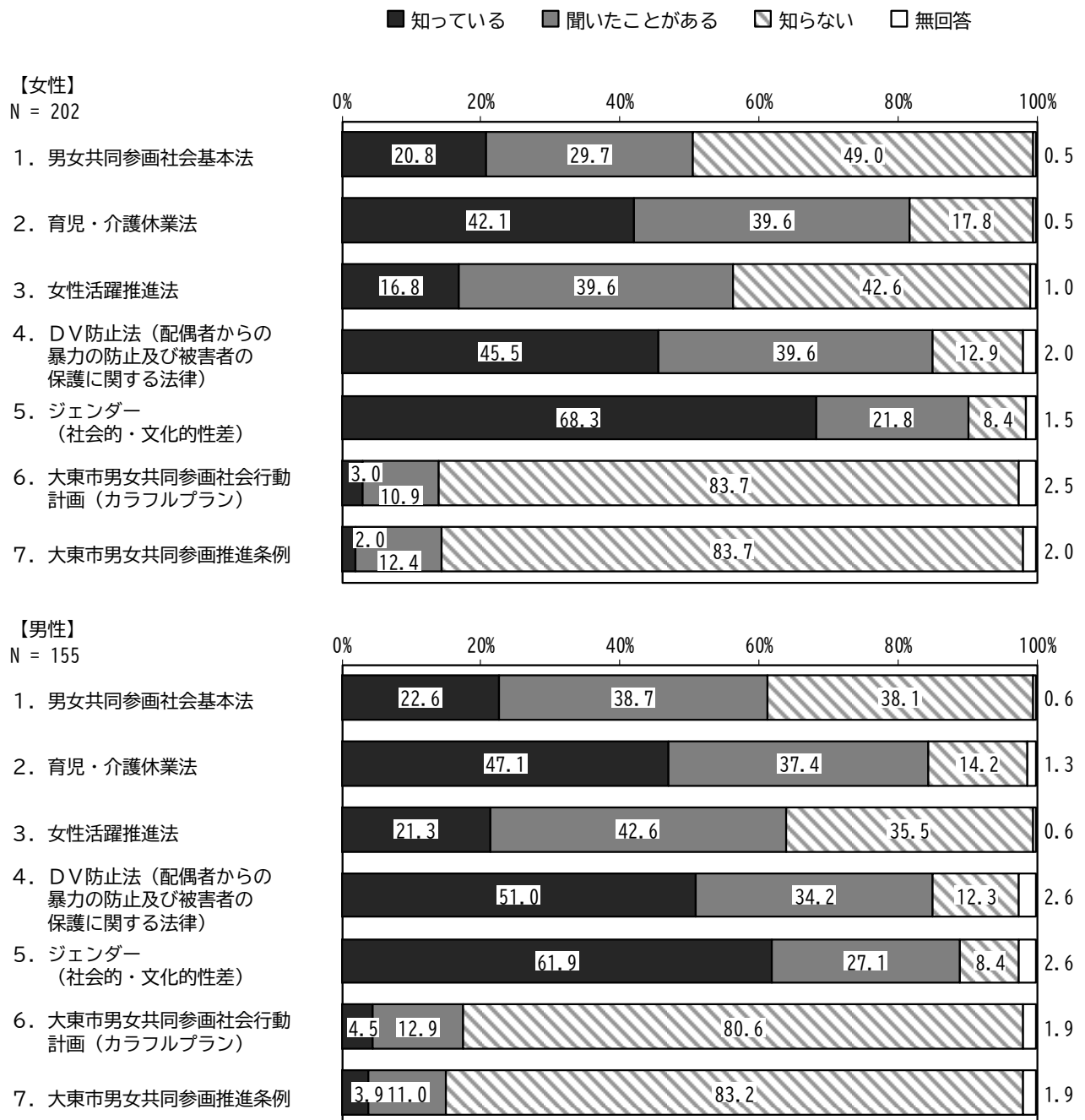
区分	N (件)	女性が参画することへの抵抗感をなくす	女性の比率を高めるための施策の充実	女性の能力開発の機会の充実	女性自身が積極的な参画意識を持ち、行動すること	女性が参画することに対して家族からの支援や協力	女性の活動を支援する人・組織・ネットワークの充実	女性の参画を進める必要はない	その他	無回答
全体	372	37.9	26.1	18.5	30.1	18.0	26.1	0.5	2.4	5.6
女性	202	42.6	24.8	16.3	25.2	17.3	26.7	1.0	1.5	5.9
男性	155	32.3	30.3	20.0	34.2	19.4	25.8	—	3.2	4.5

問18 その他回答
女性を優先する必要はないと思うが、男女を平等にすれば良いと思う。
男女に関係なく、その人の経験、知識等の能力を十分に発揮できる人を選任すべき。
その政策決定の場にいる男性の、女性を受け入れる意識。
無理に女性を参画させる必要はない。性別によるのではなく、能力や適性のある人が参画すべき。
このような質問が既に差別をしている気がするので、能力を細かな資格でランクをつけ、過去の社会活動への参加歴などを一緒に管理し男女の参画意識より、その人が人として判断されればいいのではと思います。

7 男女共同参画に関する法律やことば、ことがらについて

問19 あなたは、次の言葉について知っていますか（それぞれ○は1つ）

性別に関わらず、同様の傾向となっており、『5. ジェンダー（社会的・文化的性差）』で「知っている」の割合が、『6. 大東市男女共同参画社会行動計画（カラフルプラン）』、『7. 大東市男女共同参画推進条例』で「知らない」の割合が高くなっています。

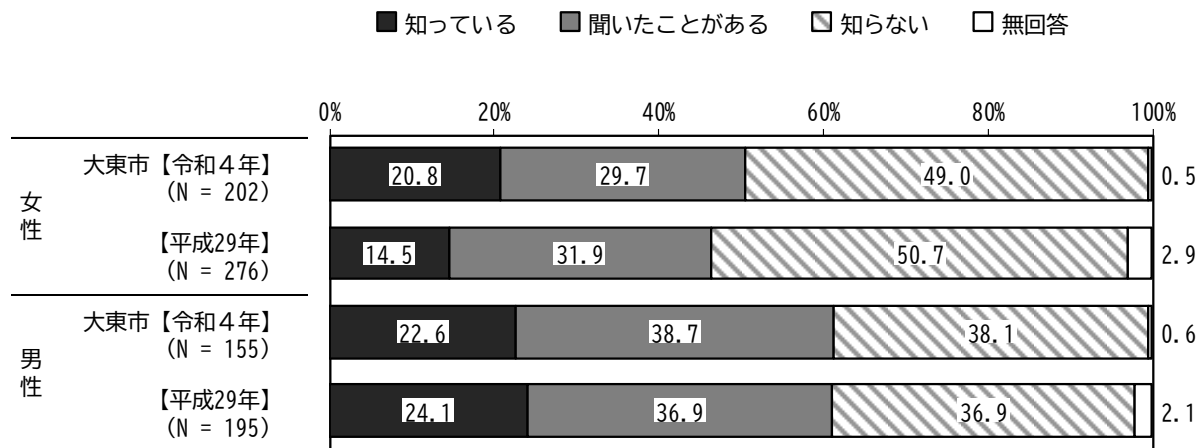


1. 男女共同参画社会基本法

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は20.8%、「聞いたことがある」が29.7%、男性では、「知っている」は22.6%、「聞いたことがある」が38.7%となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「知っている」の割合が増加しています。男性は大きな変化はみられません。

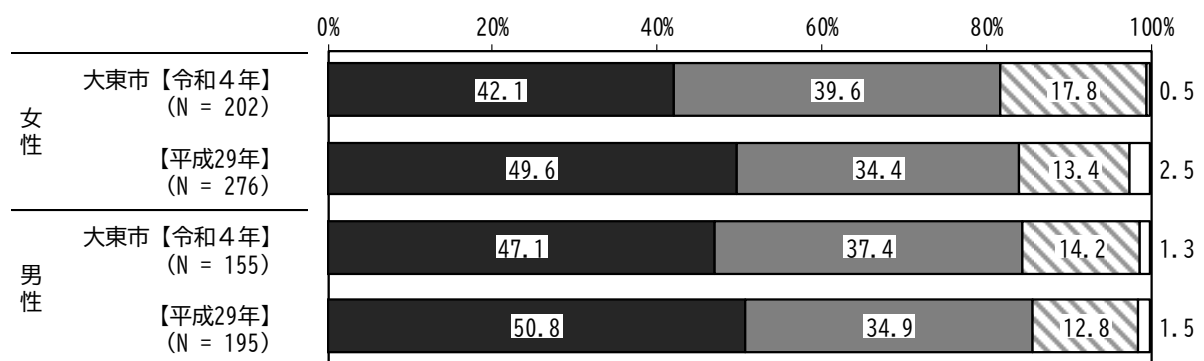


2. 育児・介護休業法

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は42.1%、「聞いたことがある」が39.6%、男性では、「知っている」は47.1%、「聞いたことがある」が37.4%となっています。女性、男性とも認知率は高く、差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性は「聞いたことがある」の割合が増加しています。一方、「知っている」の割合が減少しています。男性は大きな変化はみられません。

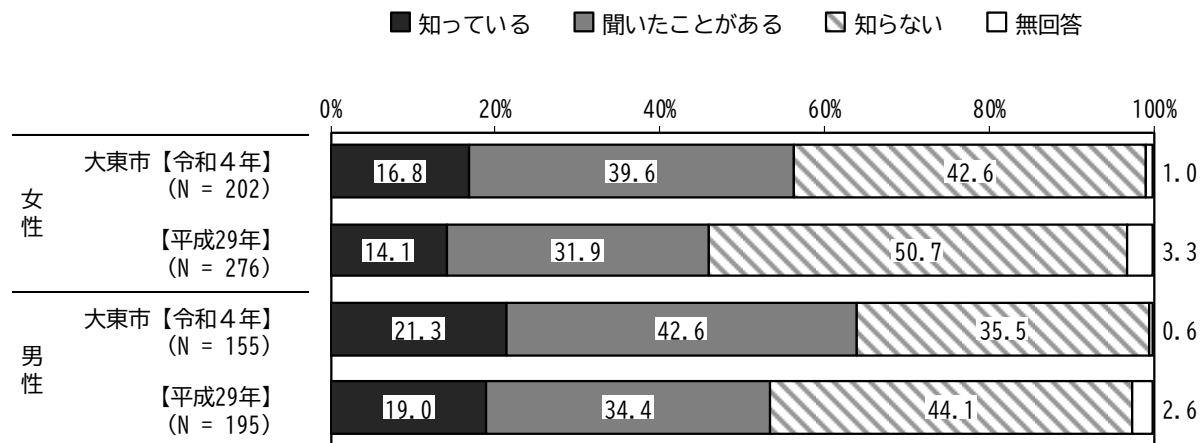


3. 女性活躍推進法

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は16.8%、「聞いたことがある」が39.6%、男性では、「知っている」は21.3%、「聞いたことがある」が42.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「聞いたことがある」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。

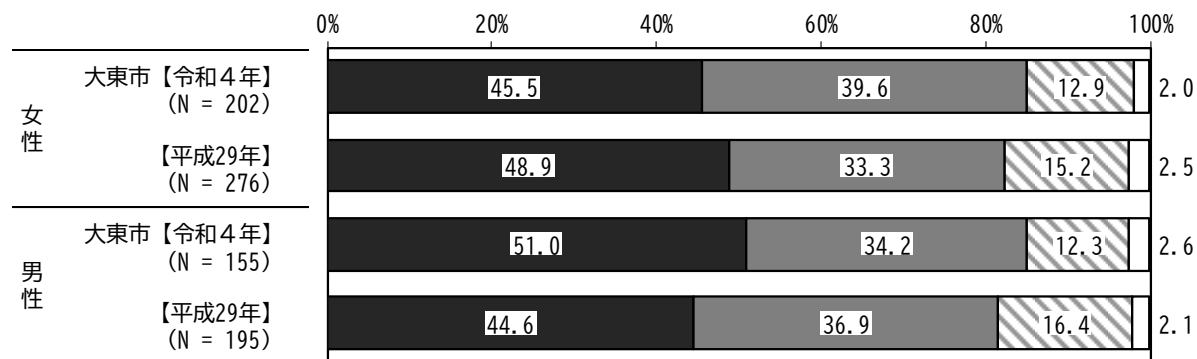


4. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は45.5%、「聞いたことがある」が39.6%、男性では、「知っている」は51.0%、「聞いたことがある」が34.2%となっています。女性、男性とも認知率は高く、差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、女性は「聞いたことがある」の割合が増加しています。男性は「知っている」の割合が増加しています。

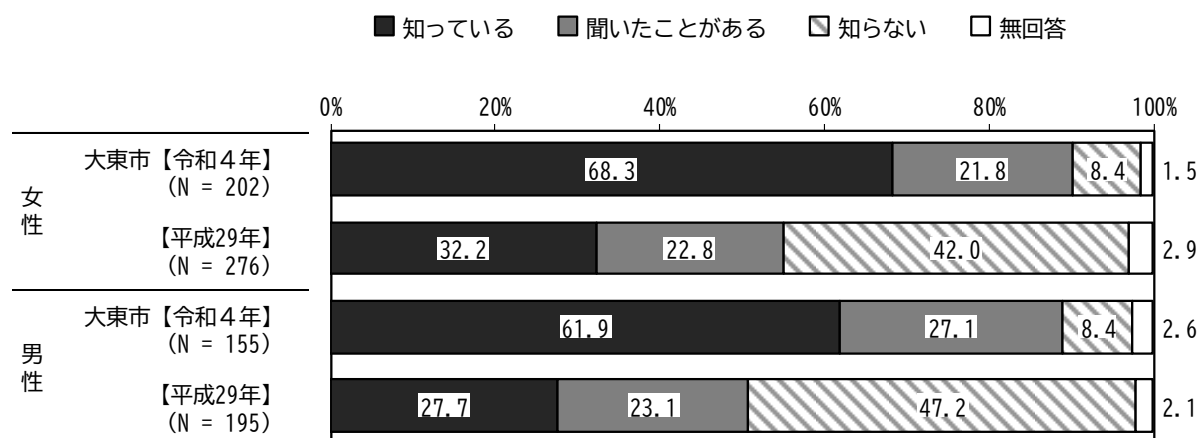


5. ジェンダー（社会的・文化的性差）

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は68.3%、「聞いたことがある」が21.8%、男性では、「知っている」は61.9%、「聞いたことがある」が27.1%となっています。性別に関わらず認知率は高く、差はほぼありません。

平成29年度調査と比較すると、性別に関わらず「知っている」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。

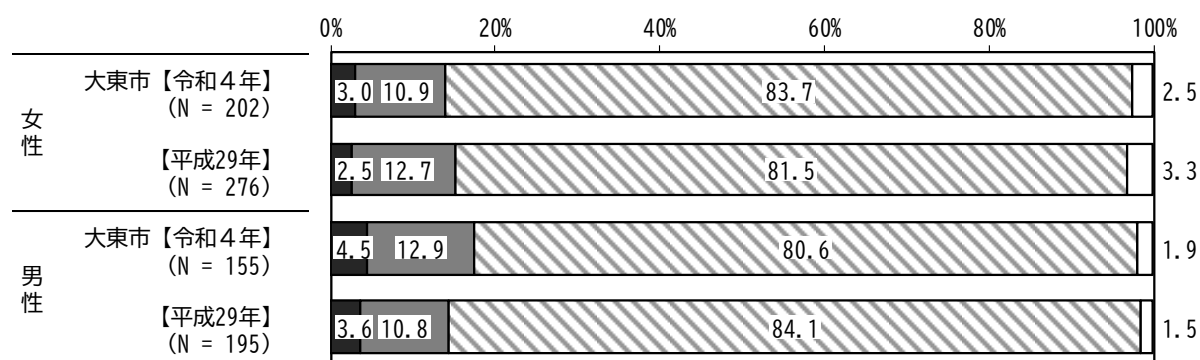


6. 大東市男女共同参画社会行動計画（カラフルプラン）

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は3.0%、「聞いたことがある」が10.9%、男性では、「知っている」は4.5%、「聞いたことがある」が12.9%である。女性、男性とも認知率は低くなっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

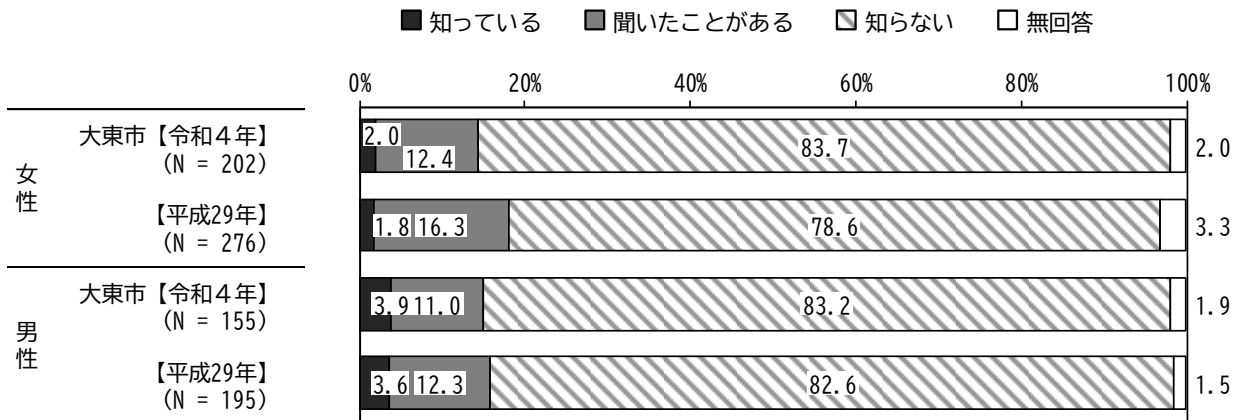


7. 大東市男女共同参画推進条例

【経年比較（性別）】

女性では、「知っている」は 2.0%、「聞いたことがある」が 12.4%、男性では、「知っている」は 3.9%、「聞いたことがある」が 11.0%となっています。女性、男性とも認知率は低くなっています。

平成 29 年度調査と比較すると、女性は「知らない」の割合が増加しています。男性は大きな変化はみられません。



8 ダイバーシティ、多様性について

問20 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）について、どの程度知っていますか。（○は1つ）

女性では、「言葉も意味も両方知っている」（48.0%）の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」（32.2%）、「言葉も知らない」（18.3%）となっています。

男性では、「言葉も意味も両方知っている」（43.2%）の割合が最も高く、次いで「言葉だけは知っている」（41.3%）、「言葉も知らない」（12.3%）となっています。

単位：%

区分	N (件)	言葉も意味も両方知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らない	無回答
全体	372	46.2	35.2	15.9	2.7
女性	202	48.0	32.2	18.3	1.5
男性	155	43.2	41.3	12.3	3.2

問21 あなたは、今までに性自認（自分で自分の性別をどう思うか）または性的指向（どんな性別の人を好きになるか）に悩んだことがありますか。（○は1つ）

女性では、「ある」（2.5%）、「ない」（94.6%）となっています。

男性では、「ある」（1.3%）、「ない」（94.8%）となっています。

単位：%

区分	N (件)	ある	ない	無回答
全体	372	1.9	93.8	4.3
女性	202	2.5	94.6	3.0
男性	155	1.3	94.8	3.9

問21 その他回答

女性だから女性らしい服を着るように言われたり、女性だからメイクを強制されたりするが、中身の性別が男女どちらでもないのが正直困る。

自分のことではないが、自分の子どもがそうではないかと考えている。

女性的なおしゃれにアコガレがある。バリエーションが豊富だから。メイクとかネイル。

私はストレートで男性が恋愛対象になりますが、LGBTの人と関わる事で自分自身はどうなのだろうと考える時がありました。

この人と付き合いたい！というような気持ちはあまりないのですが自分の性的指向について考えたことがあり、今のところバイセクシャルかパンセクシャルだろう、ということで落ち着いています。

問22 LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティ（性的少数者）にとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。（○は1つ）

女性では、「どちらかといえばそう思う」(44.1%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(37.6%)となっています。

男性では、「どちらかといえばそう思う」(42.6%)の割合が最も高く、次いで「そう思う」(33.5%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
全体	372	35.5	43.8	7.0	7.3	6.5
女性	202	37.6	44.1	6.9	5.4	5.9
男性	155	33.5	42.6	7.1	9.7	7.1

問23 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）について知っていた・聞いたことがあったことを選んでください。（○はいくつでも）

女性では、「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」（54.0%）の割合が最も高く、次いで「学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと」（40.6%）、「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」（34.2%）となっています。

男性では、「就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること」（48.4%）の割合が最も高く、次いで「学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと」（40.6%）、「当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること」（29.0%）となっています。

単位：%

区分	N (件)	学校において当事者は不登校や不適応になりやすいこと	就職や就業において当事者は不利益な扱いや差別を受ける場合があること	当事者カップルでの賃貸住宅入居や共同での住宅ローン契約を断られる場合があること	パートナーが医療を受ける際に当事者が望まない扱いを受ける場合があること	当事者はそうでない人に比べて精神面で不調となる率や自殺率が高いこと	当事者はそうでない人に比べて性被害を受けやすいこと	災害の避難所で当事者は困難を感じやすいこと	当事者の相談窓口が設置されていること	パートナーシップ宣誓証明制度が実施されていること	その他	無回答
全体	372	40.1	52.2	32.3	25.5	19.6	8.1	24.2	8.6	18.0	1.1	20.7
女性	202	40.6	54.0	34.2	30.7	18.8	5.9	26.7	8.4	21.3	1.5	19.3
男性	155	40.6	48.4	29.0	18.7	19.4	11.0	20.0	9.0	13.5	0.6	21.9

問24 あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(○は1つ)

女性では、「ない」(65.8%)、「ある」(25.7%)となっています。

男性では、「ない」(71.0%)、「ある」(14.2%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	ある	ない	わからない	無回答
全体	372	21.2	67.5	8.9	2.4
女性	202	25.7	65.8	6.9	1.5
男性	155	14.2	71.0	11.6	3.2

【性・年齢別】

女性30歳～39歳、60歳～69歳、で「ある」の割合が高く、70歳以上で「ある」の割合が低くなっています。

男性20歳～29歳で「ある」の割合が高く、60歳～69歳、70歳以上で「ある」の回答はありませんでした。

単位：%

区分	N (件)	ある	ない	わからない	無回答
全体	372	21.2	67.5	8.9	2.4
女性 20歳～29歳	24	20.8	75.0	4.2	—
30歳～39歳	22	36.4	50.0	13.6	—
40歳～49歳	33	24.2	69.7	6.1	—
50歳～59歳	56	26.8	66.1	7.1	—
60歳～69歳	38	34.2	57.9	2.6	5.3
70歳以上	29	10.3	75.9	10.3	3.4
男性 20歳～29歳	15	40.0	53.3	6.7	—
30歳～39歳	16	18.8	62.5	18.8	—
40歳～49歳	32	15.6	68.8	15.6	—
50歳～59歳	42	19.0	66.7	11.9	2.4
60歳～69歳	27	—	85.2	11.1	3.7
70歳以上	23	—	82.6	4.3	13.0

問24 - ① 【問24で、「1. ある」と答えた人にお聞きします。】

それはなぜですか。(〇はいくつでも)

女性では、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」(67.3%)の割合が最も高く、次いで「家事、育児ができて当たり前と言われる」(51.9%)、「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(51.9%)となっています。

男性では、「「なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる」(72.7%)の割合が最も高く、次いで「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」(36.4%)、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」(22.7%)、「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる」(22.7%)となっています。

単位：%

区分	N (件)	なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる	仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	家事、育児ができて当たり前と言われる	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	その他	無回答
全体	79	55.7	15.2	54.4	6.3	7.6	13.9	10.1	36.7	38.0	17.7	1.3
女性	52	46.2	9.6	67.3	—	1.9	1.9	13.5	51.9	51.9	17.3	1.9
男性	22	72.7	18.2	22.7	18.2	22.7	36.4	—	—	4.5	18.2	—

問24-1 その他回答

夫の家(〇〇家)の人間になったという昔ながらの意識を持たれること

家事をして当たり前、感謝がない。

男だから仕事面で優遇されているから。

育児や介護、家事の大変さを理解していない。

明らかに、どちらかの性を募集しているのに、募集広告にはそれが明記できないので、無駄に応募することになるので、明確に求める人材を明記してほしい。

女性はこうあるべき、男性はこうあるべき、という考えが蔓延している。そういう考えが子どものころからあるので、それを払拭しない限りは難しい。ランドセルしかり、制服しかり。

どうしても出産・育児で一時的にキャリアが止まったり、転職しづらいため。

愛想を求められる。

私が務めている会社では男尊女卑があります。女性という理由で仕事に付けないことや、お茶くみ等は必ず女性にさせられます。男性職員に時間があり持っていこうとしても、上司からの指示で女性が持つてくるようにと言われました。

過去に長時間労働。

女の子の方が、両親に理不尽な事をされても軽く見られる。自分の所有、持ち物として扱われる。

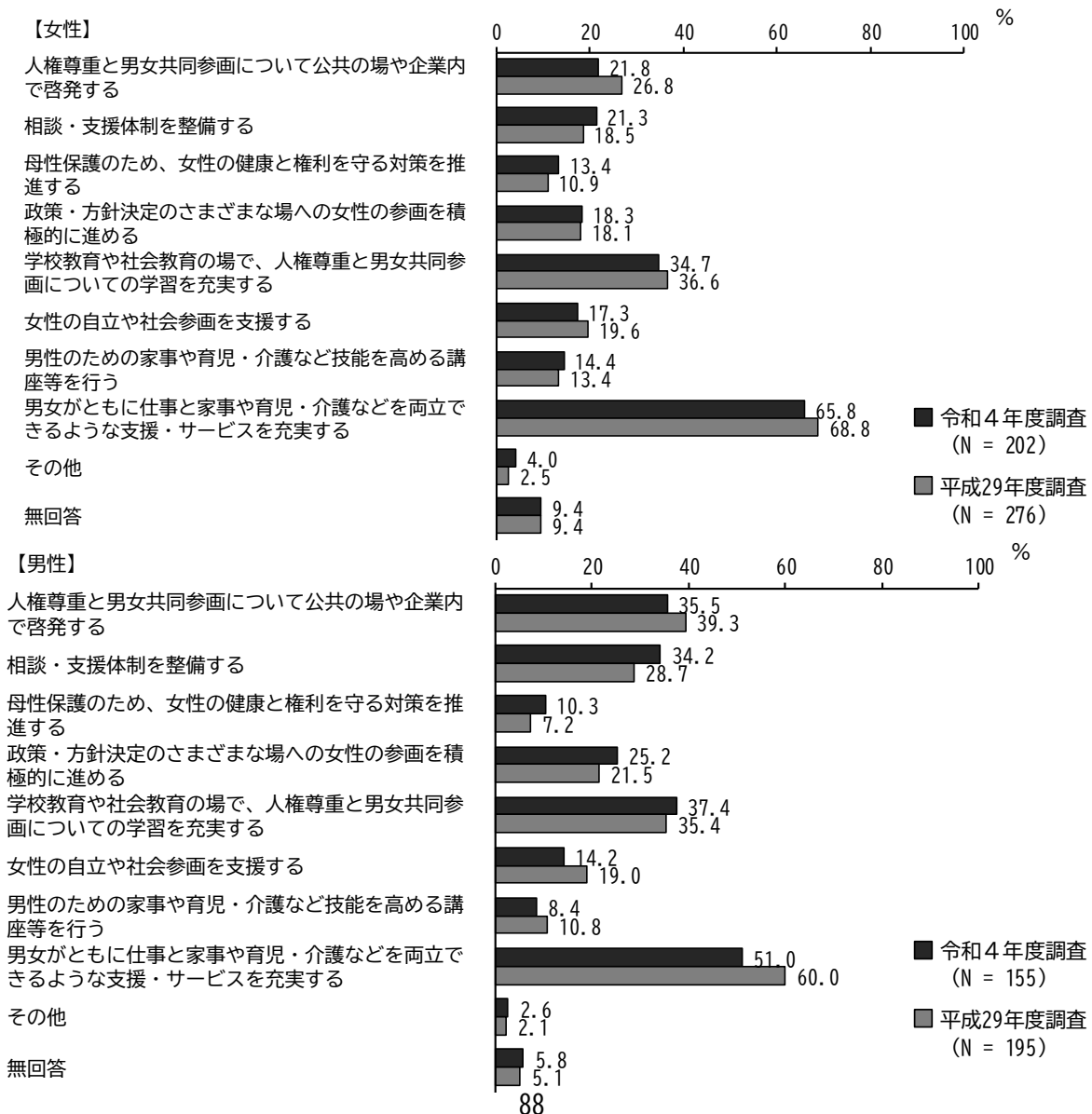
9 行政への要望について

問25 男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(〇は主なもの3つ以内)

女性では、「男女がともに仕事と家事や育児・介護などを両立できるような支援・サービスを充実する」(65.8%)の割合が最も高く、次いで「学校教育や社会教育の場で、人権尊重と男女共同参画についての学習を充実する」(34.7%)、「人権尊重と男女共同参画について公共の場や企業内で啓発する」(21.8%)となっています。

男性では、「男女がともに仕事と家事や育児・介護などを両立できるような支援・サービスを充実する」(51.0%)の割合が最も高く、次いで「学校教育や社会教育の場で、人権尊重と男女共同参画についての学習を充実する」(37.4%)、「人権尊重と男女共同参画について公共の場や企業内で啓発する」(35.5%)となっています。

平成29年度調査と比較すると、女性は「人権尊重と男女共同参画について公共の場や企業内で啓発する」の割合が減少しています。男性は「相談・支援体制を整備する」の割合が増加しています。一方、「男女がともに仕事と家事や育児・介護などを両立できるような支援・サービスを充実する」の割合が減少しています。



問 25 その他回答
選択的夫婦別姓など、男・女関係なく個として存在していることを意識できるような制度。
男女の平等という考えが広まること。
男性だから〇〇、女性だから〇〇といった法整備をしないこと。
もっと幼い段階から男女の平等性や、きちんとした性教育をし、自他を尊重できるような人間を育ててほしい。良い学歴を得るための教育より、人間性を高める教育に時間を費やしてもらいたかった。
海外のように働く時間を減らす取り組みをしない限り、そもそも取り組める時間がないので、相談施設を作るよりも、まずは時間を自由に使えることが必要。
保育所等の施設の拡充。
男性の自覚を高める推進。
大人になってから意識を変えるのは難しいので、小さいうちから教えて行くことに力を注いだ方がいいのではないのでしょうか。

その他2件